

2020 年度入試状況分析



国公立大分析 〈文部科学省発表確定志願者数+独自日程〉

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

- 国公立大全体では前年度8年ぶりに増加したが、再び減少して、志願者数は45万人を下回った
- 国立大は9年連続減少、公立大は5年ぶりに減少
- 予定されていた大学入試改革を前にした不安とセンター試験平均点ダウンを色濃く反映した志願状況

②系統別志願状況

- 工学系は微減に留まるものの、全ての系統で減少

③地区別志願状況

- 四国は前期・後期とも増加、他に増加した地区は北海道の前期のみ

④データネット目標ライン別志願者数集計

- 前期、後期は全てのグループが減少

⑤2段階選抜実施状況

- 第1段階選抜不合格者数は全日程で大幅減少
- 不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では一橋大

⑥志願者数が多い大学

- 大学全体の志願者数が7,000人以上だった大学は11大学で、前年度より4大学減少
- 志願者数最多は5年連続で千葉大

⑦増減が目立った大学

- 増加数最多は島根県立大、減少数最多は山口大

⑧難関国立10大学志願状況

- 前期…10大学全てが減少
- 後期…募集人員が多い、北海道大、神戸大、九州大は全て減少

⑨医学部医学科志願状況

- 前期は6年連続減少、後期は2年ぶりに減少

⑩大学別志願状況

① 志願状況全体概況

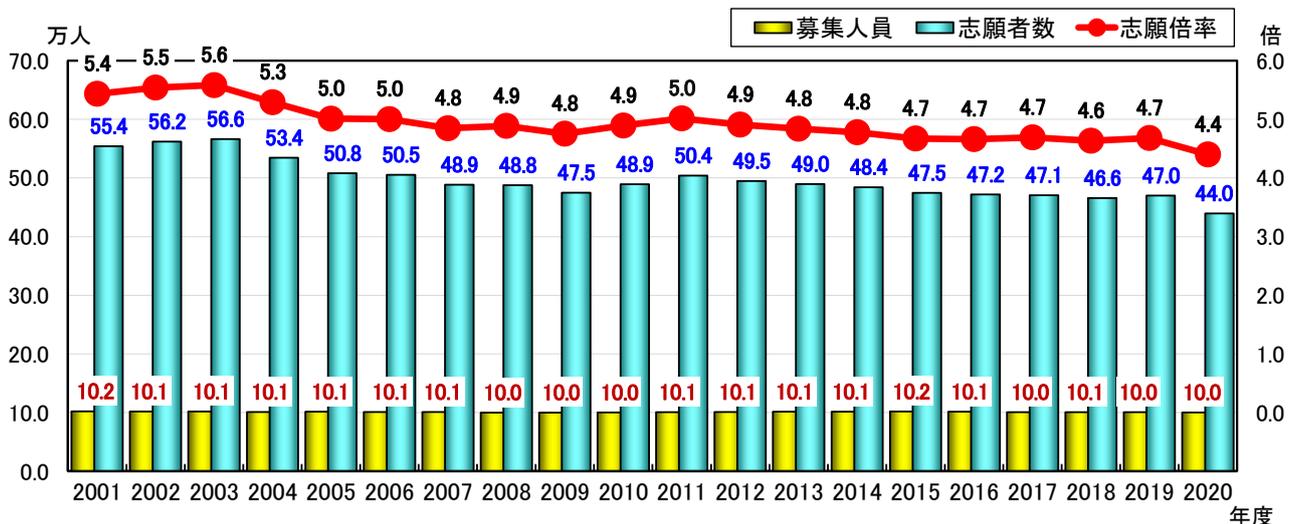
□ 一般選抜志願者数は再び減少へ

文部科学省が2月20日に発表した2020年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大の2大学発表の確定志願者数を合計すると、志願者数は443,066人で、前年度と比べて30,492人(94)の減少でした。前年度は2011年度以来8年ぶりに増加しましたが、再び減少に転じ、志願者数は45万人を下回る結果となりました。募集人員も国公立大全体で217人減少しましたが、志願倍率は4.70倍→4.41倍と0.29ポイントダウンし、4.5倍を下回りました。このように、当初は2021年度入試からの導入が予定されていた大きな入試改革への不安とセンター試験の平均点ダウンの影響を色強く反映した出願動向となったことが特徴です。

〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2020年度					2019年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,828	182,772	2.86	-11,753	94	64,031	194,525	3.04
	後期	14,168	124,420	8.78	-11,208	92	14,335	135,628	9.46
	合計	77,996	307,192	3.94	-22,961	93	78,366	330,153	4.21
公立	前期	16,223	60,280	3.72	-3,730	94	16,102	64,010	3.98
	後期	3,572	40,667	11.38	-3,319	92	3,648	43,986	12.06
	中期	2,355	31,426	13.34	-261	99	2,310	31,687	13.72
	独自	363	3,501	9.64	-221	94	300	3,722	12.41
	合計	22,513	135,874	6.04	-7,531	95	22,360	143,405	6.41
合計	前期	80,051	243,052	3.04	-15,483	94	80,133	258,535	3.23
	後期	17,740	165,087	9.31	-14,527	92	17,983	179,614	9.99
	中期	2,355	31,426	13.34	-261	99	2,310	31,687	13.72
	独自	363	3,501	9.64	-221	94	300	3,722	12.41
	合計	100,509	443,066	4.41	-30,492	94	100,726	473,558	4.70

〔志願者数推移〕（独自日程除く）



□ 国立大は9年連続減少、公立大は5年ぶりに減少

【設置別】 国立大……前期は11,753人(94)、後期は11,208人(92)といずれも減少しました。この結果、国立大全体では22,961人(93)の減少で、9年連続減少となりました。

公立大……中期が261人(99)の微減でしたが、後期3,319人(92)、前期3,730人(94)、独自221人(94)といずれもはっきりと減少しました。公立大全体では7,531人(95)の減少で、5年ぶりの減少となりました。センター試験の平均点ダウンは、公立大志願者にも影響したことがわかります。なお、千歳科学技術大が2019年4月から公立大へ移管しましたが、

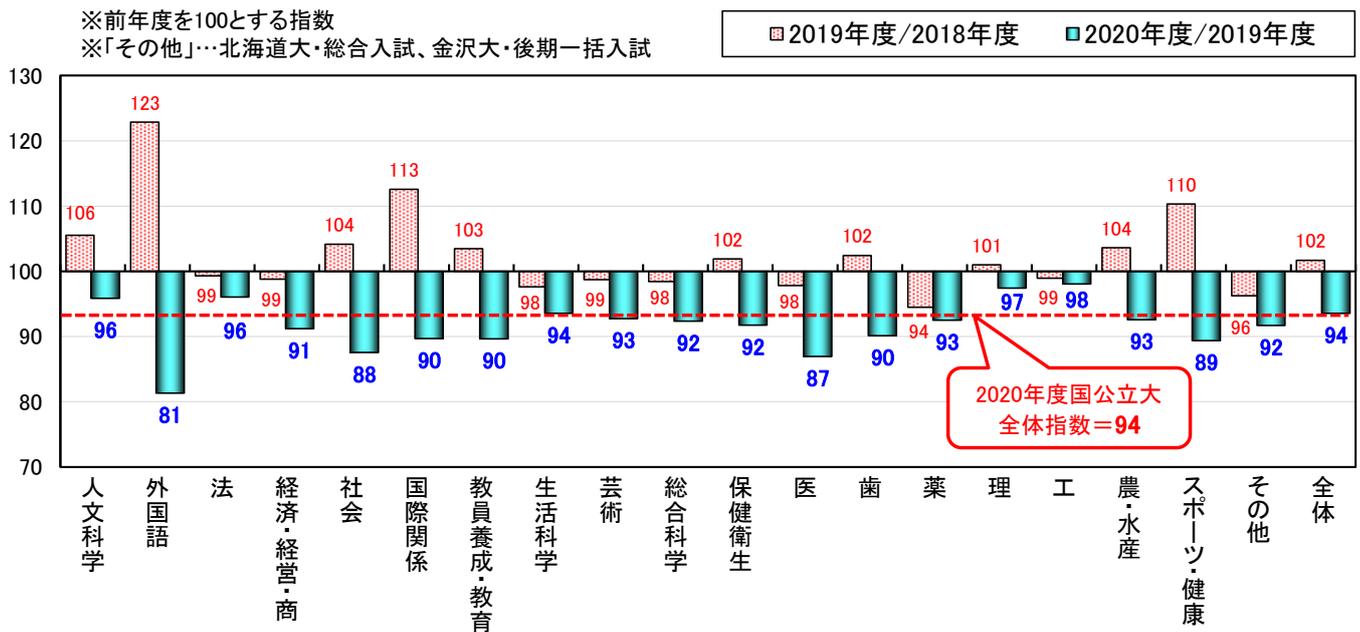
その志願者数は前期が209人、中期は575人の計784人に留まりました。

【日程別】前期……募集人員は前年度並ですが、志願者数は15,483人(94)減少したため、志願倍率は3.23倍→3.04倍と0.19ポイントダウンしました。

後期……志願者数は14,527人(92)の減少で、後期廃止の大学もあり、募集人員は243人(99)減少しましたが、志願倍率は9.99倍→9.31倍と0.68ポイントダウンしました。募集人員が少ないことから、センター試験での目標ラインが前期に比べて高くなるため、センター試験の平均点ダウンで後期への出願を断念した受験生が多くなりました。

②系統別志願状況

□工学系は微減に留まるものの、全ての系統で減少



工(98)は微減に留まりましたが、他の系統はいずれもはっきりと減少しました。なお、2019年4月から公立大へ移管した公立千歳科学技術大を除くと工は(97)のやや減少となります。また、ここ数年みられてきた「文高理低」の傾向はすっかり姿を消しました。

文系では、外国語(81)は前年度4年ぶりに増加が大幅増加だった反動で減少しました。また、経済・経営・商(91)はオリンピック・パラリンピック後に予想される経済指標の後退、昨今の厳しい国際情勢等への不安を反映した系統への人気低下の影響で、2年連続減少となりました。文系では、しっかりと固定層に支えられている人文科学(96)、このところの低い人気で下げ止まり感のある法(96)の減少率が小さくなりました。社会(88)、国際関係(90)は前年度増加の反動がみられました。なお、国際関係は募集人員が少なく、高倍率になりやすいことも敬遠される要因となりました。

理系では、農・水産(93)は模試動向でみられた系統への不人気と前年度の反動でやや減少しましたが、理(97)、工(98)は国公立大全体の減少率より小さく、理・工系の人気上昇で志願者数を維持しました。

メディカル系では、医(87)が6年連続減少となりました。これは、入学定員の増加で間口が広がり、現役合格率がアップしたことで既卒志望者が減少していることから、全体の医の志望者が減少していること、さらに理系成績上位の受験生の志望が理・工系に移ったことが要因です。また、医の易化により志望変更による流入が減少している歯(90)も減少しました。薬(93)は、薬剤師過剰への不安から2年連続減少しました。保健衛生(92)は比較的センター試験の目標ラインが低い地方公立大での設置が多く、センター試験の平均点ダウンの影響により国公立大への出願自体を断念した層がいた影響がみられました。

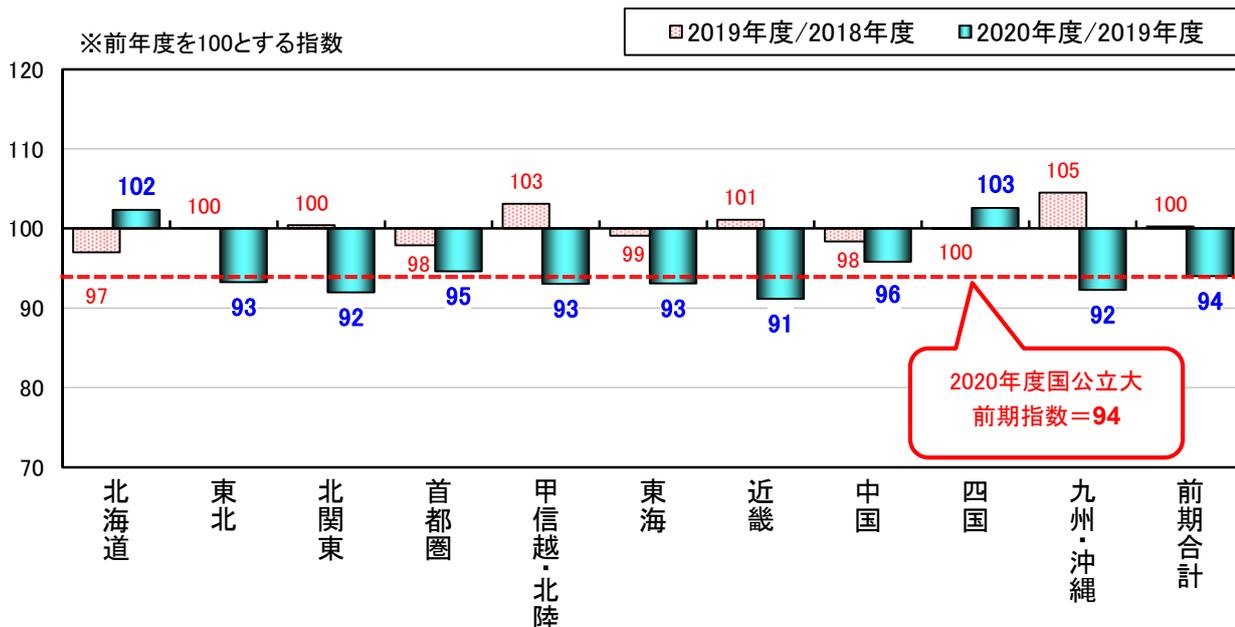
文理いずれからも志願者がいる系統では、オリンピック・パラリンピック効果が薄れたスポーツ・健康(89)、教育を取り巻く厳しい環境から敬遠された教員養成・教育(90)は、いずれも前年度の反動も加わって減少となりました。

③地区別志願状況

□四国は前期・後期とも増加、他に増加した地区は北海道の前期のみ

〔地区別志願者指数〕

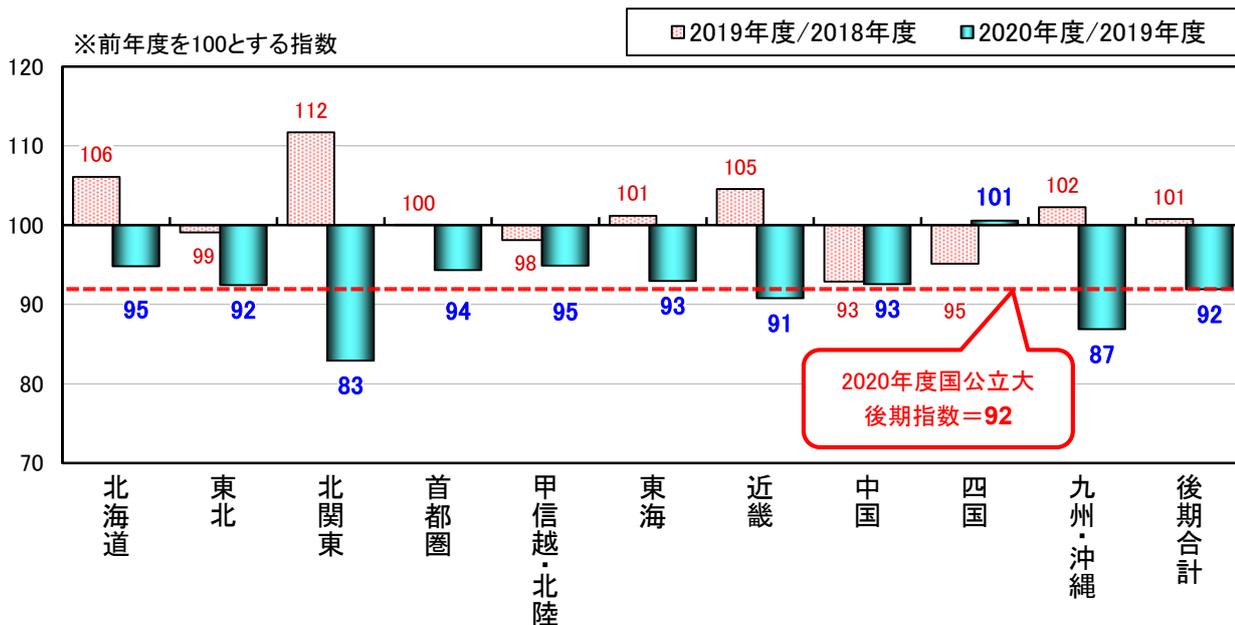
〈前期日程〉



- 北海道(102)…………… 2019年4月より公立大へ移管となった公立千歳科学技術大を除いた12大学中7大学が減少。この公立千歳科学技術大を除いても(101)の微増。志願者数では、室蘭工業大(+393人)、釧路公立大(+270人)の増加数が大きく、北海道大(-369人)の減少数が大きかった。また指数では、釧路公立大(166)、室蘭工業大(149)、帯広畜産大(121)などが大幅増加。一方で、旭川医科大(76)、小樽商科大(84)などが大幅減少。
- 東北(93)…………… 17大学中12大学が減少。志願者数では、増加数が大きかった大学はなく、東北大(-429人)、弘前大(-298人)、岩手県立大(-280人)、福島大(-252人)、福島県立医科大(-205人)の減少数の多さが目立った。また指数でも、増加が目立った大学はなく、福島県立医科大(65)、岩手県立大(70)などの大幅減少、福島大(87)、弘前大(88)、東北大(91)の減少が目立った。
- 北関東(92)…………… 10大学中8大学が減少。志願者数では、高崎経済大(+219人)の増加数が大きく、筑波大(-574人)、宇都宮大(-222人)、茨城大(-209人)の減少数が大きかった。また指数では、高崎経済大(112)は前年度5年ぶりに減少した反動で増加。一方で、宇都宮大(86)、筑波大(88)、茨城大(91)、群馬大(91)は減少。
- 首都圏(95)…………… 19大学中15大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、東京都立大(-551人)、横浜市立大(-540人)、東京工業大(-432人)、埼玉大(-307人)、東京大(-224人)の減少数が大きかった。また指数では、増加した大学では、東京医科歯科大(106)が最も大きくなった。一方で、横浜市立大(79)は大幅減少。お茶の水女子大(88)、東京農工大(89)、東京工業大(90)、東京都立大(90)、埼玉大(91)などは減少。

- 甲信越・北陸(93)… 22 大学中、増加・減少とも各 11 大学だが、減少数の大きかった大学が多かったことで地区全体では減少。志願者数では、公立諏訪東京理科大(+689 人)の増加数が目立ち、前期内で 2 番目の増加数だった。一方で、信州大(-763 人)は、前期内で最も大きな減少数だった。富山大(-419 人)、富山県立大(-418 人)、山梨大(-376 人)、金沢大(-266 人)も減少数が大きかった。また指数では、公立諏訪東京理科大(254)、上越教育大(145)などが大幅増加。一方で、富山県立大(67)、山梨大(75)、信州大(82)などは大幅減少。
- 東海(93)…………… 14 大学中 10 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、静岡大(-339 人)、名古屋大(-314 人)の減少数が大きかった。また指数では、浜松医科大(113)などが増加、名古屋工業大(106)はやや増加。一方で、静岡大(89)などは減少。名古屋大(93)などはやや減少。
- 近畿(91)…………… 25 大学全てが減少。志願者数では、滋賀大(-490 人)、兵庫県立大(-424 人)、神戸大(-364 人)、大阪府立大(-333 人)、大阪市立大(-297 人)、和歌山県立医科大(-237 人)、大阪教育大(-228 人)、滋賀医科大(-206 人)、京都工芸繊維大(-203 人)の減少数が大きかった。また指数では、和歌山県立医科大(52)、滋賀医科大(62)、滋賀大(73)、兵庫県立大(80)、大阪府立大(85)などは大幅減少。大阪市立大(92)などは減少。
- 中国(96)…………… 16 大学中 10 大学が減少。志願者数では、島根県立大(+977 人)の増加数が目立ち、前期内で最も大きな増加数だった。島根大(+279 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+272 人)も増加数が大きかった。一方で、山口大(-586 人)の減少数が目立ち、前期内で 2 番目の減少数だった。これ以外に鳥取大(-560 人)、広島大(-479 人)、県立広島大(-336 人)、公立鳥取環境大(-270 人)、尾道市立大(-215 人)の減少数が大きかった。また指数では、島根県立大(201)が倍増、山陽小野田市立山口東京理科大(143)、島根大(115)などは大幅増加。一方で、鳥取大(78)、山口大(84)などは大幅減少。
- 四国(103)…………… 9 大学のうち 6 大学が増加。志願者数では、徳島大(+309 人)の増加数が大きかったが、減少数が目立った大学はなかった。また指数では、高知工科大(115)などが大幅増加。徳島大(114)などは増加。一方で、高知大(92)は減少。
- 九州・沖縄(92)… 23 大学のうち 19 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなかった。一方で、宮崎大(-519 人)、北九州市立大(-439 人)、鹿児島大(-380 人)、九州工業大(-266 人)、福岡県立大(-231 人)、九州大(-225 人)の減少数が大きかった。また指数では、九州歯科大(66)、宮崎大(74)、九州工業大(80)などは大幅減少。

〈後期日程〉



- 北海道(95)…………… 10 大学中 6 大学が減少。志願者数では、帯広畜産大(+270 人)の増加数が大きく、旭川医科大(-342 人)、北海道大(-220 人)は減少数が大きかった。また指数では、帯広畜産大(278)は倍増以上の激増。一方で、旭川医科大(56)、小樽商科大(74)などは大幅減少。
- 東北(92)…………… 14 大学中 10 大学が減少。志願者数では、福島大(+368 人)の増加数が大きく、福島県立医科大(-542 人)、秋田大(-249 人)、岩手県立大(-215 人)の減少数が大きかった。また指数では、福島大(121)は大幅増加。一方で、岩手県立大(82)などは大幅減少。秋田大(87)、山形大(91)などは減少。
- 北関東(83)…………… 8 大学中 7 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、茨城大(-669 人)、群馬大(-638 人)、筑波大(-204 人)の減少数が大きかった。また指数では、群馬大(61)、宇都宮大(83)、茨城大(83)などが大幅減少。筑波大(87)は減少。
- 首都圏(94)…………… 16 大学中 13 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、横浜国立大(-430 人)、千葉大(-329 人)、東京学芸大(-227 人)の減少数が大きかった。また指数では、横浜国立大(228)はデータサイエンスのみ募集だが、倍増以上の激増。一方で、東京学芸大(83)などが大幅減少。横浜国立大(92)、千葉大(92)などは減少。
- 甲信越・北陸(95)… 15 大学の中 9 大学が減少。志願者数では、新潟大(+513 人)の増加数が大きく、一方で富山大(-706 人)は後期内で 2 番目の減少数だった。山梨大(-425 人)、信州大(-272 人)も減少数が大きかった。また指数では、新潟大(126)などが大幅増加。一方で、山梨大(82)、富山大(83)などは大幅減少。信州大(92)などは減少。
- 東海(93)…………… 13 大学中 10 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、岐阜大(-584 人)、名古屋市立大(-265 人)の減少数が大きかった。また指数では、名古屋市立大(82)、岐阜大(85)などは大幅減少。
- 近畿(91)…………… 21 大学中 19 大学が減少。志願者数では、増加数が目立った大学はなく、滋賀大(-682 人)、和歌山大(-338 人)、神戸市外国語大(-314 人)、神戸大(-280 人)、兵庫県立大(-205 人)の減少数が大きかった。また指数では、神戸市外国語大(69)、滋賀大(79)などは大幅減少。和歌山大(86)、兵庫県立大(88)などは減少。

- 中国(93)…………… 14 大学中 8 大学が減少。志願者数では、島根県立大(+700 人)、島根大(+618 人)の増加数が目立ち、それぞれ後期内で 1・2 番の増加数だった。一方で、山口大(-978 人)は後期内で最も大きい減少数だった。これ以外に鳥取大(-683 人)、県立広島大(-501 人)、岡山大(-302 人)の減少数が大きかった。また指数では、島根県立大(313)は 3 倍以上の激増。島根大(138)なども大幅増加。一方で、県立広島大(62)、山口大(72)などは大幅減少。
- 四国(101)…………… 9 大学のうち 5 大学が減少。志願者数では、徳島大(+314 人)の増加数、愛媛大(-202 人)の減少数が大きかった。また指数では、徳島大(117)などは大幅増加。一方で、高知工科大(86)、愛媛大(92)は減少。
- 九州・沖縄(87)……… 21 大学のうち 18 大学が減少。志願者数では、佐賀大(+246 人)の増加数が大きく、宮崎大(-699 人)、大分大(-683 人)、北九州市立大(-535 人)、鹿児島大(-460 人)、琉球大(-311 人)、九州工業大(-267 人)、長崎大(-219 人)、福岡県立大(-208 人)の減少数が大きかった。また指数では、佐賀大(109)は増加。一方で、大分大(69)、宮崎大(77)、北九州市立大(78)など大幅減少。

<中期日程>

2019 年 4 月より公立大へ移管となった公立千歳科学技術大を除いた中期 20 大学中 11 大学が減少。志願者数では、公立諏訪東京理科大(+812 人)、下関市立大学(+344 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+269 人)の増加数が大きく、兵庫県立大(-431 人)、長野県立大(-417 人)、長野大(-340 人)、都留文科大(-327 人)、公立小松大(-278 人)、静岡県立大(-249 人)の減少数が大きかった。また指数では、公立諏訪東京理科大(188)は激増、山陽小野田市立山口東京理科大(115)などは大幅増加。一方で、長野県立大(53)、長野大(72)、公立小松大(75)、静岡県立大(75)などは大幅減少。

<独自日程>

国際教養大(86)は前年度大幅増加の反動で減少。新潟県立大(99)は微減だが、新設の国際経済を除くと(74)の大幅減少。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	増加	室蘭工業大	+393 人	理工(149)は改組 2 年目で、大幅増加。(システム理化学)(209)は倍増以上。 2016 年度から前年度の反動による増減の継続で大幅増加。志願者数が 600 人を超えるのは 2007 年度ぶり。
		釧路公立大	+270 人	
後期	増加	帯広畜産大	+270 人	3 年ぶりに増加。2 学科とも激増。
	減少	旭川医科大	-342 人	医(医)(48)は募集人員減少のためほぼ半減。

○東北

前期	減少	岩手県立大	-280 人	ソフトウェア(33)は激減、社会福祉(81)も大幅減少。
		福島県立医科大	-205 人	医(医)(59)は第 1 段階選抜基準が厳しくなったことから大幅減少。募集人員増加により志願倍率は 6.8 倍→3.3 倍にダウン。
後期	増加	福島大	+368 人	開設 2 年目の農(62)は大幅減少、理工(96)はやや減少だが、人文社会(150)の大幅増加が影響。
	減少	福島県立医科大	-542 人	医(医)が募集停止のため激減。医(看護)(86)だけでは 23 人の減少。
		岩手県立大	-215 人	ソフトウェア(71)、総合政策(75)の大幅減少が影響。

○北関東

前期	減少	群馬県立女子大	-154 人	3年ぶりに減少。文(71)は大幅減少、国際コミュニケーション(98)は微減。
後期	減少	茨城大	-669 人	3年ぶりに減少。工(65)、人文社会科学(79)が大幅減少、理(95)はやや減少。
		群馬大	-638 人	社会情報(123)を除く3学部で大幅減少。特に、宇都宮大と合同で共同教育を設置し、募集人員を減少したため、前年度の教育と比較すると共同教育(42)の大幅減少が目立った。

○首都圏

前期	減少	横浜市立大	-540 人	2年連続減少。学部改組2年目の国際教養(73)、国際商(84)は大幅減少、理(90)は減少。その他の医(72)、データサイエンス(85)は大幅減少。
後期	減少	東京学芸大	-227 人	大幅減少。課程(類)別では、(養護)(325)、(特別支援)(120)を除き減少。特に、(中等)(60)、(初等)(79)は大幅減少。

○甲信越・北陸

前期	増加	公立諏訪東京理科大	+689 人	公立化2年目で認知度が上がり激増。学科別では、特に(機械電気工)(350)が3.5倍の激増。
	減少	信州大	-763 人	大幅減少。医(医)(60)は募集人員減少もあり、大幅減少。農(73)は2年連続減少、繊維(88)は3年連続減少。
		富山県立大	-418 人	3年ぶりに減少。工(81)は2年連続大幅減少。開設2年目の看護(38)は激減で志願倍率も6.7倍→2.6倍にダウン。
		山梨大	-376 人	3年ぶりに減少。全学部で大幅減少。
		山梨県立大	-163 人	人間福祉(106)はやや増加で2年連続増加。その他の2学部は減少で、国際政策(45)は半減以下だった。
		長野大	-151 人	公立化3年目で大幅減少。社会福祉(37)が激減で、その他の2学部は増加。
後期	増加	新潟大	+513 人	3年ぶりに増加。農(263)は5年ぶりに増加で2.5倍以上の激増。理(230)は3年ぶりに増加で激増。工(196)は3年ぶりに増加でほぼ倍増。医(保健)(166)は4年ぶりに大幅増加。
	減少	富山大	-706 人	3年ぶりに減少。都市デザイン(113)を除く8学部で減少。特に、工(57)の大幅減少が目立った。
		山梨大	-425 人	工(119)以外は全て減少。特に、生命環境(58)の大幅減少が目立った。
中期	増加	公立諏訪東京理科大	+812 人	公立化2年目で認知度が上がり大幅増加。特に、(機械電気工)(243)は倍以上の激増。
	減少	長野県立大	-417 人	公立化3年目で大幅減少。2学部とも大幅減少で、グローバルマネジメント(50)、健康発達(59)の大幅減少。
		長野大	-340 人	公立化3年目で大幅減少。企業情報(66)、環境ツーリズム(68)、社会福祉(80)の大幅減少が影響。
		公立小松大	-278 人	公立化3年目で大幅減少。全学部減少で、国際文化交流(65)、保健医療(77)は大幅減少。

○東海

後期	減少	名古屋市立大	-265 人	総合生命理(125)を除く3学部が減少。人文社会(69)の大幅減少が目立った。
中期	減少	静岡県立大	-249 人	系統の人気低下で薬(薬)(64)は大幅減少。

○近畿

前期	減少	滋賀大	-490 人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。全学部で大幅減少。
		兵庫県立大	-424 人	社会情報科学(101)を除く4学部が大幅減少。環境人間(67)の大幅減少が目立った。
		大阪府立大	-333 人	現代システム(71)、地域保健(76)の大幅減少が影響し、3年ぶりに減少。
		和歌山県立医科大	-237 人	2学部とも大幅減少。医(医)(44)は前年度の反動による増減が継続。
		大阪教育大	-228 人	教育(教育協働)(75)の大幅減少が影響し、2年ぶりに減少
		滋賀医科大	-206 人	2学科とも減少。医(医)(56)は大幅減少で5年連続減少。
		京都工芸繊維大	-203 人	大幅減少し、3年連続減少。
後期	増加	奈良県立医科大	+172 人	医(医)のみの募集だが、大幅増加で3年ぶりに増加。
	減少	滋賀大	-682 人	3学部全てが前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		神戸市外国語大	-314 人	外国語(イスパニア)(112)を除くその他の学科はいずれも大幅減少。

○中国

前期	増加	島根県立大	+977 人	全学科・方式で大幅増加し、前年度大幅減少の反動もありほぼ倍増。
		山陽小野田市立山口東京理科大	+272 人	学科別では、(機械工)〈B方式〉(98)を除く5方式が大幅増加。
	減少	山口大	-586 人	9学部のうち6学部が減少。特に、工(67)の大幅減少が目立った。
		鳥取大	-560 人	4学部全てが減少。医(保健)(48)、工(76)の大幅減少が影響。
		県立広島大	-336 人	改組により募集人員がそれぞれ減少した生物資源科学(50)、地域創生(60)の影響で大幅減少。志願者数は3年ぶりに1,000人を下回った。
		公立鳥取環境大	-270 人	環境(60)、経営(77)はいずれも大幅減少。経営は2年連続大幅減少。
		尾道市立大	-215 人	2年ぶりに減少。経済情報(52)はほぼ半減だが、芸術文化(134)は大幅増加と対照的。
後期	増加	島根県立大	+700 人	2学部とも3倍以上の激増。人間文化(320)は2年連続大幅増加。総合政策(308)は前年度の反動による増減が継続。
		島根大	+618 人	総合理工(208)、教育(203)の激増が目立った。
	減少	山口大	-978 人	全学部で減少。共同獣医(87)を除くその他の学部はいずれも大幅減少。
		鳥取大	-683 人	全学部で減少し、2年連続減少。廃止の医(医)を除いても(83)の大幅減少。志願者数は2,000人を下回った。
		県立広島大	-501 人	改組により募集人員が減少した地域創生(35)、生物資源科学(63)はいずれも大幅減少。保健福祉(100)は前年度並だが募集人員減少で志願倍率は10.0倍→13.1倍にアップ。
岡山大	-302 人	3年連続減少。環境理工(144)、法(114)を除くその他の学部はいずれも減少。		
中期	増加	山陽小野田市立山口東京理科大	+269 人	2学部とも増加し、2年ぶりに増加。工(134)は3学科全てで大幅増加。

○四国

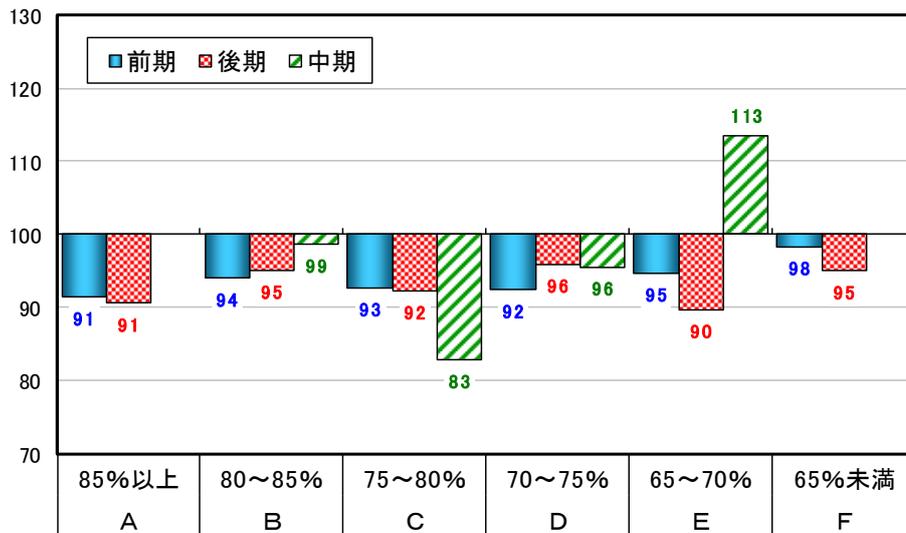
前期	増加	高知工科大	+164 人	3年ぶりに増加。システム(150)の大幅増加が影響。
後期	増加	徳島大	+314 人	専攻・コース別では総合科学(社会総合科学)(88)を除くその他の専攻・コースはいずれも増加。
		高知県立大	+153 人	2年連続増加し、志願倍率も17.6倍→24.9倍にアップ。文化(179)、看護(151)の大幅増加が影響。

○九州・沖縄

前期	減少	宮崎大	-519 人	教育(128)を除く4学部が減少し、4年ぶりに減少。農(48)、医(医)(53)のほぼ半減が影響。
		九州工業大	-266 人	3年ぶりに減少。情報工(72)、工(89)と2学部とも減少。
		福岡県立大	-231 人	人間社会(56)の大幅減少が影響。6年ぶりに志願者数が500人を下回った。
後期	減少	宮崎大	-699 人	5学部全てが減少し、前年度の反動による増減が継続。
		大分大	-683 人	2年ぶりに減少。全学部で減少し、福祉健康科学(92)を除く4学部が大幅減少。
		北九州市立大	-535 人	文(107)を除く4学部が大幅減少。特に、外国語(57)、経済(58)が影響。
		鹿児島大	-460 人	水産(107)を除くその他の学部が減少。医(保健)(44)は大幅減少だが、廃止の医(保健/看護)を除くと(183)の激増。
		九州工業大	-267 人	2学部とも大幅減少で2年連続減少。
		福岡県立大	-208 人	全学科で大幅減少。志願倍率は16.1倍→10.9倍にダウン。
		宮崎公立大	-175 人	人文(63)のみの募集だが、大幅減少で3年ぶりに減少。志願者数は300人を下回った。

④ データネット目標ライン別志願者数集計

□ 前期、後期は全てのグループが減少



左記のグラフは、2020 年度のデータネット（駿台予備学校／ベネッセコーポレーション主催、センター試験自己採点集計）において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン（B判定ライン、合格可能性60%）を基にして、学部単位（医学科は別集計）で得点率により6つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

もともと、募集人員の少なく全体の志願動向を反映しない中期のEグループ(113)は増加しましたが、募集人員の多い前期、後期では全てのグループで減少しました。これは、センター試験の平均点ダウンの影響による弱気な出願、いわゆる「安全志向」が強まったことが大きく影響しました。

前期では、全グループが減少しましたが、合格目標ラインの低いEグループ(95)、Fグループ(98)の減少率は小さくなりました。

後期でも、全グループが減少しました。Aグループ(91)は医学部医学科の系統の不人気に影響しました。また、Eグループ(89)は茨城大工学部、大分大理工学部などが大幅減少となったことが影響しました。

公立大のみの中期は、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向がありますので、単純に動向を示すことが難しいので、参考としてご覧ください。

⑤ 2 段階選抜実施状況

□ 第 1 段階選抜不合格者数は全日程で大幅減少
 不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では一橋大

[2 段階選抜実施状況 (不合格者数)]

	前期				中期・後期				合計			
	2020年度	2019年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	増減数	指数
国立大	1,730	2,265	-535	76	1,879	2,978	-1,099	63	3,609	5,243	-1,634	69
公立大	408	1,395	-987	29	503	765	-262	66	911	2,160	-1,249	42
合計	2,138	3,660	-1,522	58	2,382	3,743	-1,361	64	4,520	7,403	-2,883	61

[2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学]

順位	前期				中期・後期			
	2020年度		2019年度		2020年度		2019年度	
	1	東京大	605	首都大学東京	981	一橋大	298	山梨大
2	東京都立大	326	東京大	813	岐阜大	268	一橋大	366
3	大阪大	186	一橋大	172	奈良県立医科大	226	首都大学東京	320
4	高知大	149	新潟大	168	山梨大	206	旭川医科大	300
5	熊本大	113	熊本大	144	東京都立大	195	福島県立医科大	277
6	大分大	90	和歌山県立医科大	124	東京工業大	162	岐阜大	261
7	浜松医科大	88	信州大	123	福井大	142	山口大	230
8	秋田大	87	宮崎大	121	旭川医科大	127	鹿児島大	177
9	一橋大	62	弘前大	118	宮崎大	111	大分大	171
10	千葉大	61	大分大	107	東京医科歯科大	105	京都大	169
全体	2,138		3,660		2,382		3,743	

2 段階選抜の第 1 段階選抜不合格者数は、国公立大全体の志願者数減少の影響と第 1 段階選抜を嫌う慎重な出願により、前期、中期・後期ともに 1,300 人以上の減少となりました。

前期では 2,138 人で 1,522 人(58)の大幅減少となりました。国立大は 535 人(76)の大幅減少、公立大は 987 人(29)と激減しました。大学別では、東京大が全科類で 2 段階選抜を実施し、2 年ぶりに不合格者数が最多となりました。2 番目に多かったのは東京都立大ですが、志願者数が減少したことにより不合格者も 981 人→326 人と大幅減少しました。3 番目に多かったのは大阪大で、前年度は医(医)の 8 人のみでしたが、今年度は医(医)と外国語で実施され、186 人へ大幅増加しました。

中期・後期では 2,382 人で 1,361 人(64)の大幅減少でした。国立大(63)、公立大(66)はいずれも 35%前後の大幅減少でした。大学別では、一橋大が不合格者数最多でしたが、68 人(81)の大幅減少で、300 人を下回りました。2 番目に多かったのは岐阜大でしたがほぼ前年度並でした。3 番目に多かった奈良県立医科大は医(医)で実施され、不合格者は 55 人→226 人の大幅増加でした。

なお、2021 年度入試での出願にあたっては、2 段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第 1 段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。さらに、センター試験が共通テストに変わること、従来とは第 1 段階選抜通過ラインが大きく変化する可能性があります。したがって、正確な自己採点が例年以上に求められることとなります。

⑥ 志願者数が多い大学

□ 志願者数最多は、5年連続で千葉大

〔志願者数が7,000人以上だった大学〕

大学	2020年度			2019年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度
千葉大	2,084	10,212	4.9	2,086	10,611	5.1	-399	96	99
北海道大	2,436	9,752	4.0	2,438	10,341	4.2	-589	94	105
神戸大	2,311	9,315	4.0	2,313	9,959	4.3	-644	94	100
東京大	2,960	9,259	3.1	2,960	9,483	3.2	-224	98	98
大阪府立大	1,165	8,089	6.9	1,165	8,408	7.2	-319	96	99
東京都立大	1,194	7,885	6.6	1,206	8,593	7.1	-708	92	104
京都大	2,635	7,699	2.9	2,636	8,025	3.0	-326	96	97
横浜国立大	1,366	7,581	5.5	1,366	8,016	5.9	-435	95	98
大阪大	2,878	7,462	2.6	2,878	7,536	2.6	-74	99	96
富山大	1,429	7,312	5.1	1,428	8,437	5.9	-1,125	87	100
九州大	2,335	7,241	3.1	2,341	7,548	3.2	-307	96	98

上の表は、大学全体の志願者数が、文部科学省発表の最終確定値で7,000人以上だった国公立大をまとめたものです。志願者数が7,000人以上だった大学は11大学で、前年度より4大学少なくなり、11大学全てが減少しました。11大学のうち、第4位の東京大、第9位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第7位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。また、第5位の大阪府立大は中期でも募集している大学です。

2020年度入試での志願者数が最も多かったのは、5年連続で千葉大でした。志願者数は国公立大で唯一1万人を上回り、2010年度から11年連続で志願者数が1万人を上回りました。

第2位の北海道大は、3年ぶりに志願者数が減少しました。前期、後期とも募集人員の多い学部、方式の減少数が大きかったことが影響しましたが、それでも2年連続で全国第2位の志願者数となりました。

第3位の神戸大は、3年連続減少で、減少率はこの3年で最も大きくなりました。難関大の中では全体的にセンター試験の比重が大きめであり、さらに個別試験が標準的な出題であることから、センター試験で思ったような得点をとれなかった層が敬遠したことが要因です。

第5位に大阪府立大、第6位に東京都立大という大都市圏の公立大が入っています。いずれも募集人員は1,200人にも満たない大学ですが、一部の学部で大阪府立大では中期での募集を、東京都立大ではセンター試験3教科型の募集を行っています。こういった、他の国公立大や私立大との併願者を多く獲得できる入試方式を実施している効果もあり、受験生数が多い大都市圏に立地する利点と難易度が最難関大に次ぐ位置ということも有利に働き、志願者数が多くなりました。

大都市圏以外の大学では、第10位の富山大は2015年3月の北陸新幹線の金沢への延伸により、首都圏からの所要時間が大きく短縮されたことにより志願者数が増加していましたが、1割以上減少したことで4年ぶりに8,000人を下回りました。

⑦増減が目立った大学

□増加数最多は島根県立大、減少数最多は山口大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 6 大学で前年度より 5 大学減少しました。設置別では、前年度は国立 8 大学、公立 3 大学でしたが、今年度は国立 3 大学、公立 3 大学と国立大の減少が目立ちました。

増加数が最も多かった大学は島根県立大で、1,677 人(229)増加しました。前年度の大幅減少の反動に加えて、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低いことで、どうしても国公立大への進学を考える受験生の流入を招きました。次いで、公立諏訪東京理科大までが 1,000 人以上の増加でした。系統への人気が高まっている工学部の単科大学であることに加えて、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低いことや全国から志願者が集まりやすい中期での募集も行ったことが増加要因です。

一方で、500 人以上減少した大学は 25 大学で前年度より 19 大学多くなりました。設置別では、前年度は国立 4 大学、公立 2 大学でしたが、今年度は国立 18 大学、公立 7 大学となりました。減少数が最も多かった大学は山口大で、1,564 人(78)減少しました。全学部で減少し、特に、工(69)、人文(75)、医(76)、経済(80)、国際総合科学(83)、教育(84)といった学部が大幅減少しました。以下、鳥取大、宮崎大、滋賀大、富山大、兵庫県立大、信州大の上位 7 大学が 1,000 人以上の減少でした。これらの大学は、富山大を除くと前年度増加が目立った大学です。また新潟大を除くといわゆる「地元大」で、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低い大学です。どうしても、国公立大学への進学を考える受験生が前年度の志願状況をもとに敬遠したことが考えられます。2021 年度入試を目指す受験生には、単純に前年度の志願倍率をもとに出願校選択を行うことは、決してうまいやり方ではないことを確認してほしいと思います。

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
島根県立大	+1,677	229	78	2,974	1,297	前期、後期とも全国の国公立大で最も増加数が多かった。全学部で前期、後期とも大幅増加で、人間文化<後>(320)、総合政策<後>(308)の3倍を超える増加が影響。
公立諏訪 東京理科大	+1,501	210		2,870	1,369	前期、中期とも大幅増加。2学科とも大幅増加だが、工(機械電気工)<前>(350)は3.5倍、<中>(243)も2倍以上の激増。
島根大	+897	125	75	4,441	3,544	前期、後期とも大幅増加。法文<前>(153)、<後>(129)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、総合理工<後>(208)も前年度半減の反動で2倍以上の激増が影響。
徳島大	+623	115	95	4,671	4,048	前期は増加、後期は大幅増加。歯<前>(143)は募集人員増加と2年連続減少の反動で大幅増加。理工<前>(120)も募集人員増加と2年連続減少の反動で大幅増加。
新潟大	+620	112	92	5,974	5,354	前期はやや増加、後期は大幅増加。農<後>(263)は4年連続減少の反動で2.6倍の激増。理<後>(230)は2年連続減少の反動で2.3倍の激増。経済科学<後>(112)は経済からの学部改組と募集人員増加で増加。
山陽小野田市立 山口東京理科大	+541	123	66	2,933	2,392	前期、中期とも大幅増加。工は<前>(143)、<中>(134)とも前年度大幅減少の反動で大幅増加。薬<中>(103)は系統の人気低下もあり、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
山口大	-1,564	78	110	5,588	7,152	前期、後期とも大幅減少で、後期は全国の国公立大で1番、前期は2番目の多さだった。医(医)〈後〉(56)は募集人員減少と前年度倍増の反動で大幅減少。人文〈後〉(68)は2年連続増加の反動で大幅減少。
鳥取大	-1,243	76	108	3,850	5,093	前期、後期とも大幅減少。出願の際、学部により志望理由書や自己評価シートの提出が必要になったことが影響。また、医(保健)〈前〉(48)は前年度2.6倍の激増の反動でほぼ半減し、〈後〉(53)も大幅減少。
宮崎大	-1,218	76	116	3,893	5,111	前期、後期とも大幅減少。地域資源創成〈前〉(48)、農〈前〉(48)は半減以下、医(医)〈前〉(53)は前年度増加の反動でほぼ半減。地域資源創成〈後〉(44)は設置初年度から3年連続増加の反動で半減以下の大幅減少。
滋賀大	-1,172	77	129	3,865	5,037	前年度最も志願者数が増加した反動で前期、後期とも全学部が大幅減少。特に教育〈後〉(64)、経済〈前〉(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
富山大	-1,125	87	100	7,312	8,437	前期は減少、後期は大幅減少。工〈後〉(57)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。経済〈前〉(68)は系統の人気低下と3年連続増加の反動で大幅減少。
兵庫県立大	-1,060	85	111	5,800	6,860	前期は大幅減少、中期、後期は減少。開設2年目の社会情報科学〈中〉(46)の半減以下の大幅減少。
信州大	-1,035	86	105	6,383	7,418	前期は大幅減少、後期は減少。医(医)〈前〉(60)は募集人員減少と前年度大幅増加の反動で大幅減少、農〈後〉(55)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、経法〈後〉(70)は前年度2.5倍の激増の反動で大幅減少。
北九州市立大	-974	82	111	4,438	5,412	前期、後期とも大幅減少。外国語〈後〉(57)は前年度2倍以上増加の反動で大幅減少。法〈前〉(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
茨城大	-878	86	114	5,561	6,439	前期は減少、後期は大幅減少。工〈後〉(65)は前年度1.5倍増の反動で大幅減少。人文社会科学〈後〉(79)は2年連続増加の反動で大幅減少。
鹿児島大	-840	86	93	5,075	5,915	前期は減少、後期は大幅減少。募集人員減少の歯〈後〉(39)、共同獣医〈後〉(68)、教育〈前〉(79)などが大幅減少。
県立広島大	-837	64	95	1,492	2,329	前期、後期ともに大幅減少。生物資源科学〈前〉(50)は生命環境から学部改組、地域創生〈前〉(60)は経営情報、人間文化からの学部改組でいずれも募集人員減少となり大幅減少。
山梨大	-801	80	116	3,123	3,924	前期、後期とも大幅減少。生命環境〈後〉(58)は2年連続増加の反動で大幅減少。教育〈前〉(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。生命環境〈前〉(73)は2年連続増加の反動で大幅減少。
大分大	-789	82	133	3,578	4,367	前期はやや減少、後期は大幅減少。後期(69)は全ての学部で減少だが、医(看護)(52)、教育(57)、理工(68)は前年度増加の反動で大幅減少、経済(76)は系統の人気低下もあり3年連続減少。
筑波大	-778	88	109	5,806	6,584	前期、後期とも減少。前年度は増加した学群が多かったが、その多くが減少に転じ、特に理工〈後〉(78)、社会・国際〈前〉(80)の大幅減少が大きく影響。

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
群馬大	-776	76	110	2,452	3,228	前期は減少、後期は大幅減少。宇都宮大と合同で設置した共同教育が、<前>(61)、<後>(42)とも大幅減少。医(保健)<後>(58)の大幅減少も影響。
福島県立医科大	-747	41	135	528	1,275	前期、後期とも大幅減少。医<前>(59)は後期廃止により募集人員増加だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期は医の廃止と看護(86)が2年連続増加の反動で減少となったことが影響。
岐阜大	-734	88	92	5,595	6,329	前期はやや減少だが、後期が大幅減少。後期(85)は教育(75)の大幅減少、募集人員減少の医(医)(82)の大幅減少、工(88)の減少が影響。
東京都立大	-708	92	104	7,885	8,593	前期が減少、後期はやや減少。前期(90)は、法(69)が2年連続大幅増加の反動とセンター試験平均点がダウンした3教科型受験のため大幅減少。システムデザインは<前>(82)、<後>(73)ともに大幅減少。
広島大	-668	91	102	6,616	7,284	前期、後期ともに減少。医(医)<前>(82)が前年度大幅増加の反動で大幅減少したことが影響。教育<後>(86)は4年連続減少で8年ぶりに400人を下回った。
神戸大	-644	94	100	9,315	9,959	前期、後期ともにやや減少。前期は前年度と逆の増減の学部が多かった。特に経済(79)は4年連続増加の反動で大幅減少。後期は法(63)が3年連続増加の反動で大幅減少。
北海道大	-589	94	105	9,752	10,341	前期、後期ともにやや減少。前期は前年度と逆の増減の学部が多かった。特に法(66)は2年連続増加の反動で大幅減少。後期は教育(71)が3年連続増加の反動で大幅減少。
長野県立大	-545	61	169	848	1,393	前期、中期とも大幅減少。中期(53)は、グローバルマネジメント(50)が前年度約2.3倍増の反動で半減。
富山県立大	-542	70	121	1,283	1,825	前期、後期ともに大幅減少。前期(67)は、開設2年目の看護(38)が激減。後期(77)は、工(65)が大幅減少で2009年度以降初めて200人を下回った。
九州工業大	-533	80	100	2,131	2,664	前期、後期ともに大幅減少。2学部とも減少だが、情報工<前>(72)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、<後>(76)は大幅減少で2年連続減少。
東北大	-514	92	94	5,738	6,252	前期は減少、後期はやや減少。教育<前>(67)は2年連続増加の反動で大幅減少。理<後>(89)は、2年連続増加の反動から減少。

⑧難関国立 10 大学志願状況

□前期は 10 大学全てが減少

〔確定志願者数 前年度対比増減数〕

大学	年度	志願者数(最終確定値)								
		前期			後期			全体		
		人数	増減数	指数	人数	増減数	指数	人数	増減数	指数
北海道大	2020年度	5,474	-369	94	4,278	-220	95	9,752	-589	94
	2019年度	5,843	+10	100	4,498	+482	112	10,341	+492	105
	2018年度	5,833	+293	105	4,016	-80	98	9,849	+213	102
	2017年度	5,540	-198	97	4,096	-85	98	9,636	-283	97
	2016年度	5,738	+33	101	4,181	+52	101	9,919	+85	101
東北大	2020年度	4,384	-429	91	1,354	-85	94	5,738	-514	92
	2019年度	4,813	-429	92	1,439	+41	103	6,252	-388	94
	2018年度	5,242	+315	106	1,398	+242	121	6,640	+557	109
	2017年度	4,927	+27	101	1,156	-113	91	6,083	-86	99
	2016年度	4,900	-8	100	1,269	-211	86	6,169	-219	97
東京大	2020年度	9,259	-224	98				9,259	-224	98
	2019年度	9,483	-192	98				9,483	-192	98
	2018年度	9,675	+141	101				9,675	+141	101
	2017年度	9,534	+256	103				9,534	+256	103
	2016年度	9,278	-166	98				9,278	-3,106	75
東京工業大	2020年度	3,790	-432	90	512	+15	103	4,302	-417	91
	2019年度	4,222	-7	100	497	+28	106	4,719	+21	100
	2018年度	4,229	+62	101	469	-54	90	4,698	+8	100
	2017年度	4,167	+275	107	523	+14	103	4,690	+289	107
	2016年度	3,892	+89	102	509	+26	105	4,401	+115	103
一橋大	2020年度	2,490	-197	93	1,075	-48	96	3,565	-245	94
	2019年度	2,687	-248	92	1,123	-78	94	3,810	-326	92
	2018年度	2,935	+28	101	1,201	-376	76	4,136	-348	92
	2017年度	2,907	+167	106	1,577	+145	110	4,484	+312	107
	2016年度	2,740	-8	100	1,432	+59	104	4,172	+51	101
名古屋大	2020年度	4,422	-314	93	55	-12	82	4,477	-326	93
	2019年度	4,736	-16	100	67	+14	126	4,803	-2	100
	2018年度	4,752	+29	101	53	-7	88	4,805	+22	100
	2017年度	4,723	+4	100	60	-18	77	4,783	-14	100
	2016年度	4,719	-195	96	78	+13	120	4,797	-182	96
京都大	2020年度	7,347	-164	98	352	-162	68	7,699	-326	96
	2019年度	7,511	-350	96	514	+142	138	8,025	-208	97
	2018年度	7,861	-14	100	372	-115	76	8,233	-129	98
	2017年度	7,875	-154	98	487	+163	150	8,362	+9	100
	2016年度	8,029	-12	100	324	+324	-	8,353	+312	104
大阪大	2020年度	7,462	-74	99				7,462	-74	99
	2019年度	7,536	-331	96				7,536	-331	96
	2018年度	7,867	+470	106				7,867	+470	106
	2017年度	7,397	+60	101				7,397	-3,037	71
	2016年度	7,337	+74	101	3,097	+33	101	10,434	+107	101
神戸大	2020年度	5,569	-364	94	3,746	-280	93	9,315	-644	94
	2019年度	5,933	+299	105	4,026	-320	93	9,959	-21	100
	2018年度	5,634	-337	94	4,346	+293	107	9,980	-44	100
	2017年度	5,971	+195	103	4,053	-60	99	10,024	+135	101
	2016年度	5,776	+189	103	4,113	-286	93	9,889	-97	99
九州大	2020年度	5,014	-225	96	2,227	-82	96	7,241	-307	96
	2019年度	5,239	-7	100	2,309	-170	93	7,548	-177	98
	2018年度	5,246	+56	101	2,479	-276	90	7,725	-220	97
	2017年度	5,190	+95	102	2,755	+111	104	7,945	+206	103
	2016年度	5,095	+157	103	2,644	-70	97	7,739	+87	101
難関国立 10大学合計	2020年度	55,211	-2,792	95	13,599	-874	94	68,810	-3,666	95
	2019年度	58,003	-1,271	98	14,473	+139	101	72,476	-1,132	98
	2018年度	59,274	+1,043	102	14,334	-373	97	73,608	+670	101
	2017年度	58,231	+727	101	14,707	-2,940	83	72,938	-2,213	97
	2016年度	57,504	+153	100	17,647	-3,000	85	75,151	-2,847	96

2020 年度入試状況分析【国公立大】

2020 年度入試の難関国立 10 大学(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)の確定志願者数は 10 大学全てが減少し、全体では 3,666 人(95)の減少で 2 年連続減少しました。

日程別では、前期では 2,792 人(95)で 2 年連続減少しましたが、東京大(98)、京都大(98)、大阪大(99)はいずれも微減に留まりました。

後期では、募集人員が多い北海道大(95)、神戸大(93)、九州大(96)はいずれもやや減少でした。募集人員が少ない大学では、生命理工学院のみの募集の東京工業大(103)だけがやや増加で、東北大(94)は前年度の反動で減少しました。さらに、地域枠として募集する医(医)(82)のみの名古屋大と特色入試として募集する法(68)のみの京都大は、いずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少しました。

〔確定志願者指数 文理別前年度対比指数〕

大学	前期			後期			前期・後期 合計
	文系	理系	合計	文系	理系	合計	
北海道大	91	95	94	102	93	95	94
東北大	93	90	91	92	95	94	92
東京大	97	98	98				98
東京工業大		90	90		103	103	91
一橋大	93		93	96		96	94
名古屋大	85	97	93		82	82	93
京都大	98	98	98	68		68	96
大阪大	96	102	99				99
神戸大	97	91	94	81	100	93	94
九州大	102	94	96	101	94	96	96
難関大合計	95	95	95	91	96	94	95

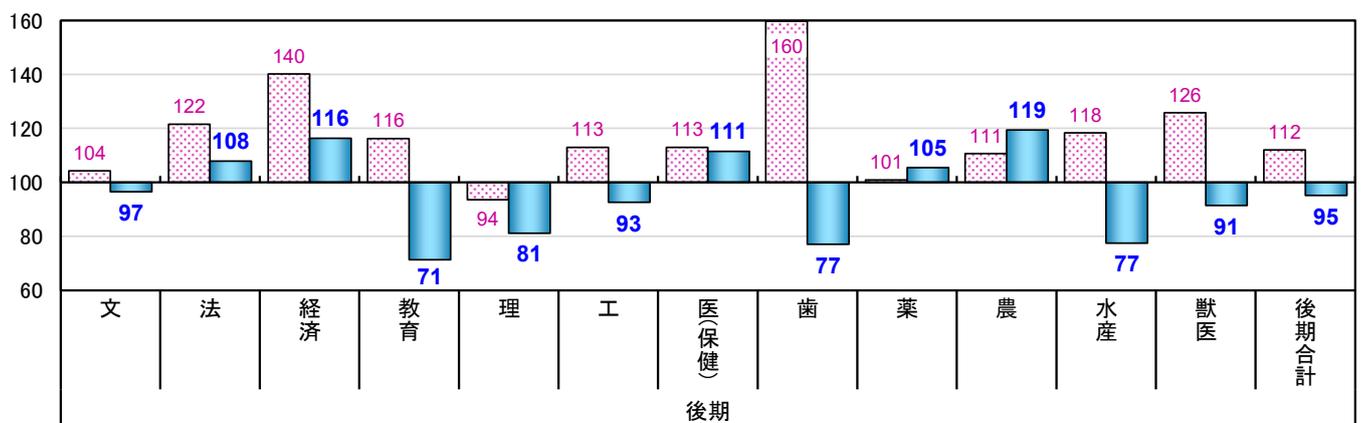
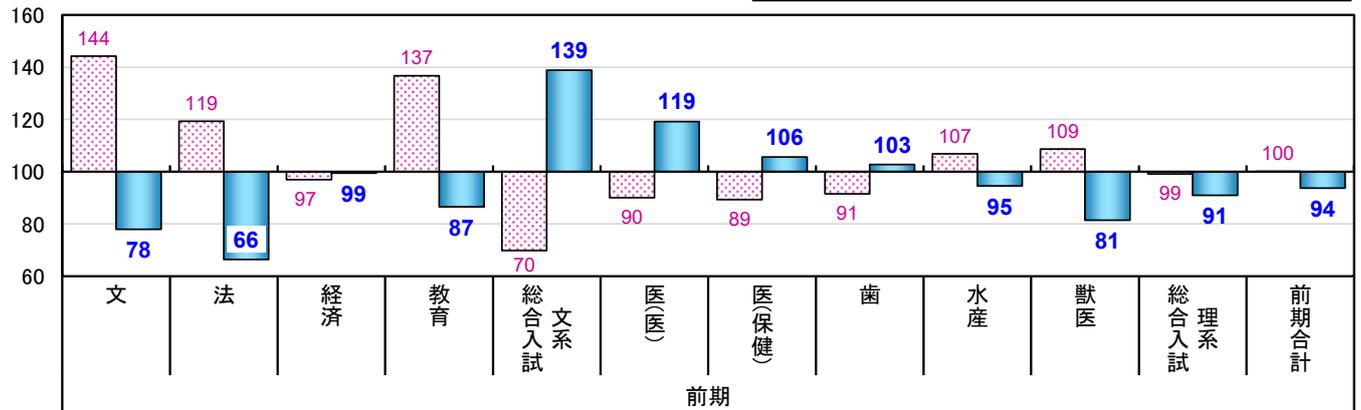
志願者数を文理別にみると、前期は大阪大・理系(102)、九州大・文系(102)を除き減少しました。一方で、後期は、いずれも比較的募集人員が多いことで最難関大からの併願先として狙われた北海道大・文系(102)、九州大・理系(101)、神戸大・理系(100)が微増でしたが、他は減少しました。また、一部の募集単位のみで募集する大学では、生命理工学院のみで募集する東京工業大・理系(103)がやや増加で 2 年連続増加しました。

[大学別志願状況]

北海道大：前期はやや減少、文、法、獣医が大幅減少 前期：-369人 後期：-220人

※前年度の志願者数を100とする指数

□2019年度/2018年度 □2020年度/2019年度



入試変更点 募集人員：〈A O〉および〈国際総合〉の合格者数が募集人員に満たなかった欠員分追加(2020年2月17日発表)
 工(環境社会工)〈後〉…49人→53人、工(応用理工系)〈後〉…34人→37人
 医(医)〈前〉…97人→102人、歯〈前〉…30人→32人、水産〈前〉…105人→111人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は369人(94)のやや減少。文理別では、文系は146人(91)の減少、理系は223人(95)のやや減少だった。前期では2段階選抜は実施されなかった。後期は220人(95)のやや減少。文理別では、文系は22人(102)の微増、理系は2年連続増加の反動で242人(93)のやや減少。

〈前期日程〉

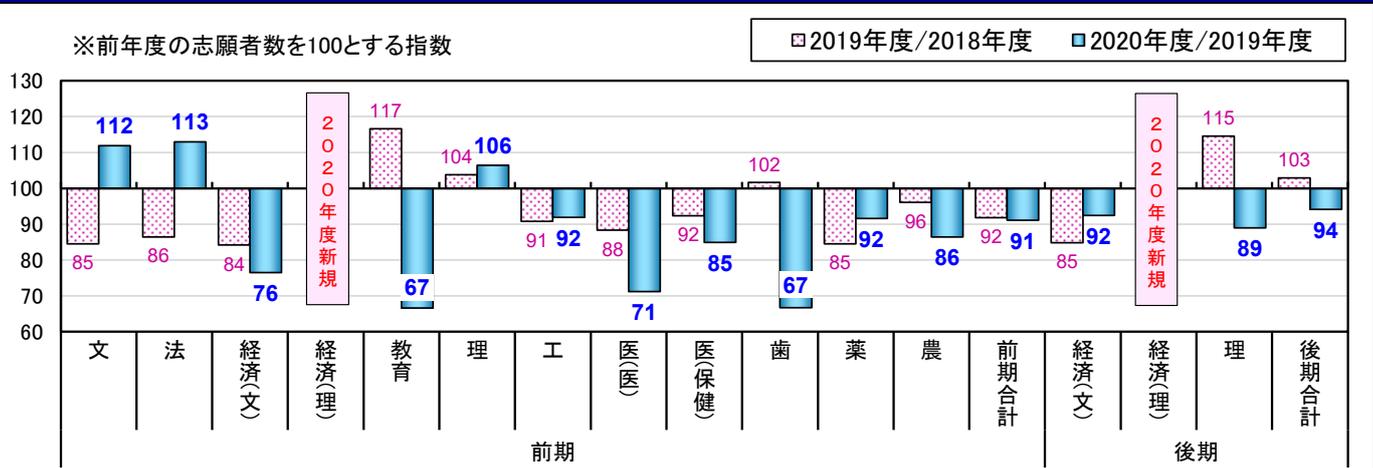
- 文(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。志願倍率も3.9倍→3.1倍にダウン。
- 法(66)は、前年度大幅増加で2年連続増加だった反動で大幅減少。志願倍率も3.00倍→1.99倍と2倍を下回った。
- 経済(99)は、微減だが2年連続減少。
- 教育(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 総合入試文系(139)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 総合入試理系(91)は、2年連続減少。選抜群別では、(化学重点)(103)のみやや増加だが、他の4つの選抜群は減少。特に、(総合科学)(79)、(数学重点)(82)は大幅減少。
- 医(医)(119)は大幅増加で、志願倍率も2016年度以来の高倍率となった。
- 医(保健)(106)は、前年度減少の反動でやや増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(152)、(保健/検査技術科学)(132)が大幅増加、一方で(保健/作業療法)(50)は半減した。
- 歯(103)は、やや増加で3年ぶりに増加。
- 水産(95)は、2年連続増加の反動でやや減少。
- 獣医(81)は、2年連続増加の反動で大幅減少。

〈後期日程〉

- 文(97)は、前年度やや増加の反動から、やや減少した。
- 法(108)は、前年度大幅増加の反動はなく、さらに増加。志願倍率も10.2倍→11.0倍にアップ。
- 経済(116)は、前年度の大規模増加の反動はなく、さらに大幅増加。志願倍率も11.0倍→12.8倍にアップ。
- 教育(71)は、前年度の大規模増加の反動から大幅減少。志願倍率も12.2倍→8.7倍にダウン。
- 理(81)は、前年度減少の反動はなく大幅減少で2年連続減少。学科・分野別では、(地球惑星科学)(100)が前年度と同人数で、これ以外の学科・分野は減少で、特に(化学)(69)、(生物科学/生物学)(74)、(数学)(82)の大幅減少が目立った。
- 工(93)は前年度増加の反動でやや減少。学科・分野別では、全学科が減少で機械知能工(88)の減少が目立った。

- 医(保健)(111)は、前年度増加の反動はなく2年連続増加。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(168)は大幅増加だが、他の2専攻は減少。
- 歯(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も21.8倍→16.8倍にダウン。
- 薬(105)は、やや増加で3年連続増加。
- 農(119)は、前年度増加に引き続いて大幅増加で、2年連続増加。志願倍率も7.7倍→9.2倍にアップ。
- 水産(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 獣医(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。

東北大：前期は前年度と同人数の減少、後期は3年ぶりに減少 前期：-429人 後期：-85人



入試変更点	選抜方法：経済<前><後>…理系入試新規実施 募集人員：経済<前>…185人→(文系)155人、(理系)10人 <後>…30人→(文系)30人、(理系)10人 理(化学系)<前>…43人→40人 理(物理系)<前>…75人→72人 医(医)<前>…105人→77人 薬<前>…60人→56人
-------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は、429人(91)の減少。文理別では、文系は102人(93)のやや減少、理系は327人(90)の減少。後期は、85人(94)のやや減少で3年ぶりに減少。

<前期日程>

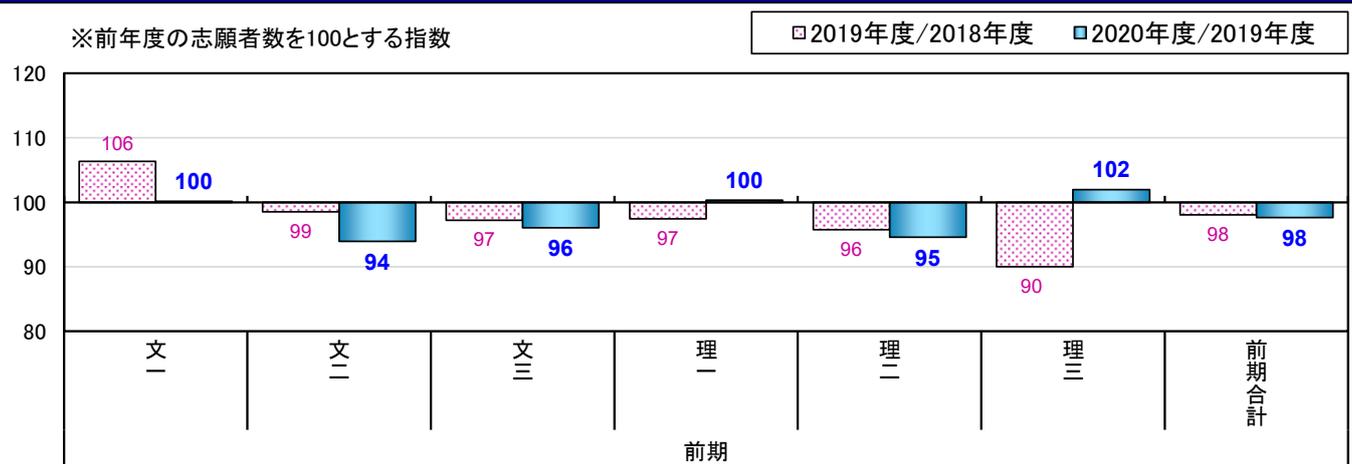
- 文(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 法(113)は、前年度減少の反動で増加。
- 経済(83)は、学部全体では前年度に続き大幅減少。系統への人気の陰りから(文系)(76)は大幅減少。新設の(理系)の志願倍率は3.1倍で(文系)の2.2倍を大きく上回った。
- 教育(67)は、2年連続大幅増加して、前年度は文系学部で唯一2段階選抜が実施された反動から30%以上の大幅減少。志願倍率も4.3倍→2.9倍へダウン。
- 理(106)は、やや増加で2年連続増加。系別では、生物系(126)が大幅増加、物理系(114)、数学系(112)が増加、一方で化学系(85)は大幅減少。
- 工(92)は、前年度減少の反動はなく2年連続減少。学科別では、(電気情報理工)(102)を除いて減少、特に(建築・社会環境)(72)は大幅減少。
- 医(医)(71)は、大幅減少で3年連続減少したが、募集人員が28人(前年度対比指数73)減少したので、志願倍率は3.4倍→3.3倍のわずかなダウンに留まり、予告倍率を超えたので全学部・学科で唯一2段階選抜が実施された。第1段階選抜の合格率は93.3%と厳しいものではなかった。
- 医(保健)(85)は、大幅減少で3年連続減少。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(67)、(保健/検査技術科学)(74)の2専攻の大幅減少が目立った。
- 歯(67)は、4年連続増加と前年度に2段階選抜が実施された反動で大幅減少。志願倍率も5.0倍→3.4倍にダウン。
- 薬(92)は、系統への不人気から前年度の大幅減少に続いて2年連続減少。
- 農(86)は、系統への不人気から2年連続減少。

<後期日程>

- 経済(105)は、学部全体では前年度大幅減少の反動もあってやや増加。(文系)(92)は減少して、志願倍率は14.3倍で第1段階選抜実施基準の15倍を超えなかったため、2段階選抜は実施されなかった。新設の(理系)の志願倍率は(文系)よりはるかに低い5.8倍だった。
- 理(89)は、前年度大幅増加の反動から減少。系別では、全ての系が減少で、特に(数学系)(79)、(化学系)(81)は大幅減少。

東京大：大学全体では微減で2年連続減少、合格者女子占有率アップ

前期：-224人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、224人(98)の微減で2年連続減少。文理別では、文科類が129人(97)のやや減少、理科類が95人(98)の微減で、文科類は6年ぶりの減少、理科類は2年連続減少。増加および減少した科類はそれぞれ3科類ずつだった。

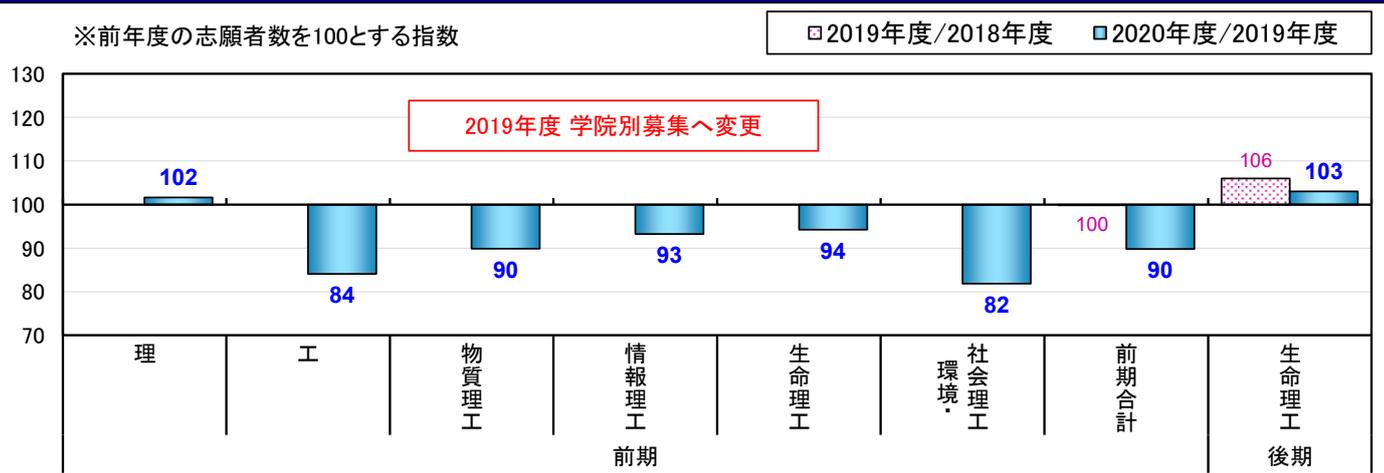
〈前期日程〉

- 文科一類(100)は、微増だが4年連続増加。
- 文科二類(94)は、系統への人気ダウンし、やや減少で2年連続減少。
- 文科三類(96)は、やや減少で4年連続減少。センター試験自己採点集計「データネット」における第1段階選抜通過予想ラインが文科類の中で最も高かったことから敬遠された。
- 理科一類(100)は、微増だが2年ぶりに増加。
- 理科二類(95)は、系統への人気も低く、やや減少で2年連続減少。
- 理科三類(102)は、微増だが4年ぶりに増加。反動とセンター試験自己採点集計「データネット」における第1段階選抜通過予想ラインが低かったことが影響。
- 第1段階選抜合格率 ※〈 〉内は合格者最低点
 文科一類…85.5%〈621点〉、文科二類…95.4%〈612点〉、文科三類…98.2%〈575点〉、文科類全体…92.9%
 理科一類…94.7%〈681点〉、理科二類…94.7%〈626点〉、理科三類…82.3%〈611点〉、理科類全体…93.7%
 - 文理別の合格率は、文科類全体は前年度よりも2.8ポイントアップ、理科類全体も1.4ポイントアップしたが、2年連続で理科類の方が高い合格率となった。
 - 第1段階選抜の合格者最低点は、最も高い理科一類でも得点率75.7%と東京大志望者にとっては低い得点に留まった。
- 第2次学力試験(前期日程)合格者最低点(※東京大発表数値を小数点第1位で丸めた数値)
 文科一類…343.9点、文科二類…337.6点、文科三類…338.9点
 理科一類…320.7点、理科二類…313.0点、理科三類…385.6点
 - 前年度最低点を上回ったのは理科三類のみ、文科三類の最低点が文科二類の最低点を上回ったのは2013年度以来。
- 合格者の属性
 - 全体の現役占有率は、67.2%(前年度比+0.6ポイント)だった。科類別の現役占有率は、文科三類(前年度比-0.3ポイント)、理科三類(前年度比-8.2ポイント)がダウン。
 - 出身校所在地別の占有率は、「東京+関東」が56.9%(前年度比-2.3ポイント)で前年度よりダウン、一方で近畿が13.7%(前年度対比+1.0ポイント)で前年度よりアップ。
 女子占有率は、18.5%(前年度比+1.6ポイント)で前年度よりアップ。推薦入試、外国学校卒業学生特別選抜、2020年9月入学生(PEAK)を加えると女子占有率が20%を超える可能性がある。

〈推薦入試〉 ※〔 〕内は前年度数値

- 募集人員100人程度に対して、志願者数は173人〔185人〕、合格者数は73人〔66人〕。
- 志願者数は173人と過去5回で2016年度、2017年度と並んで最も少なかったが、合格者数は2016年度に次ぐ2番目の多さだった。なお、2016年度は推薦入試導入初年度で既卒生合格者が多かったという特別の事情があった。
- 学部別合格者数：法…8人〔10人〕、経済…3人〔1人〕、文…5人〔3人〕、教育…7人〔8人〕、教養…5人〔4人〕
 工…23人〔22人〕、理…12人〔9人〕、農…3人〔4人〕、薬…3人〔1人〕、医(医)…3人〔4人〕
 医(健康総合科学)…1人〔0人〕
- 教育、教養、理、医(医)の4つの募集単位が募集人員を充足する合格者を発表した。
- 科類別合格者数：文科一類…8人〔11人〕、文科二類…4人〔1人〕、文科三類…15人〔14人〕
 理科一類…32人〔29人〕、理科二類…11人〔7人〕、理科三類…3人〔4人〕

東京工業大：前期合計は2年連続減少、志願者数3,700人台へ 前期：-432人 後期：+15人



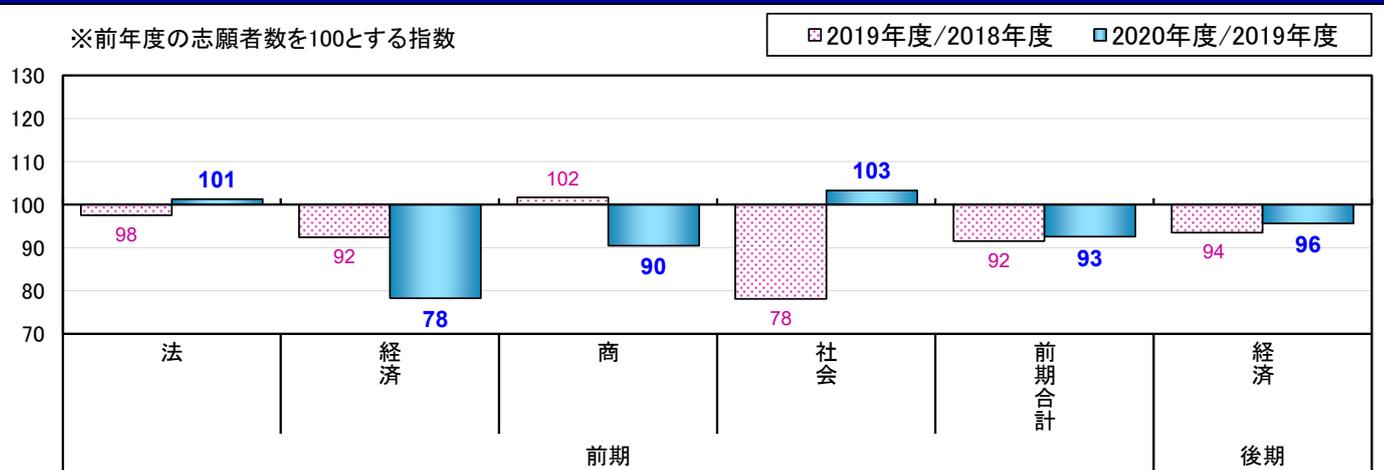
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は432人(90)の減少で2年連続減少。志願者数も3,700人台になった。後期は、生命理工のみの募集だが、15人(103)のやや増加ながら2年連続増加した。

〈前期日程〉

- 理(102)は、6つの学院の中で唯一の増加だが、微増にとどまった。
- 情報理工(93)は、前年度高倍率の反動でやや減少したが、それでも志願倍率は6つの学院で最も高倍率の9.1倍だった。
- 生命理工(94)は、前年度低倍率の反動はなく、さらに減少して志願倍率は6つの学院で最も低い2.3倍だった。
- 工(84)は、大幅減少で、減少数は6つの学院で最も大きくなった。
- 物質理工(90)は、志願倍率は前年度3.0倍と6つの学院で低いほうから2番目だったが、さらに減少して2.7倍までダウンした。
- 環境・社会理工(82)は、大幅減少で、減少率は6つの学院で最も大きくなった。志願倍率は、前年度は6つの学院で2番目に高倍率の4.8倍だった反動もあり、3.9倍までダウンした。

一橋大：文系人気の陰りから前期・後期ともにやや減少 前期：-197人 後期：-48人



入試変更点 | 学費改定：535,800円(年額)→642,960円(年額)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

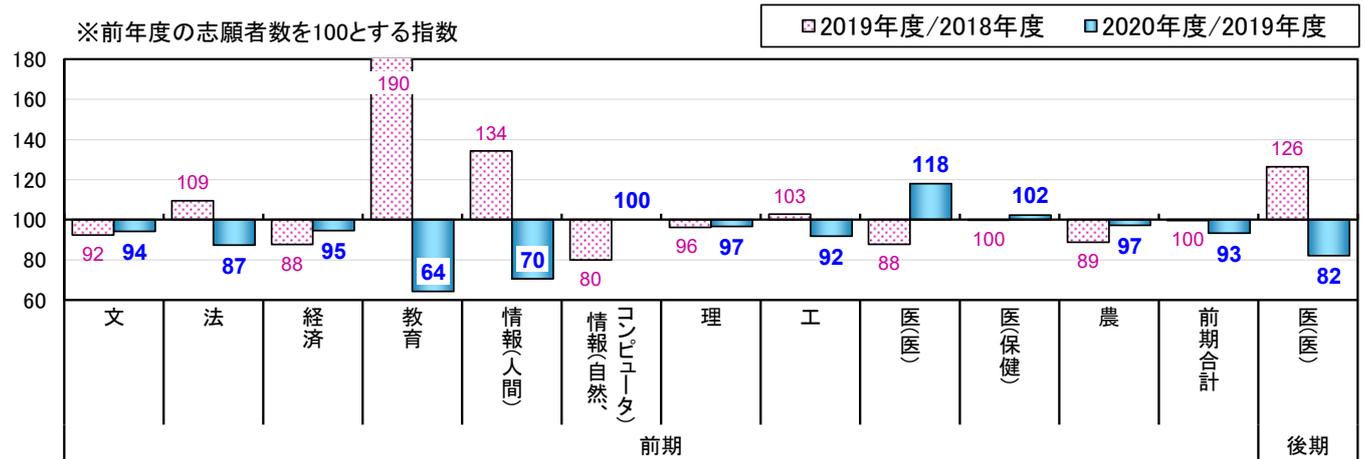
大学全体では、前期は197人(93)のやや減少で2年連続減少。学部別では、系統への人気に陰りのある経済(78)が大幅減少、商(90)は減少。社会(103)はやや増加。法(101)は微増。経済のみ募集の後期は、48人(96)のやや減少で、2年連続減少となった。前期・後期合計では、(94)のやや減少だが、文系人気の陰りに加えて、私立大との学費差が小さい文系単科大学だけに学費値上げの影響もあったと思われる。

〈前期日程〉

- 法(101)は、わずか7人の微増だが3年ぶりの増加。
- 経済(78)は、大幅減少で2年連続減少。2013年度以来の500人台の志願者数となった。
- 商(90)は、減少して、2015年度以来の700人台の志願者数となった。
- 社会(103)は、やや増加で、前年度の反動による増減が継続。
- 第1段階選抜は、法と社会で実施され、合格率は法が96.3%、社会が93.7%で、いずれも競争は厳しくなかった。

名古屋大：前期は文系が大幅減少、理系はやや減少

前期：-314人 後期：-12人



入試変更点 第1段階選抜実施：医(医)〈前〉 約3.5倍→実施しない

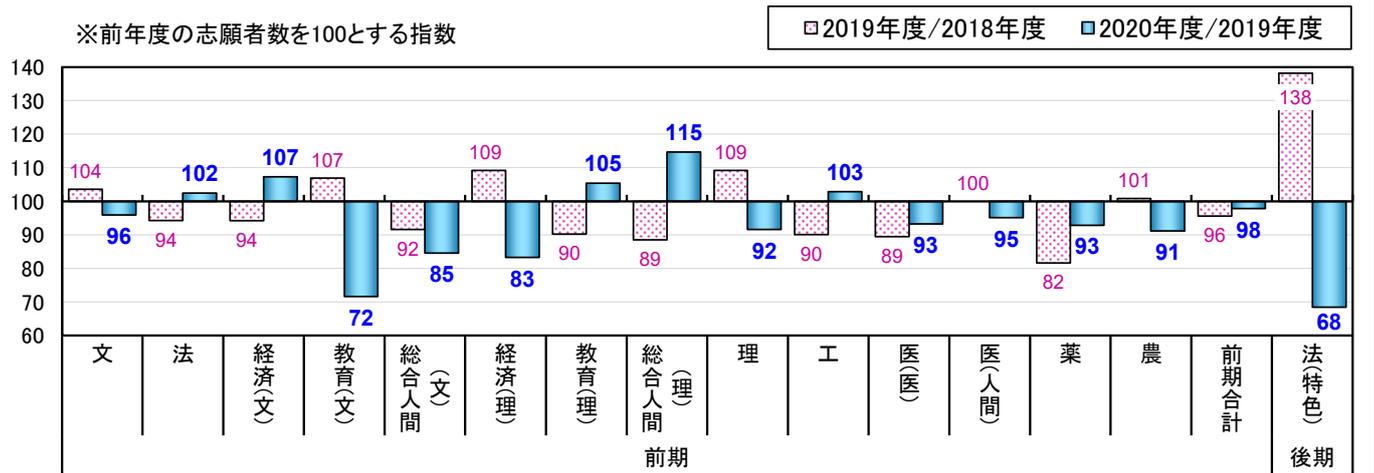
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は314人(93)のやや減少。文理別では、文系は203人(85)の大幅減少、理系は111人(97)のやや減少。後期は医(医)(愛知県内枠)のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で、12人(82)の大幅減少。志願倍率も13.4倍→11.0倍にダウン。

〈前期日程〉

- 文(94)は、やや減少で2年連続減少。
- 法(87)は、前年度増加の反動で減少。
- 経済(95)は、やや減少で2年連続減少。
- 教育(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も4.5倍→2.9倍にダウン。
- 情報(88)は、2年連続減少。学科別では、前年度の反動から(人間・社会情報)(70)は大幅減少、(コンピュータ科学)(108)は増加。一方で、(自然情報)(88)は2年連続減少。
- 理(97)は、2年連続やや減少。
- 工(92)は、2年ぶりに減少。学科別では、系統への人気が高い(電気電子情報工)(107)のみやや増加で、他の6学科は減少。特に、(物理工)(79)、化学生命工(84)の2学科が大幅減少。
- 医(医)(118)は、2段階選抜の廃止と前年度減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.8倍→3.3倍にアップ。
- 医(保健)(102)は、前年度並。専攻別では、(保健/作業療法)(127)、(保健/検査技術)(117)は大幅増加、一方で、(保健/放射線技術科学)(92)、(保健/理学療法)(92)は減少。
- 農(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(応用生命科学)(105)がやや増加。他の2学科は減少で、(生物環境科学)(88)の減少が目立った。

京都大：前期合計では7年連続減少、法のみ後期が大幅減少 前期：-164人 後期：-162人



入試変更点

募集人員：農(応用生命科学)…<前>44人→43人、<特色>3人→4人
 ※特色入試入学手続き数確定に伴う変更(2020年2月21日発表)
 経済(文系)…<前>180人→187人、医(医)…<前>102人→105人
 医(人間健康科学)…<前>70人→72人、薬…<前>74人→77人

受入学生数(目安)：

※国際コース入学手続き数確定に伴う変更(2019年12月18日発表)
 工(地球工)…<前>152人→172人

※特色入試入学手続き数確定に伴う変更(2020年2月21日発表)
 工(地球工)…<前>172人→173人、(建築)…<前>78人→80人、(物理工)…<前>230人→232人
 (電気電子工)…<前>123人→127人、(工業化学)…<前>228人→231人
 農(地域環境工)…<前>34人→36人、(森林科学)…<前>54人→56人
 (食品生物科学)…<前>30人→32人

COMMENT ※〔 〕内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は164人(98)の微減で7年連続減少。文理別では、文系は58人(98)の微減で2年連続減少、理系も106人(98)の微減で6年連続減少。特色入試として実施の法のみ募集の後期は、162人(68)の大幅減少で、前年度の反動による大幅な増減が継続。

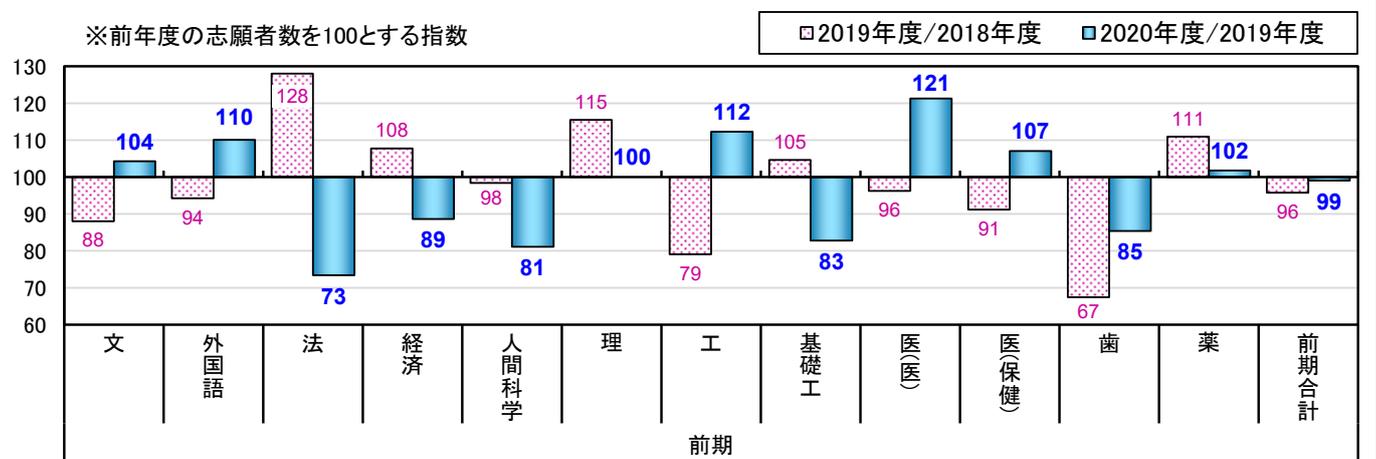
- ＜前期日程＞
- 文(96)は、やや減少で4年ぶりに減少。
 - 法(102)は、微増だが前年度の反動による増減が継続。
 - 経済は、(文系)(107)は前年度の反動でやや増加、(理系)(83)は前年度増加し第1段階選抜も厳しかった反動で大幅減少。
 - 教育は、(文系)(72)は前年度第1段階選抜が実施されたことで、大幅減少となり2年ぶりに減少、(理系)(105)はやや増加で3年ぶりに増加。
 - 総合人間は、(文系)(85)は大幅減少で2年連続減少、(理系)(115)は前年度まで3年連続減少の反動とセンター試験は地歴公民の得点のみを利用するという極端な個別試験重視の配点のためセンター試験失敗組の流入により大幅増加。
 - 理(92)は、前年度増加の反動で減少。
 - 工(103)は、前年度の反動でやや増加した。学科別では、模試動向通りに系統人気の高い(情報)(114)、比較的難易度の低い(地球工)(108)の2学科の増加が目立った。一方で、減少は系統への不人気により6年連続減少の(工業化学)(96)と(電気電子工)(97)の2学科だが、やや減少に留まった。
 - 医(医)(93)は、難関大医学部敬遠の動きから2年連続減少、志願者数は前年度に続いて300人を下回った。
 - 医(人間健康科学)(95)は、学科改組後の難易度アップが周知されて慎重な出願となり、2018年度入試で大幅減少となったが、その後も反動はなく前年度の同数に続き、今年度はやや減少。
 - 薬(93)は、系統への不人気を反映して、やや減少で2年連続減少。
 - 農(91)は、系統への不人気を反映して減少、志願者数は700人を下回った。
 - 第1段階選抜の合格率では、経済(理系)が実施予告倍率3.5倍を4.2倍まで緩和したが、それでも89.1%と唯一90%未満の厳しい結果だった。なお、総合人間(理系)は2年ぶりに第1段階選抜を実施した。一方で、教育(文系)は2年ぶりに第1段階選抜を実施しなかった。

＜特色入試＞ ※〔 〕内は前年度数値

- 後期募集の法を除くと、募集人員138人〔137人〕に対して、志願者数は563人〔535人〕、合格者数は107人〔116人〕。志願倍率は4.1倍〔3.9倍〕でわずかにアップした。
- 学部・学科・コース別の合格者数は以下のとおり。
 文…10人〔10人〕、経済…18人〔22人〕、教育…6人〔6人〕、総合人間…5人〔5人〕、理…5人〔6人〕
 工(建築)…0人〔1人〕、(工業化学)…4人〔4人〕、(情報)…3人〔1人〕、(電気電子工)…3人〔4人〕
 (物理工)…3人〔4人〕、(地球工)…2人〔2人〕
 医(医)…2人〔4人〕、(人間健康科学/先端看護科学)…19人〔20人〕、(人間健康科学/先端リハビリテーション科学-理

学療法)…4人〔5人〕、(人間健康科学／先端リハビリテーション科学—作業療法)…5人〔4人〕
 薬(薬科学)…4人〔1人〕、(薬)…0人〔0人〕
 農(食料・環境経済)…3人〔3人〕、(資源生物科学)…4人〔3人〕、(応用生命科学)…4人〔3人〕
 (地域環境工)…1人〔2人〕、(森林科学)…1人〔4人〕、(食品生物科学)…1人〔2人〕

大阪大：前期合計では微減だが2年連続減少、医(医)、工、外国語は増加 前期：-74人



入試変更点 選抜方法：医(医)〈前〉…個別配点数<200>+理2<200>+外<200>=総点<600>
 →数<500>+理2<500>+外<500>+面=総点<1,500>
 第1段階選抜基準：医(医)〈前〉
 …センター試験の成績が総配点900点中720点以上の者のうちから募集人員の約2.6倍までの者
 →センター試験の成績が総配点900点中630点以上の者のうちから募集人員の約3倍までの者

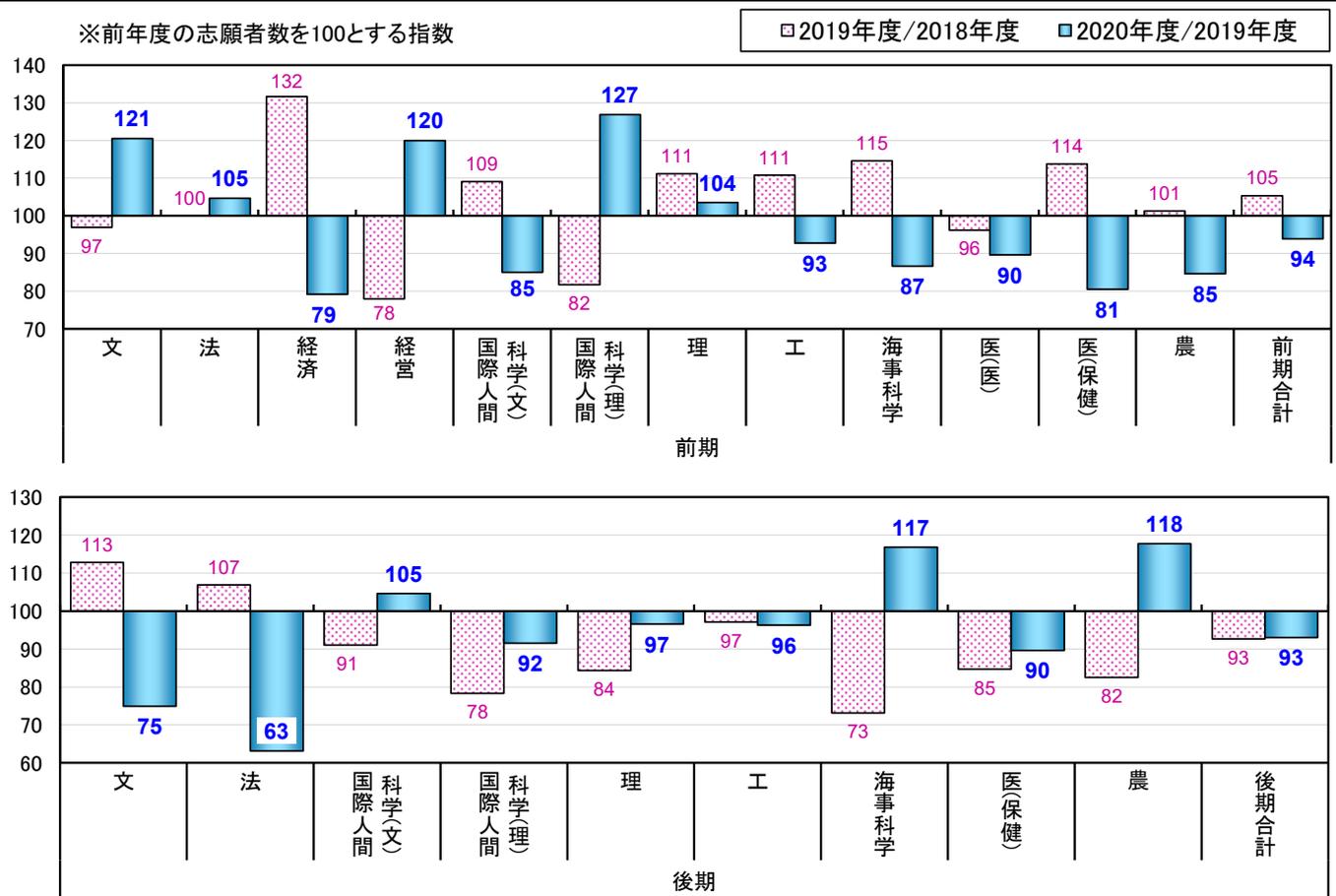
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は74人(99)の微減だが2年連続減少。増減が目立った学部は、医(医)(121)が大幅増加、工(112)、外国語(110)は増加。一方で、法(73)、人間科学(81)、基礎工(83)、歯(85)は大幅減少、経済(89)は減少。工と基礎工はセンター試験における数学の配点比率が、工は14%、基礎工25%なので、平均点ダウンが目立った数学を失敗した受験生が工に流入したことで、対照的な増減となった。

<前期日程>

- 文(104)は、前年度減少の反動で増加だが増加率は小さい。
- 外国語(110)は、前年度やや減少の反動で増加。専攻別では、(外国語／インドネシア語)(191)、(外国語／英語)(153)、(外国語／アラビア語)(132)、(外国語／フィリピン語)(131)、(外国語／朝鮮語)(131)、(外国語／ビルマ語)(131)、(外国語／スワヒリ語)(131)が30%以上の増加率だった。一方で、(外国語／ポルトガル語)(77)、(外国語／タイ語)(83)、(外国語／デンマーク語)(83)が15%以上の減少率だった。
- 法(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。(法)(73)、(国際公共政策)(74)の2学科とも大幅減少で、志願倍率は2学科ともに2倍を下回った。
- 経済(89)は、6年連続増加の反動と系統への人気の陰りから7年ぶりに減少。
- 人間科学(81)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数が253人に留まり、募集人員が115人になった2017年度以降では最も少なくなった。
- 理(100)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度と同人数だった。学科・コース別では、(数学)(135)が大幅増加、一方で前年度大幅増加の反動で(生物／生命理)(54)、(生物／生物科学)(62)が大幅減少。
- 工(112)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、全ての学科が増加したが、系統への人気が高い(電子情報工)(125)が大幅増加、応用自然科学(115)も大幅増加、応用理工(110)が増加とこの3学科の増加が目立った。
- 基礎工(83)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、系統への人気が高い(情報)(99)は前年度並だが、他の3学科はいずれも大幅減少。
- 医(医)(121)は、2年連続で志願倍率2.4倍と低倍率だったことと、個別試験重視に配点変更したことで、個別試験での逆転を狙う層の流入で、大幅増加。
- 医(保健)(107)は、2年連続減少の反動でやや増加。専攻別では、(保健／検査技術科学)(135)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。(保健／放射線技術科学)(101)は前年度並、(保健／看護)(94)はやや減少。
- 歯(85)は、2年連続大幅減少。
- 薬(102)は、微増だが3年連続増加。系統人気は低い中での増加要因として、京都大が6年制の(薬)の学科振分け後の定員が15人のため、6年制の(薬)のみで募集人員65人の大阪大が、薬剤師志望の成績上位層から狙われていることがある。

神戸大：前期は理系の減少が目立ち、後期は文系で大幅減少 前期：-364人 後期：-280人



入試変更点 募集人員：医(保健/看護)〈後〉…8人→6人
 名称変更：(生命機能科学/環境生物)→(生命機能科学/応用機能生物)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は364人(94)のやや減少。文理別では、文系は81人(97)のやや減少、理系は283人(91)の減少。後期は280人(93)のやや減少。文理別では、文系は286人(81)の大幅減少、理系は6人(100)の微増で前年度並。

<前期日程>

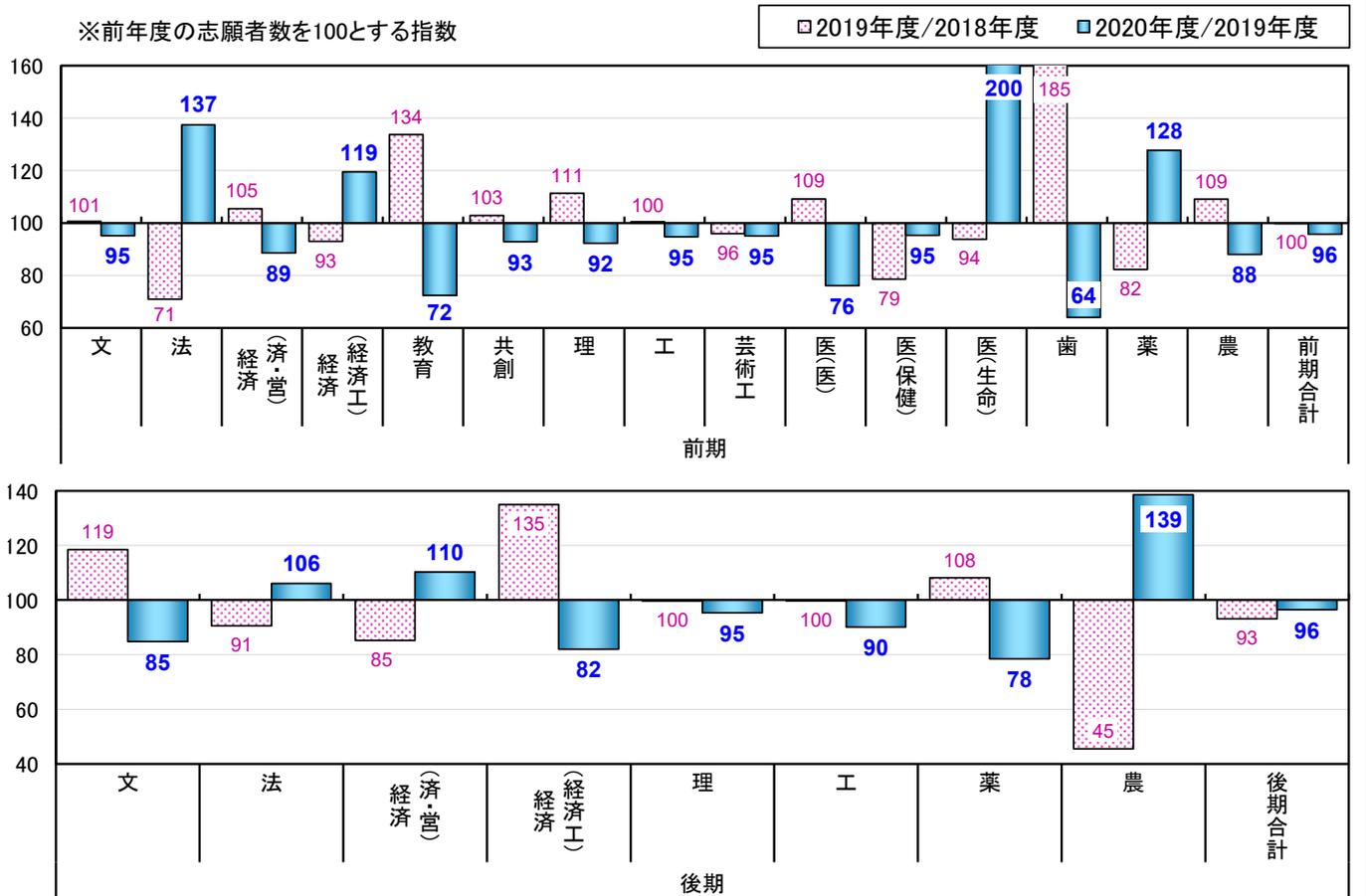
- 文(121)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願者数も3年ぶりに200人を超えた。
- 法(105)は、前年度の志願倍率アップの影響はなく、やや増加。
- 経済(79)は、4年連続増加の反動で大幅減少。3方式ともに減少で、(数学)(96)はやや減少だが、(英数)(60)、(総合)(80)の2方式は大幅減少。
- 経営(120)は、前年度の大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も3.3倍→3.9倍へアップ。
- 国際人間科学(89)は、前年度やや増加の反動で減少。募集単位別では(環境共生(理科系))(127)が大幅増加、他の4つの募集単位は減少、特に(環境共生(文科系))(52)はほぼ半減、(子ども教育)(88)と(発達コミュニティ)(88)の減少も目立った。
- 理(104)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(数学)(139)、(惑星)(120)はいずれも2年連続大幅増加。一方で、(物理)(78)、化学(79)はいずれも大幅減少。
- 工(93)は、やや減少。学科別では、やや増加の(市民工)(106)を除いた5学科は減少。特に、(応用化学)(87)は前年度大幅増加の反動から一番減少が目立った。
- 海事科学(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 医(医)(90)は、減少して3年連続減少。志願者数は250人にまで減少し、志願倍率3.0倍→2.7倍にダウンした。センター試験：個別試験の配点が360点：450点とセンター試験の占める割合が比較的大きく、個別試験が標準的な出題なため、センター失敗組が敬遠したことが減少の要因。
- 医(保健)(81)は、前年度増加の反動で大幅減少。専攻別では、4専攻全てが減少。特に、(保健/検査技術科学)(71)、(保健/看護)(81)の大幅減少が目立った。
- 農(85)は、系統への不人気も影響し大幅減少。学科・コース別では、6つの募集単位全てが減少、特に、(資源生命科学/応用動物)(68)、(生命機能科学/応用機能生物)(72)、(食料環境システム/食料環境経済)(79)はいずれも20%を超える大幅減少。

<後期日程>

- 文(75)は、大幅減少で志願倍率も14.6倍→10.9倍にダウン。
- 法(63)は、3年連続増加の反動で大幅減少。500人を下回る志願者数は2016年度以来。
- 国際人間科学(103)は、やや増加だが学部改組後初めての増加。学科別では、(環境共生(文科系))(123)が大幅増加、一方で、(子ども教育)(74)は大幅減少。

- 理(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(数学)(115)が大幅増加、一方で、(物理)(86)の減少が目立った。
- 工(96)は、2年連続やや減少。学科別では、(市民工)(117)が大幅増加、一方で、(情報知能工)(84)の大幅減少が目立った。
- 海事科学(117)は、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 医(保健)(90)は、前年度大幅減少に続いて減少。専攻別では、(保健/作業療法)(62)、(保健/看護)(78)の大幅減少が目立った。他の2専攻は増加。
- 農(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、(生命機能科学/応用機能生物)(205)と(食料環境システム/生産環境工)(195)のほぼ倍増、(資源生命科学/応用植物)(121)の大幅増加が目立った。

九州大：前期・後期ともにやや減少、医(医)＜前＞は大幅減少 前期：-225人 後期：-82人



入試変更点

学科改組：芸術工…音響設計、画像設計、環境設計、工業設計、芸術情報設計
 →芸術工/環境設計、インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計

選抜方法：共創<前>…英語外部試験の対象試験に GTEC(4技能)追加
 英検、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TOEFL iBT→英検、GTEC(4技能)、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TOEFL iBT
 英語外部試験(GTEC CBT)のスコア変更 1,000点以上→1,050点以上

芸術工<前>…学科別募集136人→コース別募集111人+学科一括募集20人

募集人員変更：医(医)<前>…111人→110人

第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…約4倍(通過予定人数：444人)→約2.5倍(通過予定人数：275人)

個別試験：医(医)<前>、歯<前>…数+理2+外→数+理2+外+面

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は225人(96)のやや減少。文理別では、文系は19人(102)の微増、理系は244人(94)のやや減少。後期は82人(96)のやや減少。文理別では、文系は11人(101)の微増、理系は93人(94)のやや減少。

<前期日程>

- 文(95)は、やや減少で、2017年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 法(137)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.1倍→2.9倍にアップ。
- 経済(101)は、前年度並。学科別では、(経済・経営)(89)は前年度の反動で減少。(経済工)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 教育(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も3.4倍→2.5倍にダウン。
- 共創(93)は、やや減少。新設3年目で初めて志願者数が200人を下回った。
- 理(92)は、4年連続増加の反動で減少。学科別では、数学(112)は増加、地球惑星科学(105)はやや増加、一方で化学(75)、生物(85)は大幅減少、物理(89)は減少。
- 工(95)は、やや減少。志願者数が1,400人を下回ったのは、2007年度以来。学科別では、地球環境工(109)が増加、物質科学

- 工(105)はやや増加、一方で、電気情報工(85)は大幅減少、機械航空工(88)は減少、建築(96)はやや減少。
- 芸術工(95)は、やや減少で、2年連続減少。新設の(学科一括)の志願倍率は2.9倍で、学部全体の志願倍率3.3倍を下回った。コース別募集では、募集人員が旧学科と変更があったので志願倍率で比較すると、(芸術工/環境設計)が0.6ポイントアップ、(芸術工/未来構想デザイン)が0.5ポイントアップと競争が激化し、一方で(芸術工/インダストリアルデザイン)は1.1ポイントダウンと競争が緩和した。
- 医(医)(76)は、第1段階選抜基準が厳しくなったことに前年度の反動も加わり、大幅減少。なお、第1段階選抜は、志願倍率が2.46倍と第1段階選抜基準を下回ったため、実施されなかった。
- 医(保健)(95)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。専攻別では、(保健/看護)(90)が減少で、他の2専攻は前年度と同人数だった。
- 医(生命科学)(200)は、倍増。募集人員が少ないので前年度対比指数は極端になりやすいが、2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 歯(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も2.2倍→4.0倍→2.6倍と大きな変化が継続した。
- 薬(128)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。学科別では、(臨床薬)(147)が大幅増加、(創薬科学)(113)は増加。
- 農(88)は、前年度増加の反動で減少。2017年度以降、前年度の反動による増減が続いている。

〈後期日程〉

- 文(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 法(106)は、前年度減少の反動でやや増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 経済(101)は、2年連続減少の反動はなく前年度並。学科別では、(経済・経営)(110)が増加、(経済工)(82)が大幅減少と対照的。いずれも前年度の反動で、(経済工)は、2012年度以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 理(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(地球惑星科学)(147)が大幅増加、一方で、(化学)(80)が大幅減少。
- 工(90)は、5年連続減少。学科別では、(地球環境工)(131)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(エネルギー科学)(37)は前年度倍増以上だった反動で激減。
- 薬(78)は、前年度の反動で大幅減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が続いている。学科別では、(創薬科学)(69)が大幅減少、(臨床薬)(88)は減少。
- 農(139)は、前年度半減以下だった反動で大幅増加。志願倍率も12.8倍→5.8倍→8.1倍と大きな変化が継続した。

⑨医学部医学科志願状況

□前期は6年連続減少、後期は2年ぶりに減少

〔志願者数推移〕

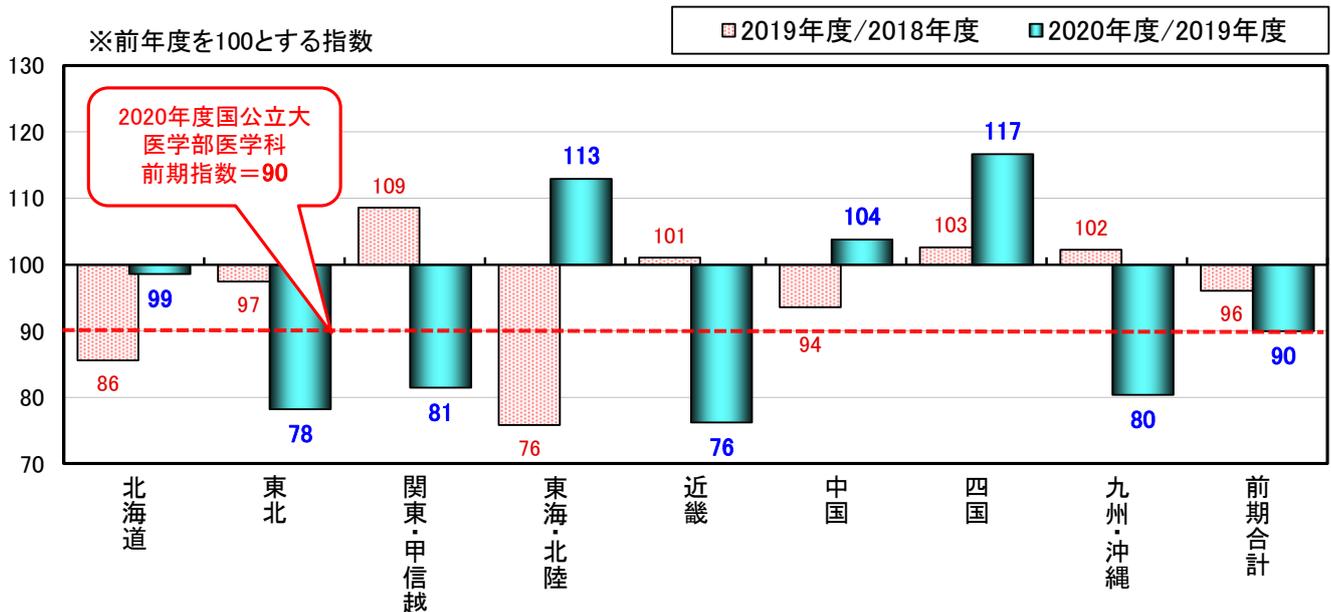
		2020年度	増減数	指数	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度
募集人員	前期	3,595	-49	99	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614	3,592	3,591
	後期	454	-70	87	524	539	541	556	586	611	651	670
	合計	4,049	-119	97	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225	4,243	4,261
志願者数	前期	14,741	-1,649	90	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919	19,674	20,483
	後期	7,405	-1,676	82	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586	12,813	14,103
	合計	22,146	-3,325	87	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505	32,487	34,586
志願倍率	前期	4.10			4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51	5.48	5.70
	後期	16.31			17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60	19.68	21.05
	合計	5.47			6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69	7.66	8.12

医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増による既卒受験生の減少、好調な経済指標によって医学科以外の進路を考える理系成績上位層の増加、地域枠の増加による大都市部受験生の志望校選択幅の縮小などにより、3,325人(87)の減少で6年連続減少しました。日程別では、前期は1,649人(90)の減少で6年連続減少、後期は1,676人(82)の大幅減少で前年度の増加から再び減少しました。この大幅減少の要因は、広島大、鳥取大、福島県立医科大の後期募集廃止が大きく影響しました。この結果、志願倍率は前期が4.50倍→4.10倍と0.40ポイントダウン、後期は17.33倍→16.31倍と1.02ポイントダウンとなり、いずれも競争の緩和がはっきりしました。

□前期の地区別では東北、関東・甲信越、近畿、九州・沖縄の4地区が大幅減少

〔地区別志願者指数〕

〈前期日程〉



前期合計では1,649人(90)の減少でした。地区別では、四国(117)は大幅増加、東海・北陸(113)は増加となりました。一方で、近畿(76)、東北(78)、九州・沖縄(80)、関東・甲信越(81)が大幅減少となりました。

○北海道(99)：北海道大(119)が大幅増加、札幌医科大(106)はやや増加。一方で、旭川医科大(75)が大幅減少で2年連続減少。

○東北(78)：秋田大(182)は第1段階選抜基準の緩和に加え、前年度大幅減少の反動で大幅増加。弘前大(55)、福島県立医科大(59)が大幅減少。東北大(71)も大幅減少だが、募集人員が約27%減少のため、競争緩和はなし。山形大(96)はやや減少で4年連続減少。

○関東・甲信越(81)：千葉大(110)は2年連続増加。東京医科歯科大(107)はやや増加。一方で、信州大(60)、新潟大(68)はいずれも募集人員減少の影響に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○東海・北陸(113)：岐阜大(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。金沢大(129)、福井大(119)も大幅増加。一方で、地区内で唯一減少した富山大(74)は大幅減少

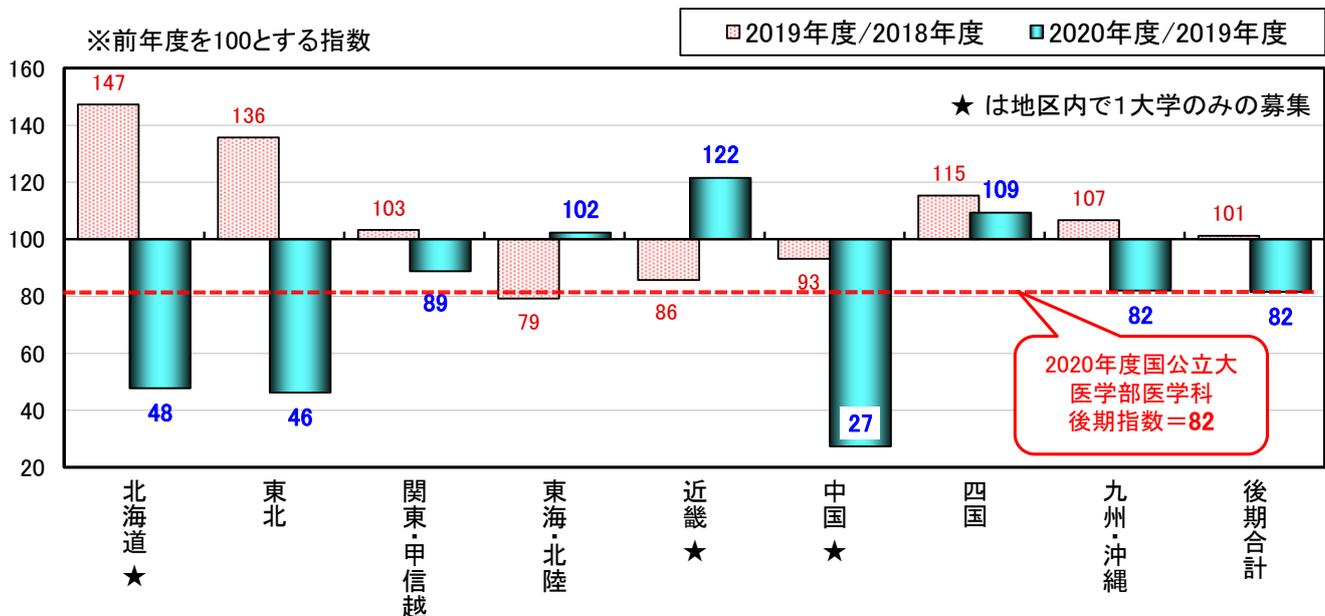
○近畿(76)：大阪大(121)のみが大幅増加。第1段階選抜基準を緩和し、個別試験の配点を高くしたことが影響。他はいずれも減少し、特に和歌山県立医科大(44)は前年度大幅増加の反動で半減以下。第1段階選抜基準を厳しくした滋賀医科大(56)も大幅減少。

○中国(104)：山口大(161)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、広島大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。鳥取大(85)は2年連続大幅減少。

○四国(117)：高知大(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。愛媛大(134)は2年連続大幅増加。一方で、地区内で唯一減少の徳島大(69)は大幅減少。

○九州・沖縄(80)：全大学が減少。宮崎大(53)はセンター試験重視配点により平均点ダウンの影響を受けて、大幅減少。琉球大(69)は大幅減少で2年連続減少。長崎大(72)は2年連続大幅減少。九州大(76)は第1段階選抜基準を厳しくしたことで大幅減少。

〈後期日程〉



後期合計では1,676人(82)の大幅減少で前年度増加から再び減少しました。

地区別では、1大学のみ地区では、奈良県立医科大のみ募集の近畿(122)は2年連続減少の反動で大幅増加、旭川医科大のみ募集の北海道(48)は前年度大幅増加の反動で半減以上でしたが、募集人員もほぼ半減で競争はわずかな緩和でした。鳥取大、広島大の後期廃止で山口大のみ募集の中国(27)は、前年度倍増した反動で大幅減少でした。

複数大学の募集がある地区で増減が目立ったのは、増加では四国(109)のみで、一方で減少では東北(46)、九州・沖縄(82)が大幅減少でした。

○東北(46)：福島県立医科大の後期廃止で以下の2大学のみ募集。山形大(92)は減少。秋田大(81)は3年連続増加の反動で大幅減少。

○関東・甲信越(89)：千葉大(104)のみやや増加。東京医科歯科大(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、山梨大(86)は減少で2017年度から反動による増減が継続。

○東海・北陸(102)：浜松医科大(173)、福井大(156)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。岐阜大(82)は募集人員減少で大幅減少し、2年連続減少。地域枠のみで募集の名古屋大(82)は2段階選抜を廃止したが、前年度の大幅増加の反動で大幅減少。

○四国(109)：愛媛大(137)は大幅増加で2年連続増加。香川大(91)は前年度大幅増加の反動で減少。

○九州・沖縄(82)：佐賀大(105)はやや増加だが、他の3大学は減少。琉球大(70)は第1段階選抜基準を緩和したが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。鹿児島大(72)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
北海道	旭川医科大	前		550	350	-91	75	46	279	41	370	6.1	9.0	10.2	募集人員増加だが、2年連続大幅減少。 ※募集人員には特別選抜欠員分の6人(2020年度)、1人(2019年度)を含む。
				550	350	-314	48	8	287	15	601	35.9	40.1	27.2	
	北海道大	前		300	525	+59	119	102	366	102	307	3.6	3.0	3.5	大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。 ※募集人員はAO入試欠員分の5人を含む。
	札幌医科大	前	先進研修連携枠	700	700	+18	106	20	58	20	302	2.9	4.0	4.9	<変更点>出願枠名称変更:北海道医療枠 ⇒先進研修連携枠 2年連続減少の反動でやや増加。
							55	262	55		4.8				

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
東北	弘前大	前		1000	900	-286	55	50	352	50	405	5.0	8.1	7.9	<変更点>募集人員:(地域枠)15人⇒20人 <AO>47人⇒42人 2年連続増加の反動で大幅減少。前期で最も志願者数が減少した。
			地域枠					20		15	233		15.5	9.2	
	東北大	前		250	950	-102	71	77	252	105	354	3.3	3.4	3.6	<変更点>募集人員:105人⇒77人 <特別>地域枠新規実施:9人 大幅減少で3年連続減少だが、募集人員も減少で志願倍率は3.4倍⇒3.3倍のわずかなダウン。
	秋田大	前		550	400	+164	182	55	364	55	200	6.6	3.6	7.3	前年度半減の反動で大幅増加。前期で最も志願者数が増加した。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.1%だった。
		後		700	300	-81	81	20	338	25	419	16.9	16.8	14.1	<変更点>第1段階選抜基準:10倍⇒7倍 募集人員:25人⇒20人 <推薦>(地域枠)19人⇒24人 3年連続大幅増加の反動で大幅減少。
	山形大	前		900	700	-12	96	65	270	65	282	4.2	3.8	4.4	<変更点>出願枠名称変更:(地域枠)10人 ⇒(定着枠)一般に含む 第1段階選抜基準:4.5倍⇒約5倍 募集人員減少もあり、4年連続減少だが、志願倍率は3.8倍⇒4.2倍にアップ。 前年度大幅増加の反動で減少。
		定着枠							10						
	福島県立医科大	前		650	660	-105	65	50	193	42	298	3.9	7.1	4.9	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 募集人員:42人⇒50人 (地域枠)25人⇒30人 推薦A県内既卒枠新規実施:10人 前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集人員増加もあり、志願倍率は一般枠7.1倍⇒3.9倍、地域枠6.2倍⇒2.4倍にどちらもダウン。 ※地域枠の募集人員には推薦入試欠員分の2人(2020年度)を含む。
			地域枠			-79	49	32	77	25	156	2.4	6.2	3.6	
		後								23	519		22.6	14.3	<変更点>後期日程廃止
関東・甲信越	筑波大	前		900	1400	-62	66	49	119	60	181	2.4	3.0	4.7	<変更点>募集人員:58人⇒49人 (茨城県枠)4人⇒9人 <推薦>36人⇒44人 (茨城県枠)22人⇒17人 一般枠は募集人員減少もあり、4年連続減少。地域枠は募集人員減少の影響はなく、倍増以上の増加で2年連続大幅増加。
			茨城県枠			+29	204	9	57	4	28	3.0	2.0	1.2	
			全国枠					10		10					
	群馬大	前		450	450	-71	70	65	169	67	240	2.6	3.6	2.3	<変更点>第1段階選抜基準:約3倍 ⇒志願者数が一般枠で189人 地域枠で24人程度を超えた場合実施 募集人員:67人⇒65人 <推>(地域医療枠)10人⇒12人 前年度大幅増加の反動で大幅減少。
			地域医療枠			-6	85	6	33	6	39	5.5	6.5		
	千葉大	前		450	1000	+34	110	82	278	97	329	3.4	3.4	3.2	<変更点>学費改定:535,800円⇒642,960円(年額) 募集人員:97人⇒82人 地域枠新規実施:15人 地域枠の新規実施もあり、2年連続増加。
			地域枠					15	85			5.7			
		後		450	1000	+13	104	15	280	20	360	18.7	18.0	18.4	<変更点>学費改定:535,800円⇒642,960円(年額) 募集人員:20人⇒15人 地域枠新規実施:5人 地域枠の新規実施もあり、2年連続減少の反動でやや増加。
			地域枠					5	93			18.6			
	東京大	前		110	440	+8	102	97	413	97	405	4.3	4.2	4.6	3年連続減少の反動は小さく微増。センター試験自己採点集計「データネット」における第1段階選抜通過予想ラインが低かったことが影響。
東京医科歯科大	前		180	360	+22	107	81	344	82	322	4.2	3.9	4.2	<変更点>募集人員:82人⇒81人 3年連続減少の反動でやや増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は94.2%だった。	
	後		500	200	-34	83	10	168	10	202	16.8	20.2	17.4	前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
横浜市立大	前		1000	1200	-97	71	58	240	58	337	3.2	4.2	3.4	<変更点>募集人員:(地域枠)17人⇒14人 (神奈川県枠)5人⇒2人 <推薦>8人⇒11人 神奈川県枠新規実施:<推薦>3人 募集人員減少、前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
		地域枠					14		17						
		診療科枠					2		5						
新潟大	前		750	1200	-164	68	80	344	85	508	4.3	6.0	4.6	<変更点>募集人員:85人⇒80人 <推薦>37人⇒42人 募集人員減少、4年連続増加の反動で大幅減少。	
山梨大	後		800	1200	-187	86	90	1107	90	1294	12.3	14.4	14.0	減少で、前年度の反動による増減が継続。	
信州大	前		450	600	-253	60	95	372	100	625	3.9	6.3	4.8	<変更点>募集人員:100人⇒95人 <推薦>20人⇒25人 募集人員減少もあり、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。	

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
東海・北陸	富山大	前		900	800	-85	74	60	244	60	329	4.1	5.5	5.2	25%以上の大幅減少。
		後		1200	350	-25	92	20	301	20	326	15.1	16.3	16.6	3年連続減少。第1段階選抜は、実施予告倍率の15倍を上回ったが実施されなかった。
	金沢大	前		450	700	+71	129	84	312	84	241	3.7	2.9	4.2	<変更点>第1段階選抜基準:約3.5倍⇒約3倍 大幅増加で前年度の反動による大幅な増減が継続。 2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.8%だった。
		後		900	700	+42	119	55	261	55	219	4.7	4.0	4.1	2年連続減少の反動で大幅増加。
	福井大	前		450	220	+141	156	25	393	25	252	15.7	10.1	18.6	前年度半減近い減少の反動で大幅増加。
		後		800	1200	+140	152	37	410	32	270	11.1	8.4	12.1	<変更点>募集人員:32人⇒37人 <推薦>43人⇒48人 募集人員増加の影響と、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
	岐阜大	前		400	1200	-141	82	25	645	35	786	25.8	22.5	25.7	<変更点>募集人員:35人⇒25人 大幅減少で2年連続減少。募集人員減少により、志願倍率は22.5倍⇒25.8倍となった。
		後		450	700	+27	107	66	312	75	362	4.7	4.8	3.3	<変更点>募集人員:75人⇒66人 地域医療枠新規実施:9人 地域枠の新規実施もあり、やや増加で2年連続増加。 2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は77.4%だった。
	浜松医科大	前		900	350	+93	173	14	197	15	128	14.1	8.5	15.8	<変更点>募集人員:15人⇒14人 地域医療枠新規実施:1人 地域枠の新規実施もあり、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
		後	地域医療枠					1	24			24.0			
	名古屋大	前		900	1650	+45	118	90	295	90	250	3.3	2.8	3.2	<変更点>2段階選抜廃止 2段階選抜廃止の影響と、前年度減少の反動で大幅増加。
		後	愛知県内	900	0	-12	82	5	55	5	67	11.0	13.4	10.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
	三重大	前		600	700	+27	110	70	298	70	271	4.0	3.6	5.3	2年連続減少の反動で増加。
		後	医療枠					5		5					
名古屋市立大	前		600	300	-17	88	10	121	10	138	12.1	13.8	15.9	2年連続減少。	
	後		500	700	+8	104	70	194	70	186	2.8	2.7	8.6	前年度激減の反動は小さくやや増加に留まった。	
近畿	滋賀医科大	前		600	600	-191	56	55	175	75	434	3.2	5.8	5.9	<変更点>第1段階選抜基準:約7倍⇒約4倍 募集人員:75人⇒55人 <推薦>25人⇒35人 地域医療枠新規実施:5人 募集人員減少もあり、半減に近い減少で5年連続減少。
		後	地域枠				5	68			13.6				
	京都大	前		250	1000	-20	93	105	278	103	298	2.6	2.9	3.2	前年度減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。 2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は96.8%だった。 ※募集人員に特色入試欠員分の3人(2020年度)、1人(2019年度)を含む。
	大阪大	前		500	1500	+49	121	95	279	95	230	2.9	2.4	2.4	<変更点>第1段階選抜基準: センター試験の成績が総配点900点中720点以上の者のうちから募集人員の約2.6倍までの者 ⇒センター試験の成績が総配点900点中630点以上の者のうちから募集人員の約3倍までの者 <個>数<200>+理<200>+外<200> ⇒数<500>+理<500>+外<500>+面 第1段階選抜基準緩和の影響から大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
		後		360	450	-29	90	92	250	92	279	2.7	3.0	3.2	3年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は96.4%だった。
	京都府立医科大	前		450	600	-52	83	100	249	100	301	2.5	3.0	2.9	前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。
	大阪市立大	前		650	800	-73	74	75	205	75	278	2.6	3.5	3.8	前年度大幅減少の反動はなく、2年連続大幅減少。
		後	指定枠					5		5					
	奈良県立医科大	前		450	450	-42	80	22	163	22	205	7.4	9.3	9.1	大幅減少。前年度の反動による増減が継続。
		後		300	900	+172	122	53	969	53	797	18.3	15.0	17.5	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
	和歌山県立医科大	前		600	700	-171	43	64	131	64	302	2.0	4.7	2.8	前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。 2010年度以降初めて志願者数が200人を割り込んだ。
		後	医療枠					15	40	15	85	2.7	5.7	2.9	

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント	
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度		
中国	鳥取大	前	鳥取県枠	900	700	-68	85	58	386	43	454	4.9	7.0	8.7	＜変更点＞募集人員：43人⇒58人 (山口県枠)募集停止 募集人員は増加したが、前年度の大幅減少の反動はなく、2年連続大幅減少。志願倍率は7.0倍→4.9倍。	
			兵庫県枠					14		14						
			島根県枠					2		2						
			山口県枠					5		5						
			後													20
	鳥根大	前	定着枠	700	460	+91	127	55	427	55	336	7.8	6.1	5.8	＜変更点＞募集人員：(定着枠)7人⇒3人 ＜推薦＞40人⇒44人 一般枠は大幅増加で志願倍率も6.1倍→7.8倍。定着枠は大幅減少だが、募集人員減少もあり志願倍率は5.1倍→8.7倍。	
			後													
	岡山	前		900	1200	+50	115	98	377	98	327	3.8	3.3	3.0	大幅増加で2年連続増加。	
			後													
		広島大	前		900	1800	-107	82	90	484	90	591	5.4	6.6	6.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
後																
山口大	前		900	600	+117	161	55	309	60	192	5.6	3.2	5.6	＜変更点＞募集人員：60人⇒55人 ＜推薦＞22人⇒27人 2年連続減少の反動で大幅増加。		
		後														
四国	徳島大	前		900	400	-67	69	64	151	64	218	2.4	3.4	2.8	前年度増加の反動で大幅減少で、志願者数が200人を下回った。	
			後													
	香川大	前		900	700	+17	106	50	287	50	270	4.9	4.6	4.2	やや増加で、2年連続増加。	
			地域枠													
	愛媛大	前		550	700	+78	134	40	306	40	228	7.7	5.7	4.3	2年連続大幅増加で、志願倍率も5.7倍→7.7倍。	
			後													
	高知大	前		900	1000	+135	151	55	399	55	235	6.7	4.3	5.3	前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は62.7%だった。	
			地域枠													
	九州・沖縄	九州大	前		450	700	-85	76	110	271	111	356	2.5	3.2	2.9	＜変更点＞第1段階選抜基準：約4倍⇒約2.5倍 募集人員：111人⇒110人 ＜個＞数+理2+外⇒数+理2+外+面 前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は1989年度の分離分割方式導入後、初めて300人を下回った。
				後												
佐賀大		前		630	400	-11	96	50	272	50	283	5.4	5.7	5.8	2年連続やや減少。第1段階選抜は、実施予告倍率の5倍を上回っていたが実施されなかった。	
			後													
長崎大		前		450	760	-111	72	76	284	76	395	3.7	5.2	6.8	2年連続大幅減少で、志願倍率も5.2倍→3.7倍。	
			後													
熊本大		前		400	800	-42	92	90	487	95	529	5.4	5.6	3.4	＜変更点＞募集人員：95人⇒90人 前年度大幅増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.8%だった。	
			後													
大分大		前		450	600	-1	100	65	285	65	286	4.4	4.4	5.3	前年度大幅減少の反動はなく前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は68.4%だった。	
			後													
宮崎大	前		900	600	-198	53	50	226	50	424	4.5	8.5	7.7	前年度増加の反動で半減近い大幅減少。志願者数は、2009年度以降初めて300人を下回った。		
		後														
鹿児島大	前		900	920	-27	92	69	332	69	359	4.8	5.2	4.8	2年連続増加の反動で減少。		
		後														
琉球大	前		900	800	-117	69	70	264	70	381	3.8	5.4	6.2	大幅減少で2年連続減少。		
		後														

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
熊本大	487 (90)	山梨大	1107 (90)
広島大	484 (90)	奈良県立医科大	969 (53)
島根大	453 (58)	岐阜大	645 (25)
東京大	413 (97)	香川大	433 (25)
岐阜大	410 (37)	愛媛大	432 (25)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
徳島大	151 (64)	名古屋大	55 (5)
奈良県立医科大	163 (22)	三重大	121 (10)
和歌山県立医科大	171 (79)	東京医科歯科大	168 (10)
筑波大	176 (68)	山形大	192 (15)
名古屋市立大	194 (70)	山口大	214 (10)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
秋田大	+164	奈良県立医科大	+172
岐阜大	+140	福井大	+141
高知大	+135	愛媛大	+117
山口大	+117	浜松医科大	+93
島根大	+81	千葉大	+13

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
弘前大	-286	旭川医科大	-314
信州大	-253	山梨大	-187
和歌山県立医科大	-216	山口大	-167
宮崎大	-198	岐阜大	-141
滋賀医科大	-191	琉球大	-135

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
岐阜大	11.1	旭川医科大	35.9
島根大	7.8	岐阜大	25.8
愛媛大	7.7	佐賀大	21.5
奈良県立医科大	7.4	山口大	21.4
高知大	6.7	千葉大	18.7

〔志願倍率が低かった大学〕

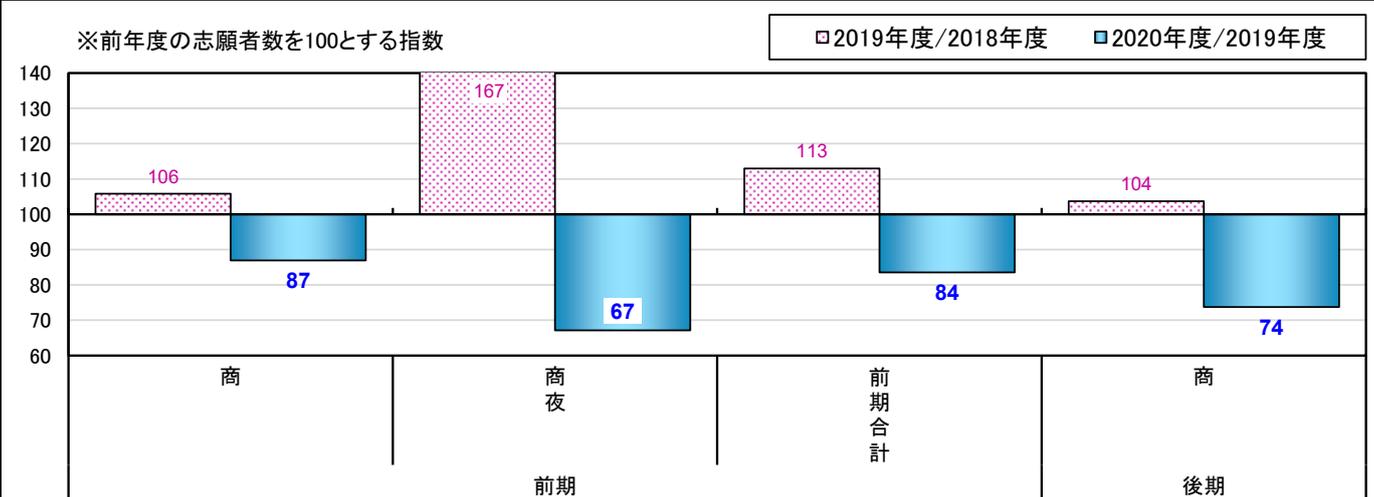
前期日程		後期日程	
和歌山県立医科大	2.2	名古屋大	11.0
徳島大	2.4	鹿児島大	11.3
九州大	2.5	三重大	12.1
京都府立医科大	2.5	山梨大	12.3
大阪市立大	2.6	山形大	12.8
筑波大	2.6	琉球大	12.8
京都大	2.6		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。

⑩大学別志願状況

小樽商科大：前期減少、後期微減

前期：-151人 後期：-5人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は145人(84)の大幅減少で、2年ぶりの減少。夜間主コースを除いても、(87)の減少。後期は昼間コースのみの募集だが、103人(74)の大幅減少で、前期同様に2年ぶりの減少。個別試験がなく、センター試験のみで合否判定を行うため、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けた。

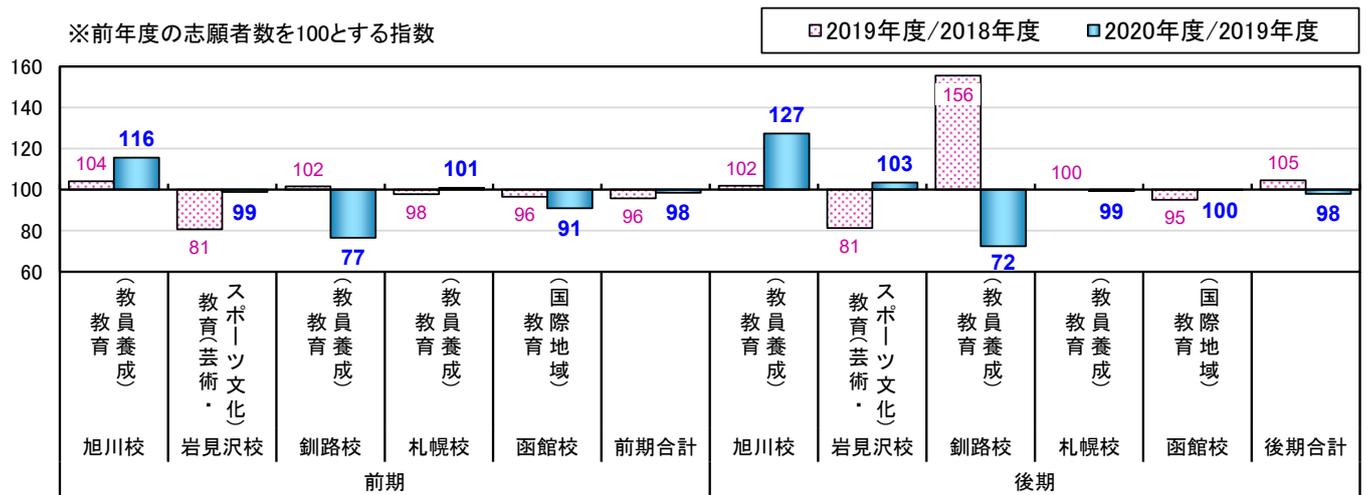
〈前期日程〉

○商(87)は、系統への低い人気に加えて、前年度増加の反動、さらにセンター試験の平均点ダウンによりセンター試験重視の配点(センター試験：個別試験=900点：500点)が影響して減少。

○商夜(67)は、系統への低い人気に加えて、前年度増加の反動、さらにセンター試験の平均点ダウンによりセンター試験を大きく重視する配点(センター試験：個別試験=600点：200点)が影響して、大幅減少。

北海道教育大：大学全体では前期・後期ともに微減

前期：-24 人 後期：-41 人



入試変更点 募集人員：岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化/スポーツ文化-スポーツ・コーチング科学<前>…18人→20人
 個別：岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化/スポーツ文化-スポーツ・コーチング科学<前>…面接<300点>+実技<500点>=総点<800点>→面接<200点>+実技<600点>=総点<800点>

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 24 人(98)の微減だが、3年連続減少。修学校別では、旭川校(116)の大幅増加と釧路校(77)の大幅減少が目立った。後期は 41 人(98)の微減で、2年ぶりの減少。修学校別では、前期と同様に旭川校(127)の大幅増加と釧路校(72)の大幅減少が目立った。

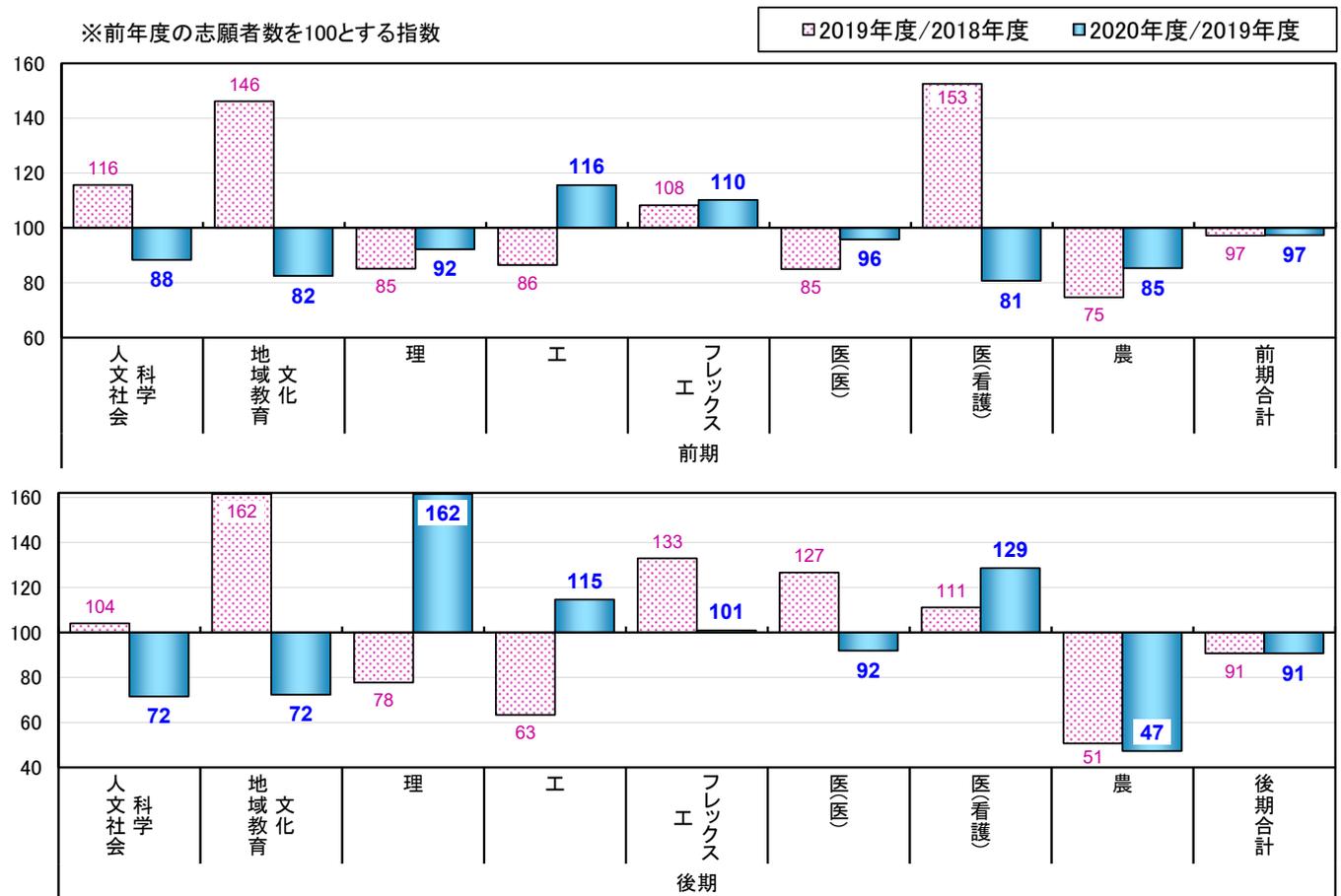
<前期日程>

- 旭川校・教育(教員養成) (116)は、大幅増加で2年連続増加。専攻・分野別では、10専攻・分野中7専攻・分野が増加、特に(教員養成/芸術・保健体育-美術)(233)は2.3倍増、(教員養成/理科)(193)は倍増近い大幅増加だった。一方で、減少した3専攻・分野では(教員養成/社会科)(79)、(教員養成/芸術・保健体育-保健体育)(81)、(教員養成/生活・技術)(83)がいずれも20%前後の大幅減少。
- 岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化) (99)は、微減だが2年連続減少。専攻・コース別では、11専攻・コース中5専攻・コースが増加、特に(芸術・スポーツ文化/音楽文化-声楽)(140)、(芸術・スポーツ文化/美術文化-美術文化教育)(138)はいずれも約40%の大幅増加、一方で、(芸術・スポーツ文化/音楽文化-音楽教育・音楽文化)(33)は3分の1の激減。
- 釧路校・教育(教員養成) (77)は、大幅減少で3年ぶりに減少。志願者数は150人を下回った。
- 札幌校・教育(教員養成) (101)は、3年連続前年度並で、志願者数は4年連続350人前後と変化は少ない。専攻・分野別では、9専攻・分野中2専攻・分野だけが増加で、(教員養成/芸術・体育-保健体育)(170)、(教員養成/言語・社会)(117)はいずれも大幅増加。一方で、減少した6専攻・分野では(教員養成/養護)(71)が2年連続大幅減少。
- 函館校・教育(国際地域) (91)は、3年連続減少。専攻・グループ別では、(国際地域/地域協働-地域政策)(133)、(国際地域/地域協働-国際協働)(115)が大幅増加、一方で、(国際地域/地域教育)(55)、(国際地域/地域協働-地域環境科学)(80)は大幅減少と対照的。

<後期日程>

- 旭川校・教育(教員養成) (127)は、大幅増加で3年連続増加。専攻別では、後期募集を行う7専攻中4専攻がいずれも大幅増加、特に(教員養成/理科)(211)は倍増以上。一方で、減少した3専攻では(教員養成/社会科)(75)、(教員養成/英語)(79)が大幅減少。
- 岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化) (103)は、やや増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。専攻・コース別では、8専攻・コース中で増減が4専攻・コースずつに分かれた。特に(芸術・スポーツ文化/美術文化-美術文化教育)(171)は70%を超える大幅増加、一方で(芸術・スポーツ文化/美術文化-メディア・タイムアート)(64)は大幅減少
- 釧路校・教育(教員養成) (72)は、改組初年度だった前年度の大幅増加の反動で、大幅減少。
- 札幌校・教育(教員養成) (99)は、2年連続前年度並で、志願者数は3年連続280人余りと変化は少ない。専攻別では、後期募集を行う6専攻で3専攻ずつに増減が分かれた。(教員養成/特別支援)(129)が大幅増加、(教員養成/理数教育)(112)は増加。一方で、(教員養成/学校教育)(68)は大幅減少。
- 函館校・教育(国際地域) (100)は、1人のみの減少だが3年連続減少。専攻・グループ別では、4専攻・グループ中で増減が2専攻・グループずつに分かれた。特に、(国際地域/地域協働-地域政策)(113)の増加、(国際地域/地域教育)(75)の大幅減少が目立った。

山形大：前期は改組後 3 年連続減少、後期は 2 年連続減少 前期：-71 人 後期：-142 人



入試変更点

選抜方法：医(医)〈前〉…地域枠→山形県定着枠 ※名称変更
 募集人員：工(高分子・有機材料工)〈前〉…88人→83人
 (機械システム工)〈前〉…88人→87人
 (建築・デザイン)〈後〉…6人→5人
 (化学・バイオ工/応用化学・化学工)〈前〉…43人→41人
 (化学・バイオ工/バイオ化学工)〈前〉…43人→41人
 医(医)〈前〉…(一般枠)65人、(地域枠)10人→65人 ※山形県定着枠含む
 センター：(化学・バイオ工)〈前〉…国<100点>+歴公<100点>+数2<300点>+理2<300点>+外<200点>=総点<1,000点>
 →国<200点>+歴公<100点>+数2<200点>+理2<200点>+外<300点>=総点<1,000点>
 第1段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…約4.5倍(通過予定人数:338人)→約5倍(通過予定人数:325人)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は71人(97)のやや減少で、2017年度の改組後、翌年度から3年連続減少。工フレックス(110)を除いても同様。後期は142人(91)の減少で2年連続減少。工フレックス(101)を除くと、(90)の減少で2年連続減少。

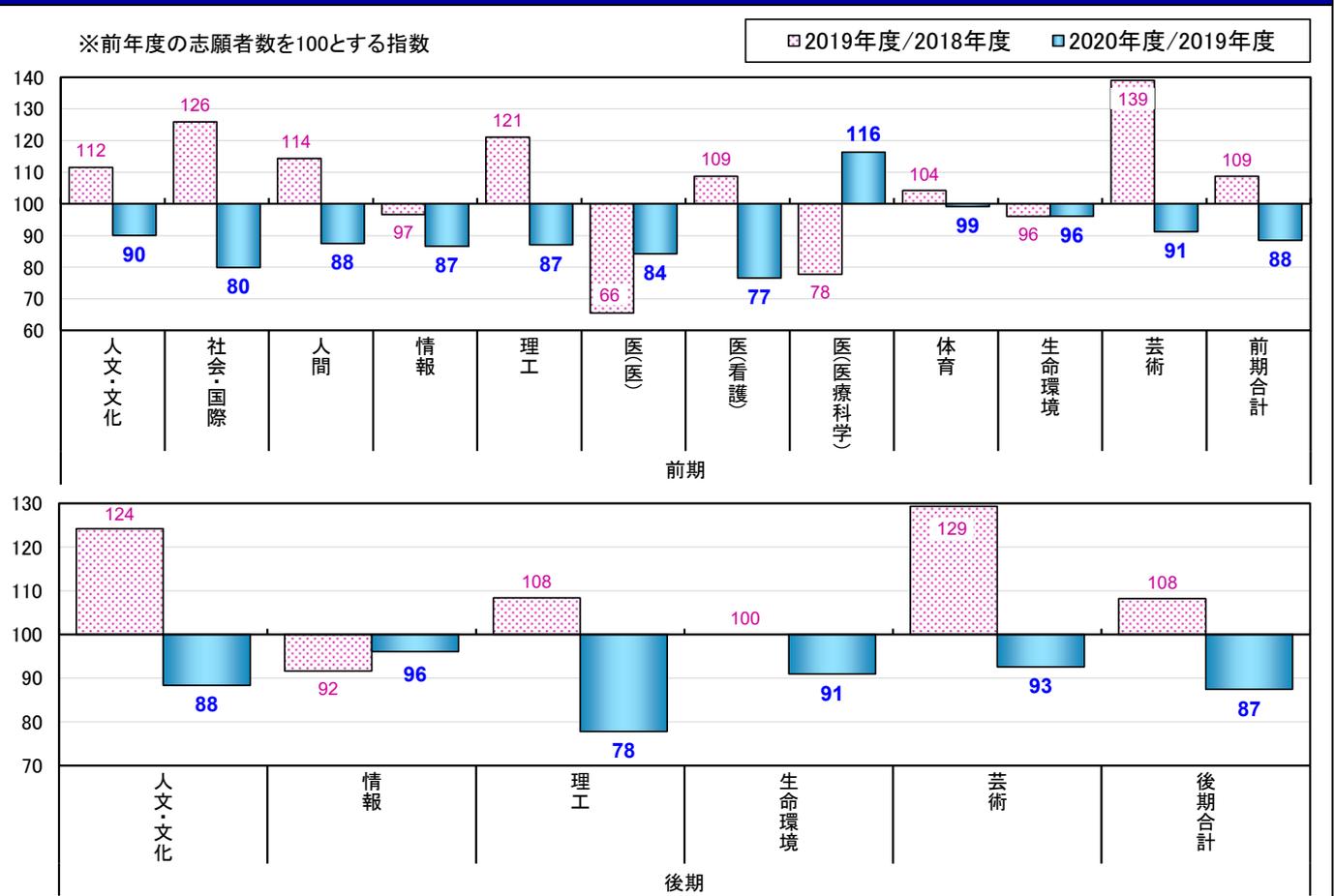
<前期日程>

- 人文社会科学(88)は、2年連続増加の反動で減少。学科・コース別では、(人文社会科学/総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(人文社会科学/グローバル・スタディーズ)(111)は増加で、2017年度の改組後最多の志願者数。
- 地域教育文化(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別・コース別では、(地域教育文化/文化創生)(99)は前年度並だが、(地域教育文化/児童教育)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(92)は、前年度の大幅減少に引続き減少。2017年度の改組後最少の志願者数。
- 工(116)は、前年度減少の反動から大幅増加。学科・コース別では、(情報・エレクトロニクス/電気・電子通信)(141)、(高分子・有機材料工)(124)、(化学・バイオ工/バイオ化学工)(123)は大幅増加。一方で、(建築・デザイン)(54)は半減近い大幅減少。
- 医(医)(96)は、募集人員の減少もあって、やや減少で4年連続減少。ただし、志願倍率は3.8倍→4.2倍にアップし、競争は激化した。
- 医(看護)(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。センター試験重視の配点のため、センター試験の平均ダウンも影響。
- 農(85)は、系統への人気が高いことから、2年連続大幅減少。

＜後期日程＞

- 人文社会科学(72)は、大幅減少で2年ぶり減少。学科・コース別では、(人文社会科学/総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(55)は前年度大幅増加の反動と系統への低い人気から、半減近い大幅減少。(人文社会科学/人間文化)(96)はやや減少だが、3年連続減少で志願者数は100人を下回り、2017年度の改組後最少。
- 地域教育文化(72)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別・コース別では、(地域教育文化/文化創生)(57)は大幅減少、(地域教育文化/児童教育)(87)も10%以上の減少。
- 理(162)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は140人を上回り、改組後最多。
- 工(115)は、前年度大幅減少の反動から大幅増加。2017年度の改組後は大幅増減が継続。学科・コース別では、大幅な増減に分かれており、(情報・エレクトロニクス/電気・電子通信)(211)は倍以上、(情報・エレクトロニクス/情報・知能)(179)、(化学・バイオ工/バイオ化学工)(175)は大幅増加、一方で、(建築・デザイン)(33)は3分の1に減少、(化学・バイオ工/応用化学・化学工)(66)、(高分子・有機材料工)(72)はいずれも大幅減少。
- 医(医)(92)は、前年度大幅増加の反動と個別試験は面接のみなので、センター試験の平均点ダウンの影響で減少。
- 医(看護)(129)は、大幅増加で2年連続増加。
- 農(47)は、系統への人気が低く、個別試験がないことからセンター試験の平均点ダウンの影響が大きく、2年連続約半減の大幅減少。

筑波大：前期・後期ともに2年ぶりの減少、医(医)＜前＞は大幅減少 前期：-574人 後期：-204人



入試変更点 募集人員：理工(物理)＜前＞…43人→45人
 医(医)＜前＞…58人→49人、医(医)＜茨城県地域枠＞＜前＞…4人→9人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は574人(88)減少、後期は204人(87)減少でともに2年ぶりの減少。学群(医は学類)別では、前期は、医(看護)(77)、社会・国際(80)、医(医)(84)が大幅減少。一方で、医(医療科学)(116)が大幅増加。後期は、理工(78)が大幅減少。

＜前期日程＞

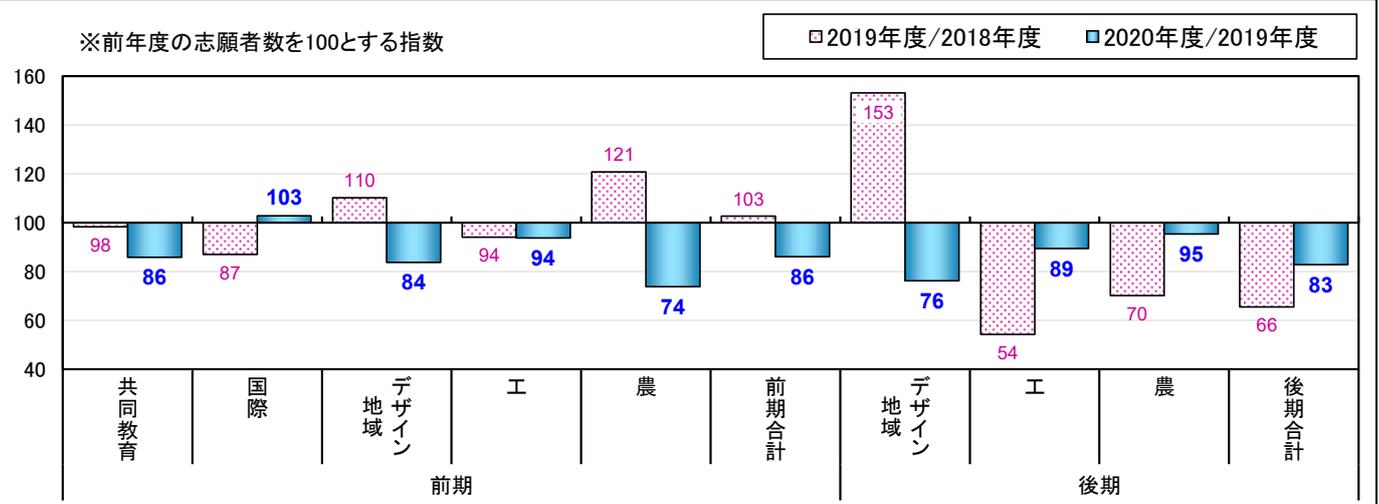
- 人文・文化(90)は、前年度増加の反動で減少。学類別では、(比較文化)(105)のみやや増加。(日本語・日本文化)(72)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 社会・国際(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学類別では、(国際総合)(99)は前年度並だが、(社会)(73)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 人間(88)は、減少で前年度の反動による増減が継続。学類別では、いずれも前年度と逆の増減で、(障害科学)(138)が大幅増加、一方で、(教育)(73)、(心理)(81)はいずれも大幅減少。
- 情報(87)は、2年連続減少。学類別では、3学類ともに減少で、特に(情報科学)(85)は2年連続増加の反動で大幅減少。(情報メディア創成)(88)は2年連続減少。(知識情報・図書館)(89)は3年連続減少。

- 理工(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。学類別では、(物理)(108)が増加、(応用理工)(105)はやや増加、一方で、(工学システム)(74)、(社会工)(76)は大幅減少。
- 医(医)(84)は、大幅減少で4年連続減少。募集人員減少の影響もあり、志願者数176人は後期を廃止して以降では最少。
- 医(看護)(77)は、大幅減少。2016年度以降前年度の反動による増減が続いている。
- 医(医療科学)(116)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 生命環境(96)は、系統への低い人気からやや減少で3年連続減少。学類別では、(地球)(105)は6年ぶりにやや増加、一方で、(生物資源)(94)はやや減少で4年連続減少、(生物)(92)は減少で3年連続減少。

＜後期日程＞

- 人文・文化(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。学類別では、(比較文化)(84)が大幅減少、(人文)(90)は減少。
- 情報(96)は、やや減少で2年連続減少。学類別では、(情報科学)(120)が大幅増加、(知識情報・図書館)(75)は大幅減少。
- 理工(78)は、前年度増加の反動で大幅減少。(応用理工)(104)は2年連続減少の反動でやや増加だが、他の2学類は(工学システム)(65)、(社会工)(68)といずれも大幅減少。
- 生命環境(91)は、系統への低い人気から減少。学類別では、前年度大幅減少の反動で(地球)(143)は大幅増加、(生物資源)(108)は増加、一方で、(生物)(60)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

宇都宮大：前期・後期ともに大幅減少、志願者数は過去10年間で最少 前期：-222人 後期：-88人



(注) 共同教育の2019年度・2018年度は旧教育との比較

入試変更点	学部改組：共同教育<前>…群馬大と合同で共同教育学部を設置 教育(学校教育/教育系、文系、理系、実技系) →共同教育(学校教育/教育人間科学系、人文社会系、自然科学系、芸術表現・生活・健康系) ※宇都宮大のキャンパスで学修し、一部群馬大の単位も履修する 募集人員：地域デザイン科学(建築都市デザイン)…<前>35人、<後>9人→<前>39人、<後>8人 (社会基盤デザイン)…<前>23人、<後>12人→<前>25人、<後>10人 センター試験：地域デザイン科学(建築都市デザイン)…国+歴公+数2+理(物)+外 →国+歴公+数2+理2(物+(化 or 生 or 地学))+外 個別試験：地域デザイン科学(建築都市デザイン)<前>…数<400点>→数<300点> <後>…実技<300点>→なし (社会基盤デザイン)<後>…小論文<300点>→なし
-------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は222人(86)の大幅減少で3年ぶりの減少、志願者数は1,400人を下回った。後期は88人(83)の大幅減少で、2年連続大幅減少。志願者数は500人を下回った。

＜前期日程＞

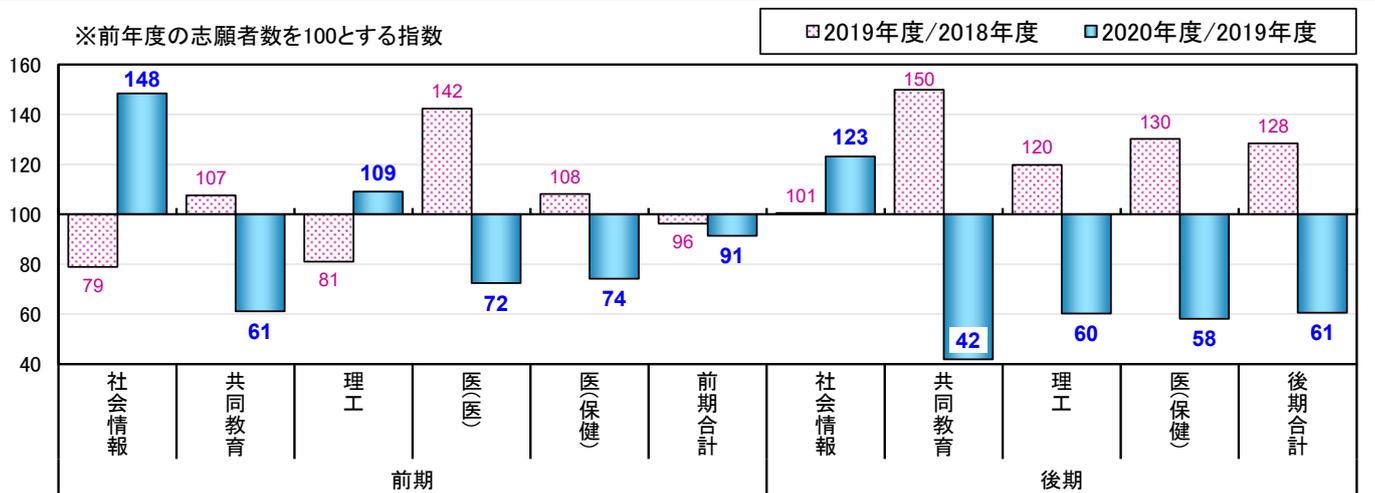
- 共同教育(86)は、系統への低い人気から15%近い減少で、旧教育から引き続いて2年連続減少。
- 国際(103)、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 地域デザイン(84)は、大幅減少。学科別では、3学科はいずれも減少で、(社会基盤デザイン)(70)、(コミュニティデザイン)(84)は大幅減少。
- 工(94)は、減少で3年連続減少。志願倍率は1.9倍と2倍を下回った。
- 農(74)は、前年度大幅増加の反動で、大幅減少。学科別では、(森林科学)(209)は倍増以上だったが、他の4学科はいずれも大幅減少で、特に(農業環境工)(49)半減以上の減少だった。

＜後期日程＞

- 地域デザイン(76)は、2016年度の新設以来増加が続いていたが、その反動で大幅減少。学科別では、(建築都市デザイン)(168)は大幅増加だが、他の2学科は(コミュニティデザイン)(53)、(社会基盤デザイン)(72)のいずれも大幅減少。
- 工(89)は、減少で3年連続減少。志願倍率は3倍を下回った。
- 農(95)は、前年度大幅減少に引続き、やや減少で3年連続減少。後期を実施する4学科では、(応用生命化学)(136)、農業経済(116)が大幅増加、(農業環境工)(69)、(生物資源科学)(85)が大幅減少と増減が分かれた。

群馬大：前期は5年連続減少、後期は大幅減少

前期：-138人 後期：-638人



(注) 共同教育の2019年度・2018年度は旧教育との比較

入試変更点

学部改組：共同教育<前>…宇都宮大と合同で共同教育学部を設置
 教育(学校/国語、社会、英語、数学、理科、技術、音楽、美術、家政、保健体育、教育、教育心理、障害児)
 →共同教育(人文社会系/国語、社会、英語、自然科学系/数学、理科、技術、芸術表現・生活・健康系/音楽、美術、家政、保健体育、教育人間科学系/教育、教育心理、特別支援教育)
 ※群馬大のキャンパスで学修し、一部宇都宮大の単位も履修する
 募集人員：理工<前>…(化学・生物化学)86人→91人、(環境創生理工)50人→55人、(電子情報理工)70人→76人
 医(医)<一般枠><前>…67人→65人
 第1段階選抜実施基準：医(医)<前>…約3倍(通過予定人数：219人)
 →志願者数が一般枠で189人程度、地域医療枠で24人程度を超えた際に実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は138人(91)の減少で5年連続減少、志願者数は1,500人を下回った。後期は前年度大幅増加の反動で638人(61)の大幅減少で、志願者数は1000人を下回った。

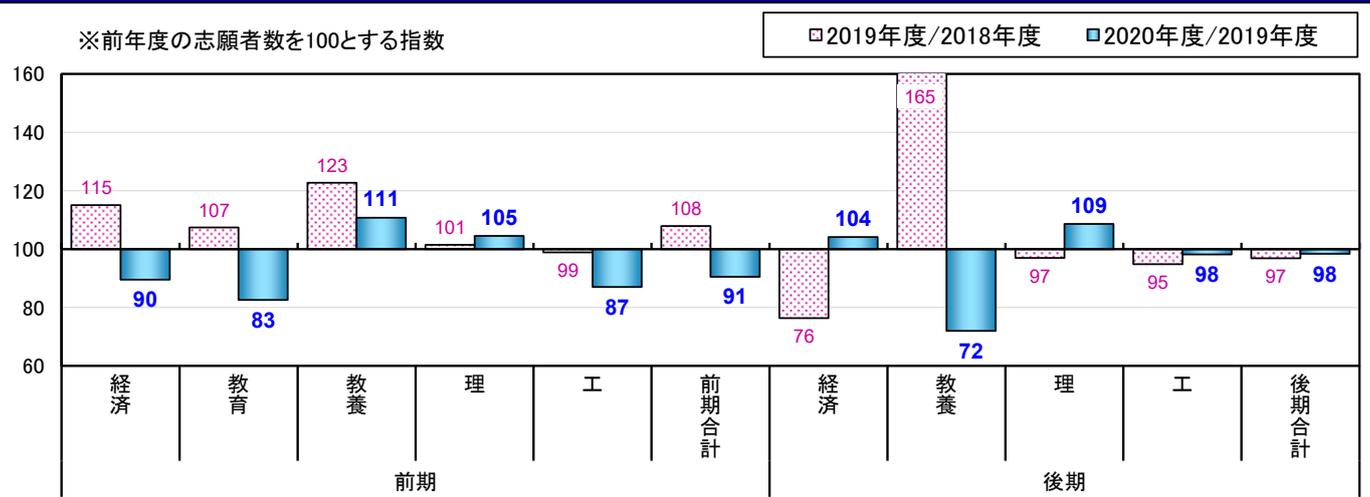
＜前期日程＞

- 社会情報(148)は、前年度大幅減少の反動と系統への高い人気から大幅増加。
- 共同教育(61)は、2年連続増加の反動、募集人員の減少、系統への低い人気から大幅減少。専攻別では、13専攻中(学校教育/人文社会系-英語)のみが前年度と志願者数が同じだったが、他の12専攻はすべて減少。
- 理工(109)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では5学科中3学科が増加、特に(化学・生物化学)(129)は大幅増加。一方で減少した2学科の減少人数は10人未満だった。
- 医(医)(72)は、前年度大幅増加の反動で、大幅減少。
- 医(保健)(74)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、(保健/理学療法)(121)は大幅増加だが、他の3専攻はいずれも大幅減少、特に(保健/作業療法)(39)は6割減の大幅減少。

＜後期日程＞

- 社会情報(123)は、系統への高い人気から大幅増加。開設2年目の2017年度以降、増加が継続。
- 共同教育(42)は、前年度大幅増加の反動、募集人員の減少、系統への低い人気から半減以上の減少。募集が廃止となった専攻を除いても(51)とほぼ半減。専攻別では、(学校教育/教育人間科学系-特別支援教育)(130)が旧(学校教育/障害児)との比較で大幅増加し、唯一増加した専攻だった。
- 理工(60)は、前年度大幅増加の反動と個別試験が面接のみということで、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて大幅減少。学科別では、(電子情報理工)(116)は大幅増加、フレックス制の(総合理工)(98)は微減だったが、他の3学科は大幅減少。特に、(化学・生物化学)(41)、(機械知能システム理工)(42)は半減以上。
- 医(保健)(58)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、すべての専攻が減少で、看護(97)を除いて大幅減少、特に(保健/作業療法)(25)は前年度の4分の1の志願者数。

埼玉大：前期は減少で、特に教育が大幅減少、後期は微減 前期：-307人 後期：-48人



入試変更点 選抜方法：経済<国際枠><前>
 …英語外部試験の対象試験＝IELTS、TOEFL iBT、TOEIC LR、TOEFL PBT
 →GTEC(4技能)、GTEC CBT、IELTS、TOEFL iBT、TOEIC LR

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

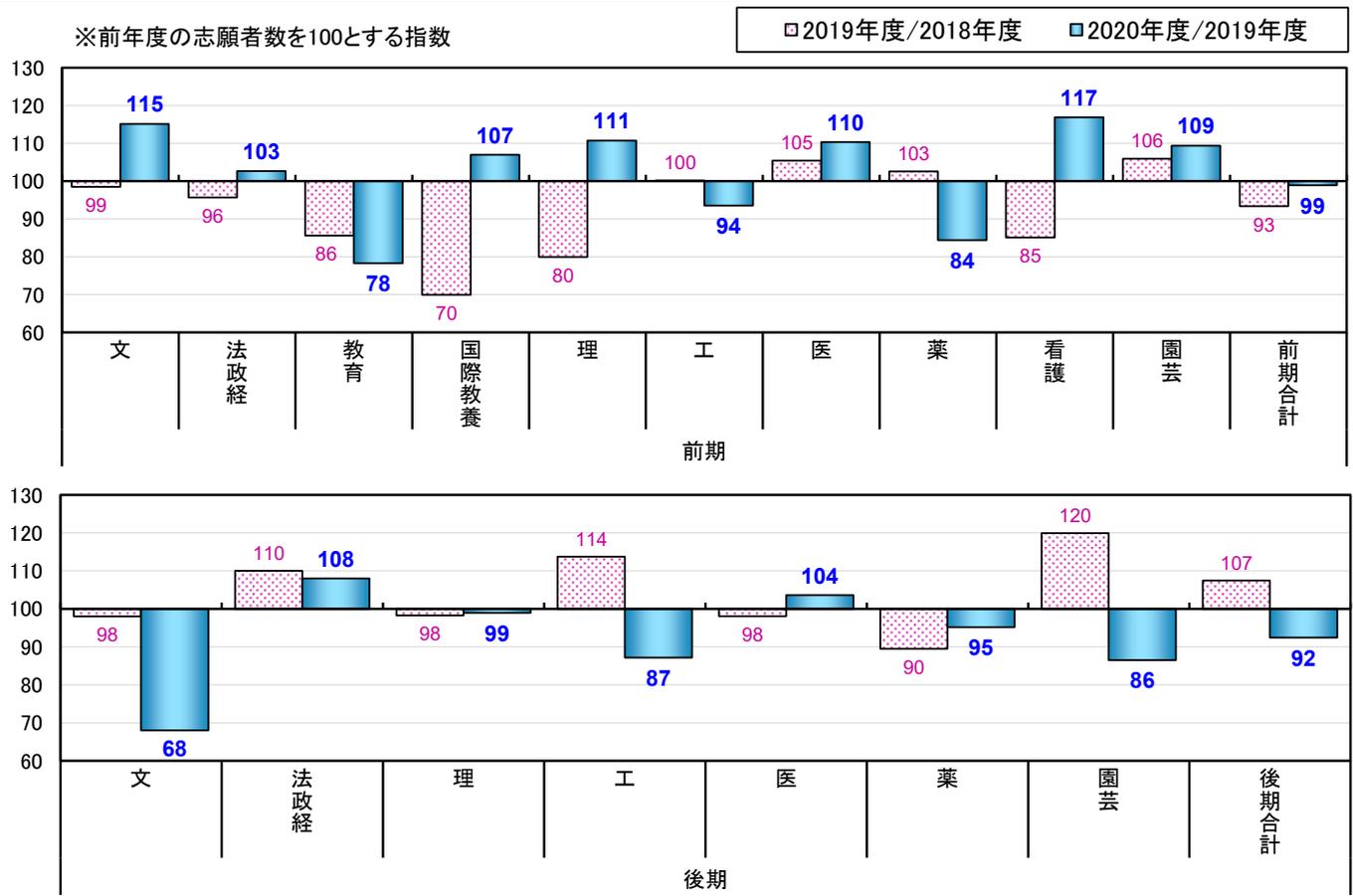
大学全体では、前期は前年度増加の反動で307人(91)の減少。学部別では、教育(83)が大幅減少。後期は48人(98)の微減だが、2年連続減少。学部別では、教養(72)が前年度激増の反動で大幅減少。

<前期日程>
 ○**経済(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。方式別では、<一般枠>(87)は前年度大幅増加の反動で減少。一方で、<国際プログラム枠>(105)は前年度大幅増加の反動はなく、さらにやや増加して3年連続増加。
 ○**教育(83)**、大幅減少で前年度のやや増加から再び減少に転じた。課程・コース・系・専修・分野(以下「募集単位」)別では、18募集単位中6募集単位が増加だが、(学校教育/中学言語文化-英語)(113)を除いた募集単位はいずれも大幅増加。一方で、減少した12募集単位中8募集単位が大幅減少で、(学校教育/中学芸術-音楽)(63)の減少が最も目立った。
 ○**教養(111)**は、前年度大幅増加に続いて2年連続増加。
 ○**理(105)**は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(分子生物)(213)は前年度ほぼ半減の反動で倍増以上の増加、(生体制御)(118)は2年連続大幅増加、一方で(基礎化学)(88)は2年連続減少、志願倍率も5年連続で3倍を下回った。
 ○**工(87)**は、前年度の微減に続いて2年連続減少。学科別では、前年度大幅減少の反動で(情報工)(152)が大幅増加、一方他の4学科はいずれも大幅減少で、旧(電気電子システム工)から3年連続増加の反動による(電気電子物理工)(58)の大幅減少が目立った。

<後期日程>
 ○**経済(104)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
 ○**教養(72)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 ○**理(109)**は、4年連続減少の反動で増加。学科別では、5学科中2学科が増加したが(物理)(130)、基礎化学(117)のいずれも大幅増加。
 ○**工(98)**は、微減だが2年連続減少で、志願倍率も2年連続で6倍を下回った。学科別では、前年度大幅減少の反動で(情報工)(135)、(応用化学)(118)が大幅増加。一方で、(環境社会デザイン)(66)、(電気電子物理工)(68)は大幅減少。

千葉大：国公立大では5年連続で志願者数最多

前期：-70人 後期：-329人



入試変更点

学費：535,800円(年額)→642,960円(年額)

選抜方法：文(人文/日本・ユーラシア文化)〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更
 教育(学校/英語)〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更
 得点加算(複数基準)→みなし満点、得点加算(複数基準)

国際教養(通常型)〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更
 理(物理)〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更
 医(医)〈千葉県地域枠〉〈前〉〈後〉…新規実施、〈前〉15人、〈後〉5人
 看護(看護)〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更
 園芸〈前〉…英語外部試験=GTEC(4技能)追加、スコア変更

募集人員：文(人文/日本・ユーラシア文化)〈後〉…3人→後期廃止
 教育(学校/英語)〈前〉…(A選択)：18人、(B選択)：12人
 →30人(入学手続時の希望調査と入学試験の成績を勘案してA・B選択のグループ分けを決定)
 (学校/小中音楽)〈前〉…(A選択)：8人、(B選択)：3人
 →10人(入学手続時の希望調査と入学試験の成績を勘案してA・B選択のグループ分けを決定)
 (学校/小中図画工作・美術)〈前〉…(A選択)：8人、(B選択)：3人
 →12人(入学手続時の希望調査と入学試験の成績を勘案してA・B選択のグループ分けを決定)
 (学校/小中家庭科)〈前〉…(A選択)：8人、(B選択)：3人
 →12人(入学手続時の希望調査と入学試験の成績を勘案してA・B選択のグループ分けを決定)

医(医)〈一般枠〉〈前〉〈後〉…〈前〉97人、〈後〉20人→〈前〉82人、〈後〉15人

センター：教育(学校/中学社会)〈前〉…国<100>+歴公2<100>+数2<100>+外<100>+(理 or 理基2)<50>=総点<450>
 →国<50>+歴公2<200>+数2<50>+外<50>+(理 or 理基2)<100>=総点<450>

個別：法政経〈前〉…国<250>+数<250>+外<300>=総点<800>→国<300>+数<300>+外<300>=総点<900>
 教育(学校/小学校)〈前〉…外+面+(国 or 数(数I・A))→国+数(数I・II・A・B)+外+面
 (学校/中学国語)〈前〉…国+外+専門適性検査→国+数+外+専門適性検査
 (学校/中学社会)〈前〉…外+論+専門適性検査→国+数+外+専門適性検査
 (学校/中学数学)〈前〉…数(数I・II・A・B)+外+専門適性検査→数(数I・II・III・A・B)+理+外+専門適性検査
 (学校/中学理科)〈前〉…理+外+専門適性検査→数+理+外+専門適性検査
 (学校/中学技術)〈前〉…数(数I・A)+外+専門適性検査→数(数I・II・A・B)+理+外+専門適性検査
 (学校/特別支援)〈前〉…外+専門適性検査+(国 or 数(数I・A))→国+数(数I・II・A・B)+外+面
 (学校/乳幼児)〈前〉…外+専門適性検査+(国 or 数(数I・A))→国+数(数I・II・A・B)+外+専門適性検査
 (学校/養護教諭)〈前〉…外+保健体育+面→理+外+保健体育+面

	教育(学校/小中音楽、小中図画工作・美術、小中保健体育)〈前〉 …(A選択)外+面+実、(B選択)外+実+専門適性検査→外+実+専門適性検査+(国 or 数) (学校/小中家庭科)〈前〉…(A選択)外+面+(国 or 数)、(B選択)外+論+専門適性検査→国+数+外+専門適性検査 (学校/英語)〈前〉…(A選択)外+面+(国 or 数)、(B選択)外+専門適性検査→外+専門適性検査+(国 or 数)
--	--

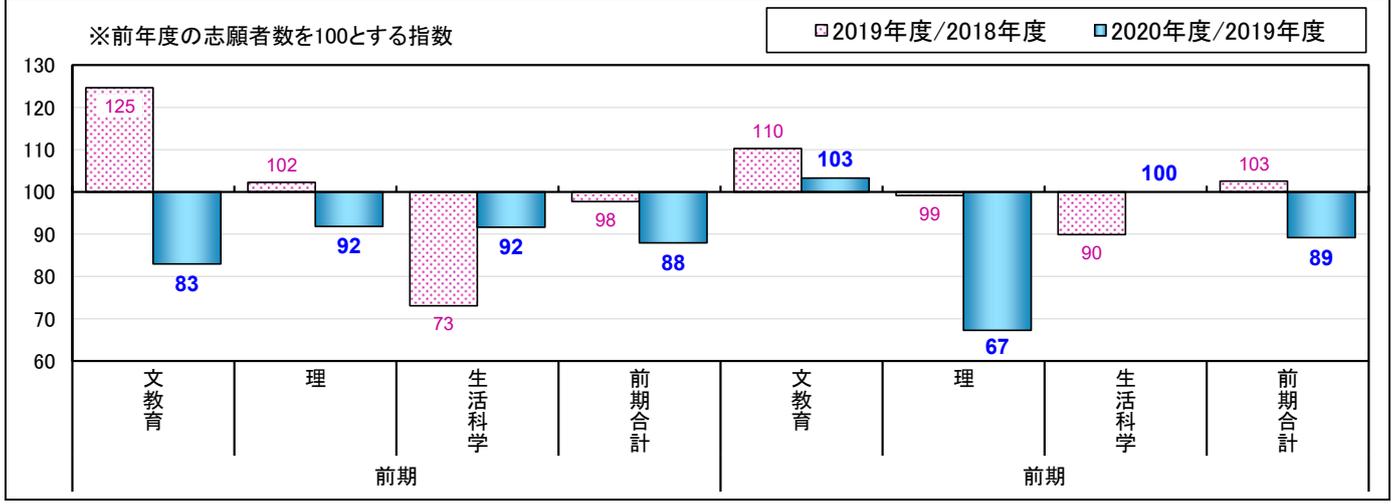
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、339 人(96)のやや減少だが、国公立大では 5 年連続で志願者数最多。日程別では、前期(99)は 70 人の微減だが、後期(92)はセンター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて 329 人の減少。

- 〈前期日程〉
- 文(115)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。コース別では、(人文/日本・ユーラシア文化)(142)、(人文/行動科学)(129)は大幅増加、(人文/国際言語文化)(89)は減少、(人文/歴史)(96)はやや減少。
 - 法政経(103)は、2 年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
 - 教育(78)は、系統への不人気から大幅減少で 2 年連続減少。コース別では、(中学数学)(141)は大幅増加、(養護教諭)(114)は増加、(中学社会)(105)はやや増加だったが、他の 6 専攻は減少で、(中学理科)(91)以外は大幅減少。特に、中学国語(33)、中学技術(43)の 2 専攻は半減以下。
 - 国際教養(107)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。開設 2 年目の 2017 年度以降、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈通常型〉(112)は前年度大幅減少の反動で増加、一方で、〈特色型〉(62)は前年度 2 倍以上の増加の反動で大幅減少、志願倍率は 1.4 倍→3.4 倍→2.1 倍と激しいアップダウンが続いた。
 - 理(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(数学・情報)(94)を除く 5 学科で増加し、特に(物理)(127)、(生物)(117)が大幅増加。
 - 工(94)は、やや減少。コース別では、(総合工/機械工)(126)、(総合工/物質科学)(122)は大幅増加。一方で、(総合工/都市環境システム)(60)、(総合工/共生応用化学)(71)、(総合工/情報工)(85)は大幅減少。
 - 医(110)は、増加で 2 年連続増加。志願倍率は〈一般枠〉が 3.4 倍、新設の〈地域枠〉が 5.7 倍で、いずれも第 1 段階選抜が実施され、合格率は〈一般枠〉88.5%、〈地域枠〉64.7%で、〈地域枠〉が激戦だった。
 - 薬(84)は、系統への不人気に加えて、2 年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は 4.8 倍と 5 倍を下回った。
 - 看護(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016 年度以降、前年度の反動による増減が継続。
 - 園芸(109)は、増加で 2 年連続増加。学科別では、(緑地環境)(149)、(応用生命科学)(118)は大幅増加、一方で、(園芸)(82)は大幅減少。

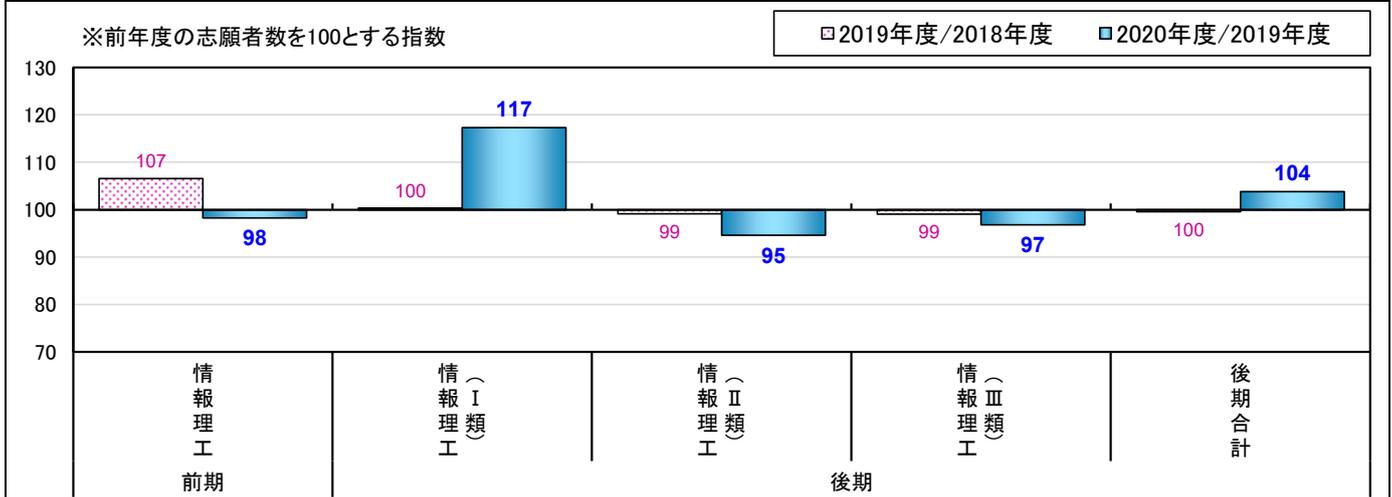
- 〈後期日程〉
- 文(68)は、大幅減少で 2 年連続減少。ただし、後期廃止の(人文/日本・ユーラシア文化)を除くと、(106)とやや増加。コース別では、(人文/歴史)(109)が増加、(人文/行動科学)(105)はやや増加。
 - 法政経(108)は、増加で 2 年連続増加。
 - 理(99)は、7 年連続減少で、過去 3 年は微減が続いている。学科別では、(化学)(127)、(数学・情報)(123)が大幅増加、一方で、(生物)(66)は大幅減少。
 - 工(87)は、減少。改組後 2 年目以降は、前年度の反動による増減が継続。コース別では、(総合工/建築)(120)が大幅増加、一方で、(総合工/電気電子工)(57)、(総合工/医工)(72)、(総合工/共生応用化学)(77)、(総合工/都市環境システム)(78)は大幅減少。
 - 医(104)は、2 年連続減少の反動でやや増加。志願倍率は〈一般枠〉が 18.7 倍、新設の〈地域枠〉が 18.6 倍で、いずれも第 1 段階選抜が実施され、合格率は〈一般枠〉88.9%、〈地域枠〉53.8%で、前期同様に〈地域枠〉が激戦だった。
 - 薬(95)は、やや減少で系統への不人気から 4 年連続減少。
 - 園芸(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、(応用生命化学)(67)、(園芸)(73)の大幅減少が目立った。

お茶の水女子大：前期は全学部減少、後期は理のみ減少 前期：-129 人 後期：-68 人



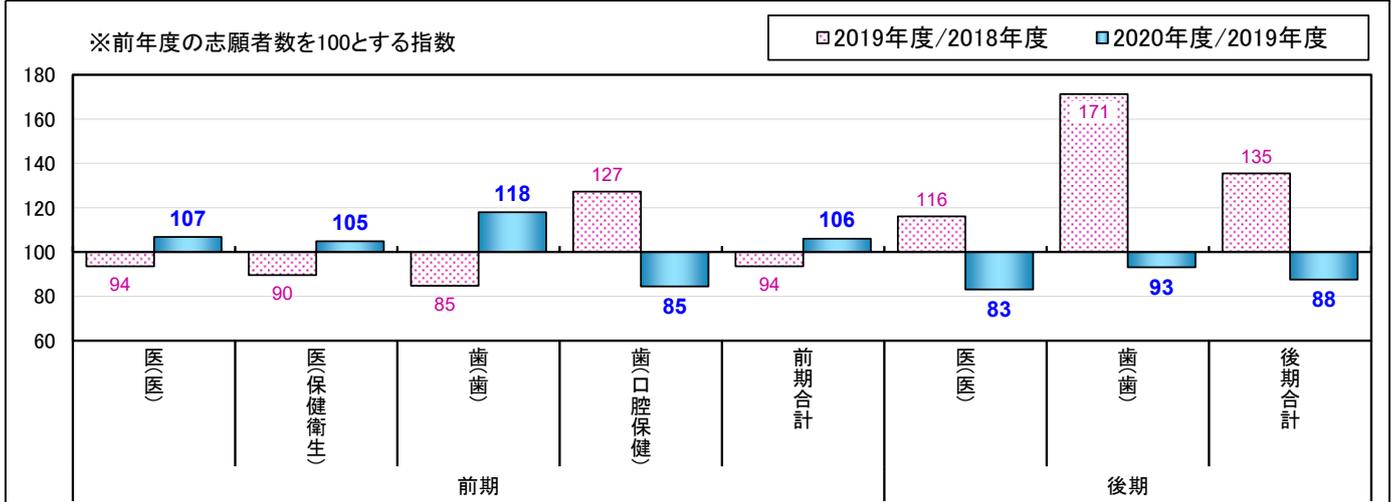
<p>COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数</p> <p>大学全体では、前期は 129 人(88)の減少で、2 年連続減少。学部別では、3 学部全てが減少で、文教育(83)は大幅減少。後期は 68 人(89)の減少で、2 年ぶりに減少。学部別では、理(67)のみの減少だが、大幅減少。</p> <p><前期日程></p> <p>○文教育(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2015 年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科・専修プログラム別では、(芸術・表現行動／舞踊教育)(100)は志願者数が前年度と同数だったが、他はいずれも減少。特に、(人文科学)(61)、(人間社会科学)(80)、(芸術・表現行動／音楽表現)(80)は大幅減少。</p> <p>○理(92)は、減少で 2 年ぶりに減少。学科別では、(物理)(156)、(数学)(119)が大幅増加、一方で、(化学)(59)、(生物)(69)、情報科学(85)は大幅減少と対照的な志願状況。</p> <p>○生活科学(92)は、前年度の大幅減少に続いて減少。学科別では、(心理)(110)のみ増加、他の 3 学科はいずれも減少だが、(人間・環境科学)(60)の大幅減少が目立った。</p> <p><後期日程></p> <p>○文教育(103)は、やや増加だが 2 年連続増加。学科・専修プログラム別では、(芸術・表現行動／音楽表現)(67)が大幅減少。一方で、(人文科学)(107)、(人間社会科学)(103)はいずれもやや増加。</p> <p>○理(67)は、大幅減少で前年度の微減に続いて 2 年連続減少。学科別では、5 学科全てが大幅減少で、特に(生物)(48)、(化学)(50)はほぼ半減。</p> <p>○生活科学(100)は、2 年連続減少の反動はなく、志願者数は前年度と同数。学科別では、(食物栄養)(123)が大幅増加、(人間・環境科学)(73)が大幅減少と募集を行う 2 学科で対照的な志願状況。</p>
--

電気通信大：前期は微減、後期は募集方法変更後最多の志願者数 前期：-30 人 後期：+90 人



<p>COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数</p> <p>大学全体では、前期は 30 人(98)の微減だが、2 年ぶりの減少。後期は 92 人(104)のやや増加、過去 2 年間は前年度並だったが、今年度は 2016 年度の募集方法と募集人員の変更以降では最多の志願者数だった。</p> <p><前期日程></p> <p>○情報理工(98)は、微減。2016 年度に募集方法と募集人員の変更を行ったが、2017 年度以降、前年度の増減による反動が継続。</p> <p><後期日程></p> <p>○情報理工(104)は、やや増加。志願倍率は 9.7 倍→10.1 倍とアップし、10 倍を上回った。類別では、系統への人気が高い情報系の(I 類)(117)が 2016 年度に募集方法と募集人数の変更を行ったが、2017 年度以降 4 年連続増加。一方で、融合系の(II 類)(95)は 3 年連続減少、理工系の(III 類)(97)は 2 年連続減少。</p>
--

東京医科歯科大：前期は歯(口腔保健)が大幅減少、後期は医(医)が大幅減少 前期：-43人 後期：-45人



入試変更点 募集人員：医(医)〈前〉…82人→81人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は4年連続減少の反動で、43人(106)のやや増加。学部・学科・専攻別では、医(保健衛生/看護)(93)、歯(口腔保健/口腔保健工)(48)を除いた学部・学科・専攻は増加。後期は45人(88)の減少で、2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。

＜前期日程＞

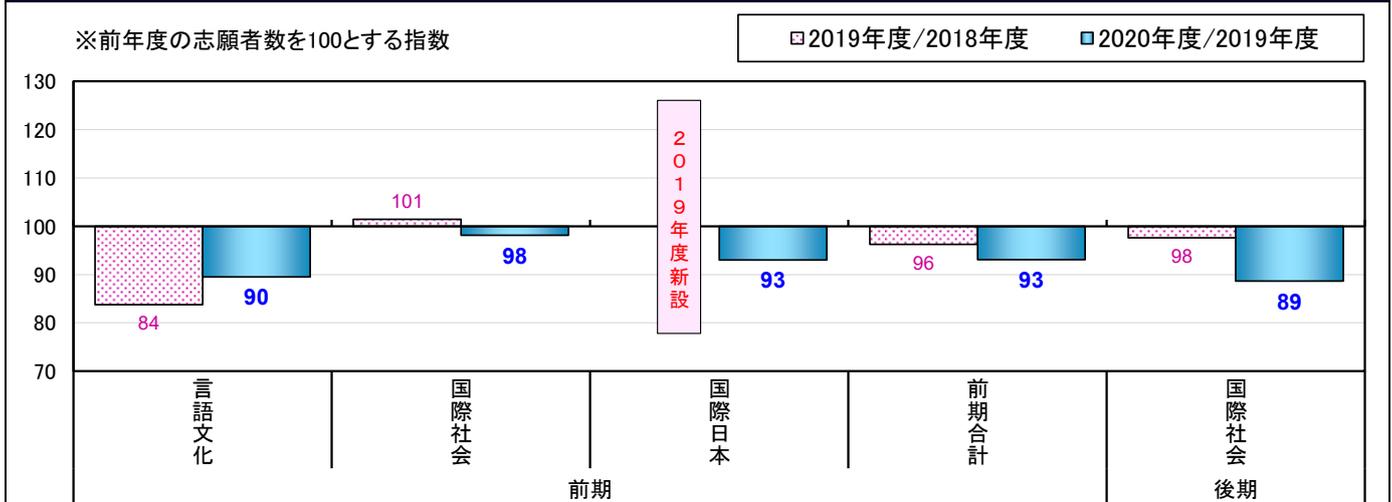
- 医(医)(107)は、3年連続減少の反動でやや増加。
- 医(保健衛生)(105)は、2年連続減少の反動でやや増加。専攻別では、(保健衛生/検査技術)(119)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(保健衛生/看護)(93)は前年度増加の反動で、やや減少と対照的。
- 歯(歯)(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度減少人数と同じ人数の増加人数だった。
- 歯(口腔保健)(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2014年度以降、前年度の増減による反動が継続。専攻別では、(口腔保健/口腔保健衛生)(104)は前年度大幅増加に引き続き、やや増加。一方で、(口腔保健/口腔保健工)(48)は半減以上の大幅減少で、志願倍率は2倍を下回った。

＜後期日程＞

- 医(医)(83)は、前年度大幅増加の反動とセンター試験重視の配点により、センター試験の平均点ダウンの影響を受けて大幅減少。志願倍率も20.2倍→16.8倍にダウン。
- 歯(歯)(93)は、前年度大幅増加の反動でやや減少。2014年度以降、前年度の増減による反動が継続。

東京外国語大：前期志願者数は5年連続減少

前期：-126人 後期：-186人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は126人(93)のやや減少で5年連続減少。前期合計の志願倍率は3.1倍→2.9倍と3倍を下回った。国際社会のみ募集の後期は、186人(89)の減少で5年連続減少。志願倍率は29.3倍→25.9倍とダウンしたが、それでも25倍を超える厳しい競争が続いた。

＜前期日程＞

- 言語文化(90)は、3年連続減少、志願倍率も3.4倍→3.1倍にダウン。専攻言語別では、欧米系言語合計(ロシア語含む)(94)は4年連続減少、志願倍率も3.0倍→2.9倍とわずかにダウン。アジア・中東系言語合計(85)は3年連続大幅減少、志願倍率

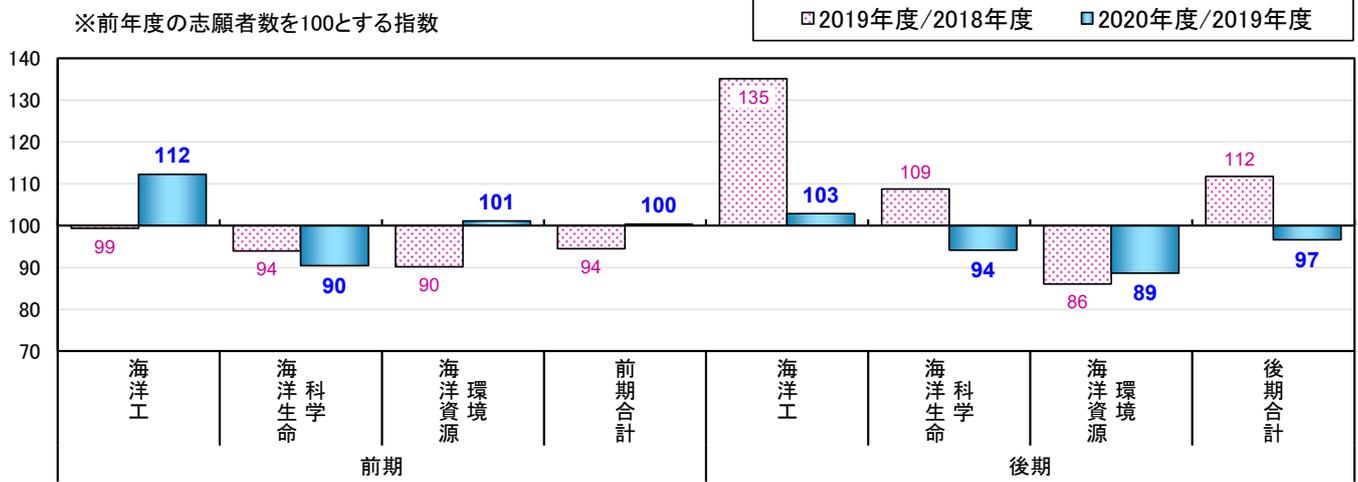
は3.9倍→3.4倍にダウン。

○国際社会(98)は、微減だが再び減少に転じた。専攻地域別では、欧米地域合計(92)は前年度大幅増加の反動から減少。それ以外の地域合計(104)はやや増加で、2016年度以降前年度の反動による増減が続いている。

○新設2年目の国際日本(93)は、減少。志願倍率も3.3倍→3.0倍にダウン。

東京海洋大：海洋工が前期・後期ともに増加

前期：+3人 後期：-32人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は3人(100)の微増で、2年連続減少の反動はみられなかった。後期は、32人(97)のやや減少で、2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。民間の英語4技能資格・検定試験を出願要件としていない海洋工が、前期・後期ともに増加。

＜前期日程＞

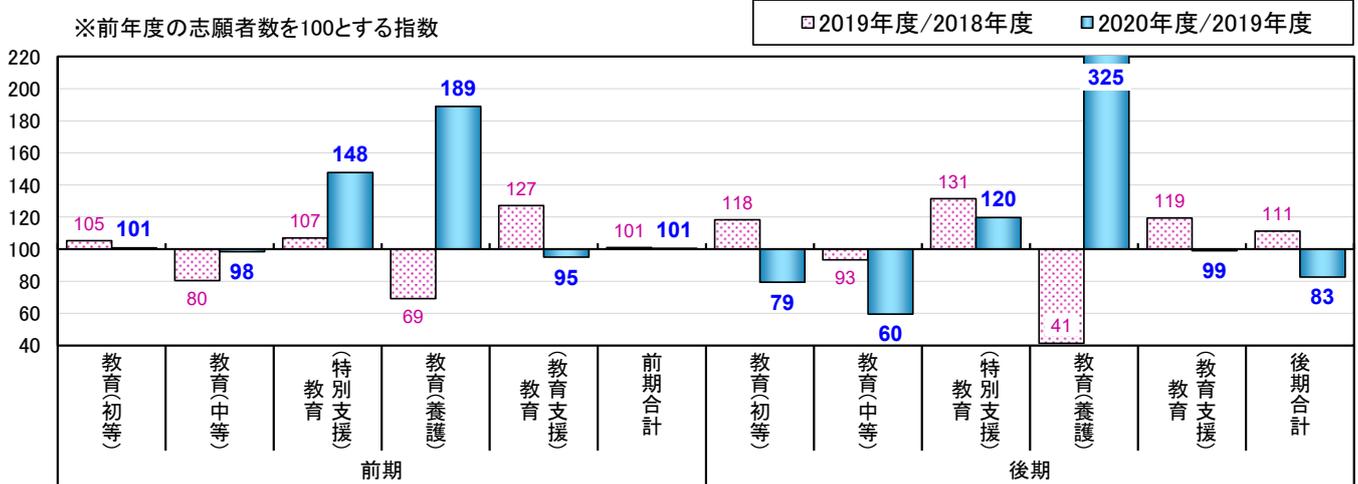
- 海洋工(112)は、2年連続減少反動で増加。学科別では、3学科のいずれも増加で、特に、(海事システム工)(121)は大幅増加。
- 海洋生命科学(90)は、系統への低い人気も影響し、3年連続減少。学科別では、(海洋生物資源)(104)はやや増加だが、これを除く2学科は減少、特に、(海洋政策文化)(66)は大幅減少。
- 海洋資源環境(101)は、2年連続減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(環境資源エネルギー)(141)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で、(海洋環境科学)(90)は減少で3年連続減少と対照的。

＜後期日程＞

- 海洋工(103)は、やや増加で、2年連続増加。学科別では、(流通情報工)(182)、(海洋電子機械工)(130)は大幅増加、一方で、(海事システム工)(43)は半減を超える大幅減少と対照的。
- 海洋生命科学(94)は、やや減少。2017年度の学部改組後、翌年から前年度の反動による増減が継続。学科別では前期と同様の増減で、(海洋生物資源)(139)は大幅増加だが、これを除く2学科は減少、特に、(海洋政策文化)(61)は大幅減少。
- 海洋資源環境(89)は、2017年度の学部改組後、減少が継続した。学科別では前期と同様の増減で、(環境資源エネルギー)(126)は前年度半減の反動で大幅増加、一方で、(海洋環境科学)(79)は大幅減少と対照的。

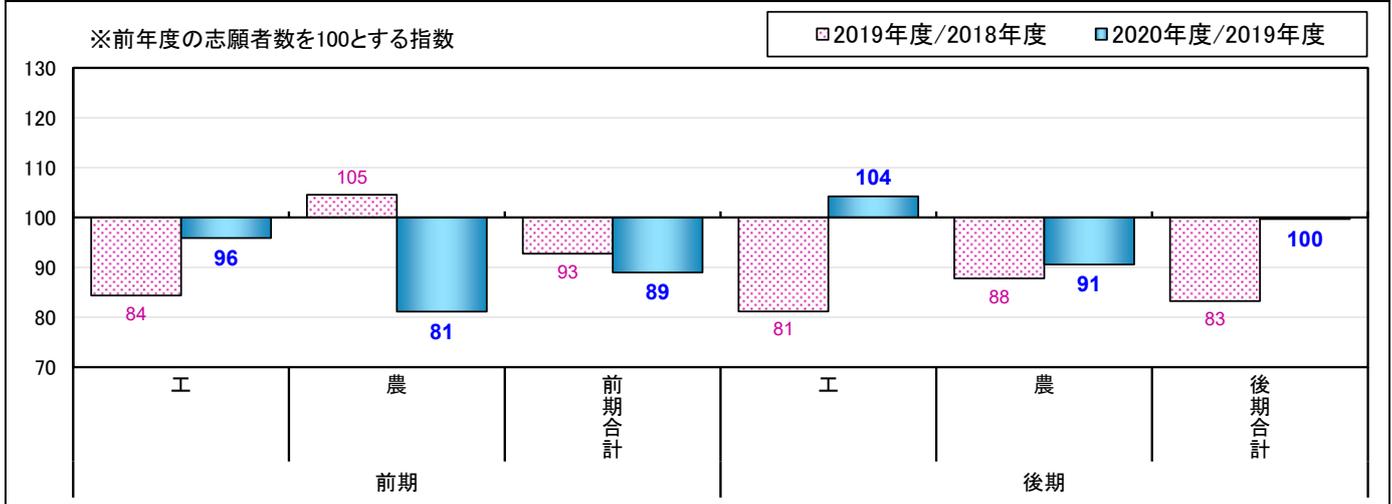
東京学芸大：前期は微増、後期はセンター試験平均点ダウンで大幅減少

前期：+10人 後期：-227人



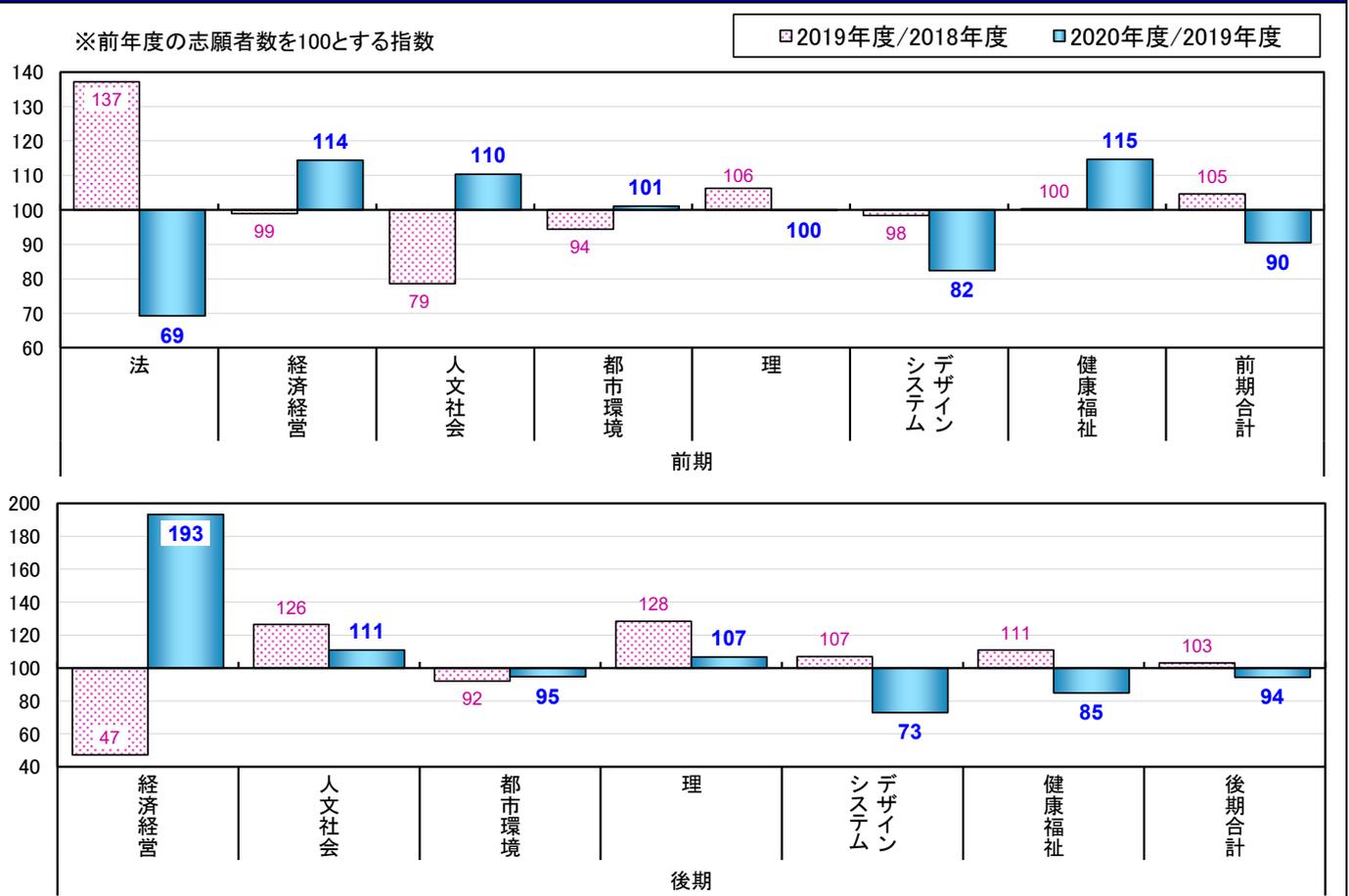
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、前期は 10 人(101)で 2 年連続微増。後期は 227 人(83)の大幅減少、前年度増加の反動と個別試験で教科試験がなく、センター試験の平均点ダウンの影響が大きく、センター試験失敗組に敬遠されたことが影響。</p>
<p>＜前期日程＞</p> <p>○教育(初等)(101)は、微増だが 2 年連続増加で志願者数は 900 人に達した。2014 年度以降、増加率は小さいが 7 年間で 6 回増加しており、安定した人気を保っている。専修別では、16 選修中 9 選修が増加で、特に、(初等/ものづくり)(246)、(初等/国際教育)(179)、(初等/家庭)(174)が 70%を超える大幅増加、一方で、(初等/環境教育)(50)、(初等/学校教育)(56)、(初等/理科)(74)は大幅減少。</p> <p>○教育(中等)(98)は、前年度大幅減少の反動はなく、微減だった。専攻別では、11 専攻中 5 専攻が増加で、(中等/書道)(157)、(中等/国語)(117)が大幅増加、一方で、(中等/技術)(76)、(中等/理科)(77)、(中等/数学)(78)が大幅減少で、理系の専攻の減少が目立った。</p> <p>○教育(特別支援)(148)は、前年度のやや増加に引き続いて、大幅増加。</p> <p>○教育(養護)(189)は、2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。</p> <p>○教育(教育支援)(95)は、やや減少。2015 年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。専攻・コース別では、(教育支援/教育支援—生涯学習)(152)、(教育支援/教育支援—多文化共生教育)(147)が大幅増加、一方で、(教育支援/教育支援—生涯スポーツ)(42)、(教育支援/教育支援—情報教育)(69)が大幅減少。</p>
<p>＜後期日程＞</p> <p>○教育(初等)(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専修別では、後期募集を行う 9 選修中増加は 2 選修のみで、(初等/学校心理)(117)が大幅増加、一方で減少した 7 選修中 5 専修が大幅減少。特に、(初等/情報教育)(39)は前年度大幅増加の反動で 60%以上の大幅減少だった。</p> <p>○教育(中等)(60)は、大幅減少で 2 年連続減少。専攻別では、後期募集を行う 4 専攻全てが 30%を超える大幅減少。特に、(中等/理科)(55)は半減近い減少。</p> <p>○教育(特別支援)(120)は、2 年連続大幅増加。</p> <p>○教育(養護)(325)は、前年度の半減を超える減少の反動で、3 倍以上の大幅増加。志願倍率は 9.8 倍までアップ。</p> <p>○教育(教育支援)(99)は、前年度並で前年度大幅増加の反動はなかった。後期募集を行う 3 つの専攻・コースでは、(教育支援/教育支援—情報教育)(132)が大幅増加。一方で、(教育支援/教育支援—多文化共生教育)(89)が 10%を超える減少。</p>

東京農工大：前期減少、後期微減、学部・日程別では工<後>除いて減少 前期：-151 人 後期：-5 人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、前期は 151 人(89)の減少で、2 年連続減少。後期は 5 人(100)の微減で、前年度大幅減少の反動はみられなかった。</p>
<p>＜前期日程＞</p> <p>○工(96)は、前年度大幅減少に引き続いて、やや減少。学科別では、6 学科中 5 学科が減少。特に、(生体医用システム工)(70)、(化学物理工)(73)は大幅減少、一方で、唯一増加した(知能情報システム工)(141)は系統への高い人気もあり大幅増加。</p> <p>○農(81)は、大幅減少で 2 年ぶりに減少。学科別では、5 学科中 4 学科が減少。特に、(応用生物科学)(68)、(環境資源科学)(68)は大幅減少。共同獣医(86)も 10%を超える減少。</p>
<p>＜後期日程＞</p> <p>○工(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、6 学科中 4 学科が増加。特に、(知能情報システム工)(127)、(応用化学)(127)、(生体医用システム工)(122)は大幅増加、一方、で減少した(化学物理工)(70)、(生命工)(81)は大幅増加と対照的。</p> <p>○農(91)は、前年度大幅減少に引き続いて、減少。学科別では、5 学科中 4 学科が減少。特に、(地域生態システム)(76)、(共同獣医)(81)は大幅減少。</p>

東京都立大：学部改組 2 年目、文系学部で目立つ大幅な増減 前期：-551 人 後期：-157 人



入試変更点 大学名称：首都大学東京→東京都立大(2020年4月変更)
 募集人員：人文社会<前>…61人→51人、<後>…12人→10人

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は551人(90)の減少。2015年度以降、前年度の反動による増減が続いている。後期は157人(94)のやや減少。前年度のやや増加の反動が見られる。

<前期日程>

- 法(69)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。さらに、センター試験は3教科3科目で受験可能だが、国語、英語の平均点ダウンが影響。
- 経済経営(114)は、改組前の都市教養(都市/経営)を含めて3年連続減少した反動で増加。方式別では、理系型の<数理>(168)は激増、文系型の<一般>(104)はやや増加。
- 人文社会(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。(人間社会)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(人文)(95)はやや減少で、改組後2年連続減少。
- 都市環境(101)は、2年連続減少の反動はなく前年度並。学科別では、大幅な増減が見られ、(都市政策科学)<文系>(195)が前年度半減の反動で倍増近い大幅増加、(観光科学)(132)、(都市政策科学)<理系>(130)、(都市基盤環境)(122)も大幅増加、一方で(地理環境)(68)、(環境応用化学)(77)、(建築)(85)は大幅減少と対照的だった。
- 理(100)は、2年連続増加の反動はなく前年度並。学科別では、(化学)(152)が大幅増加、一方で(生命科学)(62)、(数理科学)(84)が大幅減少。
- システムデザイン(82)は、大幅減少で2年連続減少。センター試験平均点のダウンにより、第1段階選抜を嫌う層が敬遠。学科別では、(機械システム工)(118)は大幅増加だが、他の4学科は減少。特に(電子情報システム工)(49)は半減以上の減少、(航空宇宙システム工)(80)も大幅減少。
- 健康福祉(115)は、大幅増加。学科別では、(放射線)(166)、(作業療法)(153)の2学科が大幅増加。

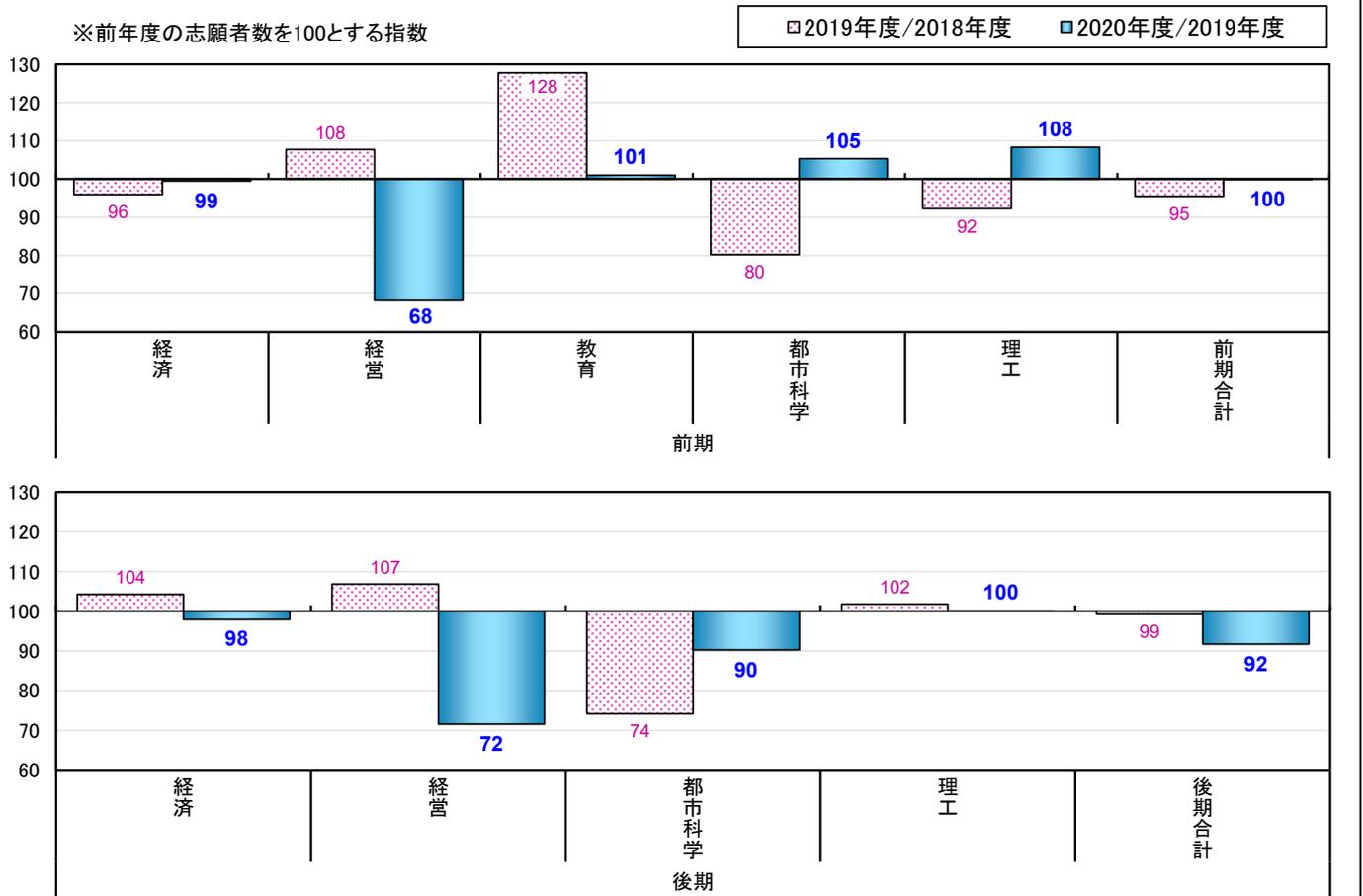
<後期日程>

- 経済経営(193)は、改組前の都市教養(都市/経営)を含めて3年連続大幅減少した反動でほぼ倍増。
- 人文社会(111)は、改組前の都市教養(都市/人文・社会)を含めて3年連続増加した反動はなく、さらに増加。2学科とも増加し、特に(人文)(124)が大幅増加。
- 都市環境(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(地理環境)(65)の大幅減少、(環境応用化学)(88)の減少が目立った。
- 理(107)は、前年度大幅増加に引続き増加。学科別では、(化学)(193)はほぼ倍増で3年連続増加。一方で、(生命科学)(73)、(数理科学)(74)は大幅減少。
- システムデザイン(73)は、前年度まで3年連続増加の反動で大幅減少。センター試験平均点のダウンにより、第1段階選抜を嫌う層が敬遠。学科別では、5学科全てが減少で、(情報科学)(94)を除く4学科は大幅減少。

○健康福祉(85)は、大幅減少で、前年度2年ぶりに増加したが再び減少に転じた。学科別では、前年度半減近い減少だった(放射線)(216)は倍増以上だが、他の3学科は大幅減少。特に、(作業療法)(42)は半減以下。

横浜国立大：前期・後期ともに3年連続減少

前期：-5人 後期：-430人



入試変更点 個別：都市科学(建築、都市基盤)…数+理2((物 or 化 or 生)→2)+外→数+理2(物+化)+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は5人(100)のみの微減だが、個別試験を実施しない経営(68)は大幅減少。後期は430人(92)の減少で、前期・後期ともに3年連続減少。

<前期日程>

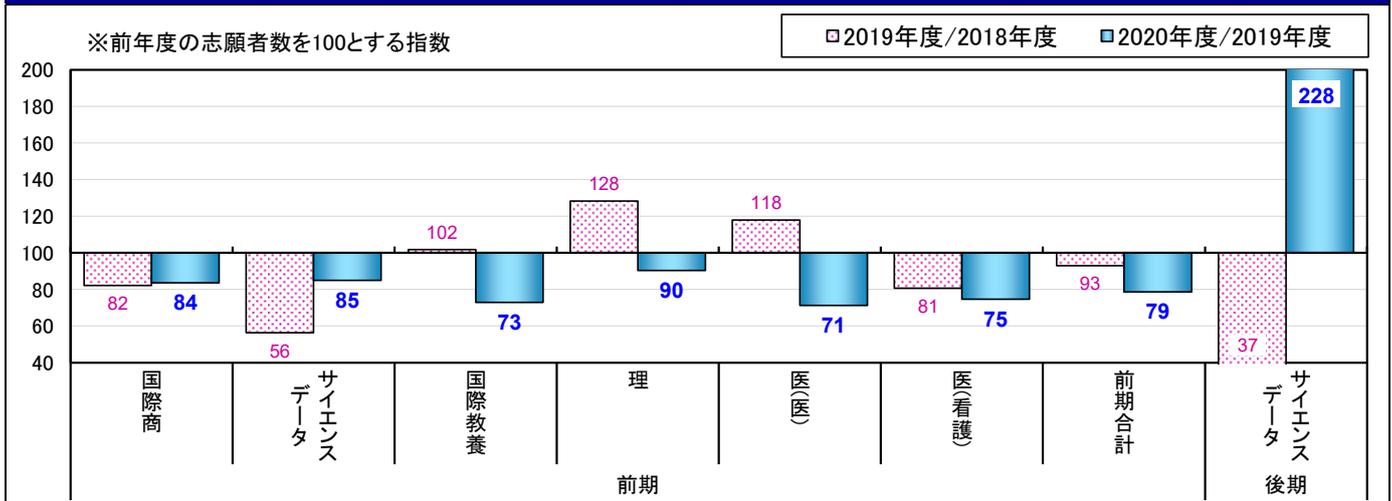
- 経済(99)は、微減だが2年連続減少。
- 経営(68)は、個別試験を実施しないので、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて大幅減少。
- 教育(101)は、前年度大幅増加の反動は見られず前年度並。コース別では、(学校教育/人間形成、教科教育)(99)は前年度並、(学校教育/特別支援教育)(129)は前年度半減近い大幅減少の反動で大幅増加。
- 都市科学(105)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、(環境リスク共生)(134)が前年度減少の反動で大幅増加したが、他の3学科は前年度並。
- 理工(108)は、2年ぶりに増加。学科・教育プログラム別では、(数物・電子情報系/物理工)(134)、(数物・電子情報系/情報工)(129)、(化学・生命系/化学・化学応用)(122)が大幅増加、一方で、(化学・生命系/バイオ)(56)、(数物・電子情報系/数理科学)(81)は大幅減少。

<後期日程>

- 経済(98)は、微減。2017年度以降、前年度の反動による増減が続いている。なお、第1段階選抜は志願倍率が12.5倍と実施予告倍率12倍を超えたが実施されなかった。
- 経営(72)は、増加で4年連続増加の反動と系統への人気低下により大幅減少、志願者数が900人を下回ったのは2004年度以来。第1段階選抜は志願倍率が9.0倍と実施予告倍率8倍を超えたが実施されなかった。
- 都市科学(90)は、前年度大幅減少に引続き減少。学科別では、(環境リスク共生)(136)のみが前年度ほぼ半減の反動で大幅増加、一方で(建築)(81)は大幅減少で2年連続減少となり、改組後では最も志願者数が少なくなった。
- 理工(100)は、微増だが2年連続増加。学科・教育プログラム別では、(化学・生命系/バイオ)(133)、(数物・電子情報系/物理工)(121)が大幅増加、一方で、(機械・材料・海洋系/材料工)(65)、(機械・材料・海洋系/海洋空間のシステムデザイン)(70)は大幅減少。

横浜市立大：前期は全学部減少、理以外は大幅減少

前期：-540 人 後期：+55 人



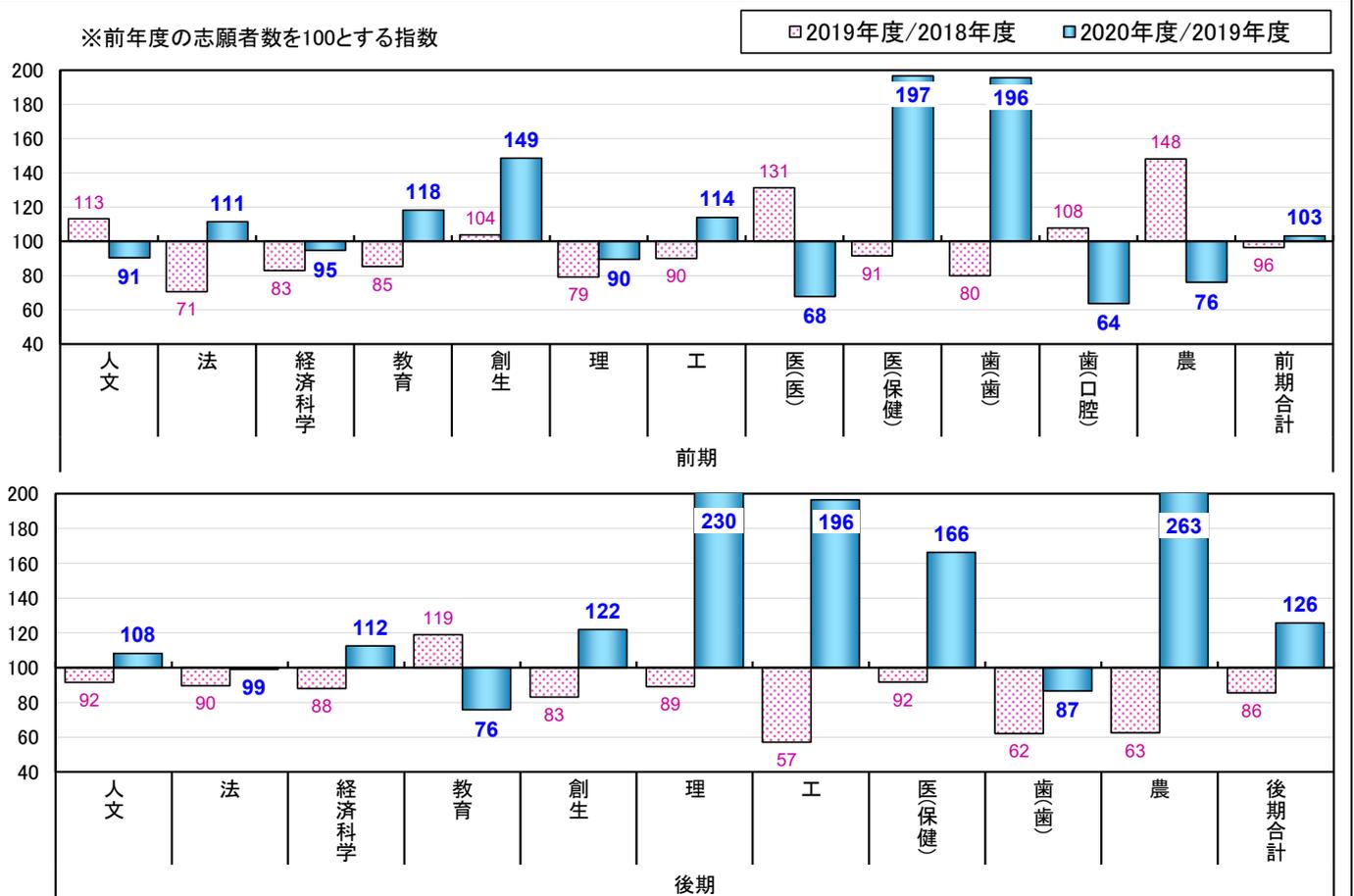
入試変更点	募集人員：医(医)〈地域枠〉前…17人→14人 〈神奈川県指定枠〉前…5人→2人 (看護)前…70人→65人
-------	--

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は540人(79)の大幅減少で、2年連続減少。後期はデータサイエンスのみの募集だが、55人(228)の倍以上の増加で、前年度激減の反動がみられた。これにより、志願倍率は開設初年度から23.0倍→8.6倍→19.6倍と毎年大きな変動が継続。

- 〈前期日程〉
- 国際商(84)は、系統への人気低下の影響もあり、改組前の国際総合科学(国際/経営科学)との比較を含めて、2年連続減少。志願者数が700人を下回ったのは2016年度以来。
 - データサイエンス(85)は、開設3年目だが2年連続大幅減少。
 - 国際教養(73)は、大幅減少で、改組前の国際総合科学(国際/国際教養)と国際総合科学(国際/国際都市)の合計との比較を含めて、2年ぶりに減少。志願者数が700人を下回ったのは、2013年度に前回の募集単位の変更が行われて以降では初めて。
 - 理(90)は、改組前の国際総合科学(国際/理)との比較を含めて、2年ぶりに減少。方式別では、個別試験が数+理2の〈A方式〉(65)が2年連続大幅増加の反動で大幅減少、個別試験が数+理1の〈B方式〉(144)は2年連続大幅増加と対照的な増減となった。
 - 医(医)(71)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数が300人を下回ったのは2年ぶり。
 - 医(看護)(75)は、2年連続大幅減少。志願倍率は1.8倍と2倍を下回った。

新潟大：前期はやや増加、後期は大幅増加で理、農は倍以上 前期：+107人 後期：+513人



入試変更点

学部改組：経済(経済、経営)〈前〉160人、〈後〉65人→経済科学(総合経済)〈前〉180人、〈後〉80人
 選抜方法：教育(学校/教育心理)…後期日程廃止(2人→0人)
 募集人員：人文〈前〉…145人→140人、〈後〉…50人→40人
 法〈前〉…90人→85人、〈後〉…40人→35人
 教育(学校/数学)〈前〉…13人→10人、〈後〉…3人→2人
 (学校/社会)〈前〉…18人→16人、〈後〉…5人→2人
 (学校/理科)〈前〉…15人→12人、〈後〉…4人→2人
 (学校/音楽)〈前〉…9人→8人
 (学校/美術)〈後〉…2人→1人
 (学校/保健体育)〈前〉…9人→8人、〈後〉…3人→2人
 (学校/国語)〈前〉…16人→13人、〈後〉…4人→2人
 (学校/英語)〈前〉…10人→7人
 (学校/技術)〈後〉…3人→2人
 (学校/家庭)〈前〉…7人→6人、〈後〉…2人→1人
 (学校/特別支援)〈前〉…9人→8人、〈後〉…3人→2人
 (学校/学校)〈前〉…14人→9人、〈後〉…3人→2人
 (学校/教育心理)〈前〉…10人→9人
 工(力学)〈前〉…86人→77人、〈後〉…17人→14人
 (情報電子)〈前〉…101人→90人、〈後〉…21人→18人
 (化学材料)〈前〉…89人→77人、〈後〉…18人→15人
 (建築)〈前〉…28人→25人、〈後〉…6人→5人
 (融合領域)〈前〉…45人→41人、〈後〉…9人→8人
 医(医)〈前〉…85人→80人

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続減少の反動は小さく、107人(103)のやや増加。学部別ではほとんどの学部が前年度と逆の増減。後期は2年連続減少の反動で、513人(126)の大幅増加で、特に理、農は倍以上。

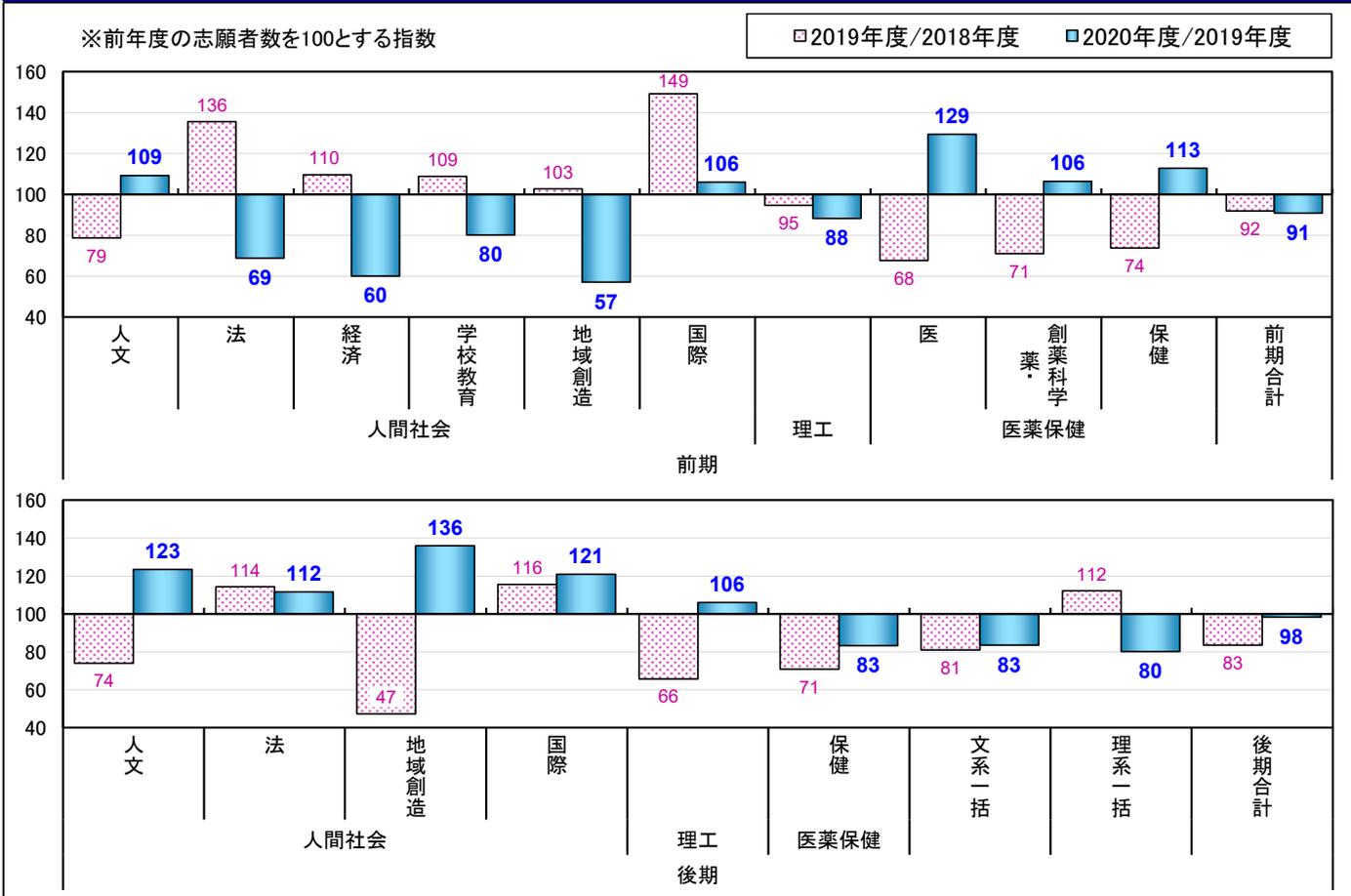
<前期日程>

- 人文(91)は、2年連続増加の反動で減少。
- 法(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 経済科学(95)は、今年度経済から改組、前年度経済との対比ではやや減少。募集人員は20人増加(+12.5%)なので、志願倍率は2.8倍→2.4倍にダウン。
- 教育(118)は、2017年度にゼロ免課程が廃止となり、(学校教員養成課程)のみの募集。(学校教員養成課程)のみで、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。募集人員が24人減少(-16.7%)なので、志願倍率は2.3倍→3.3倍にアップ。それでも、系統への不人気から2017年度対比指数(81)と大幅減少。
- 創生(149)は、大幅増加。開設初年度の2017年度に次いで多い志願者数で、志願倍率も2.4倍→3.6倍にアップ。
- 理(90)は、減少で2年連続減少。〈選抜方法A〉(112)は増加、一方で〈選抜方法B〉(79)、〈選抜方法C〉(66)はいずれも大幅減少。個別試験が一般的な英、数、理1の選択のみの〈選抜方式A〉に高い人気。
- 工(114)は、2年連続減少の反動で増加。
- 医(医)(68)は、4年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.0倍→4.3倍にダウン。
- 医(保健)(197)は、2年連続減少の反動で倍増近い激増。3専攻ともに大幅増加で、特に(保健/検査技術)(362)は3.5倍を超える激増。
- 歯(歯)(196)は、前年度大幅減少の反動で倍増近い激増。
- 歯(口腔生命福祉)(64)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 農(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は1.9倍で再び2倍を下回った。

<後期日程>

- 人文(108)は、前年度減少の反動で増加。
- 法(99)は、2年連続減少の反動はなく、微減。
- 経済科学(112)は、今年度経済から改組、前年度経済との対比では増加。ただし、募集人員は15人増加(+23.1%)なので、志願倍率は7.7倍→7.0倍に競争緩和。
- 教育(76)は、大幅減少。2017年度にゼロ免課程が廃止となり、(学校教員養成課程)のみの募集となって以降、前年度の反動による増減が続いている。
- 創生(122)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。開設初年度を除くと最も多い志願者数。
- 理(230)は、2年連続減少の反動で2.3倍の激増。志願倍率は2.6倍→5.9倍にアップ。
- 工(196)は、2年連続減少の反動で倍増近い激増。志願倍率は2.4倍→5.5倍にアップし、近年では2013年度の5.9倍に次ぐ高倍率だった。
- 医(保健)(166)は、3年連続減少の反動で大幅増加。3専攻ともに増加で、特に(保健/検査技術)(303)は3倍を超える激増。
- 歯(歯)(87)は、減少で2年連続減少。
- 農(263)は、4年連続減少の反動で2.5倍を超える激増。志願者数は2003年度以来の200人を上回り、志願倍率も2.7倍→7.2倍にアップ。

金沢大：前期は2年連続減少、後期も微減だが2年連続減少 前期：-266人 後期：-40人



入試変更点 第1段階選抜基準変更：医薬保健(医)〈前〉…約3.5倍(通過予定人数：294人)→約3倍(通過予定人数：252人)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は266人(91)の減少で、2年連続減少。志願者数は2,700人を下回った。後期は40人(98)の微減だが、2年連続減少。

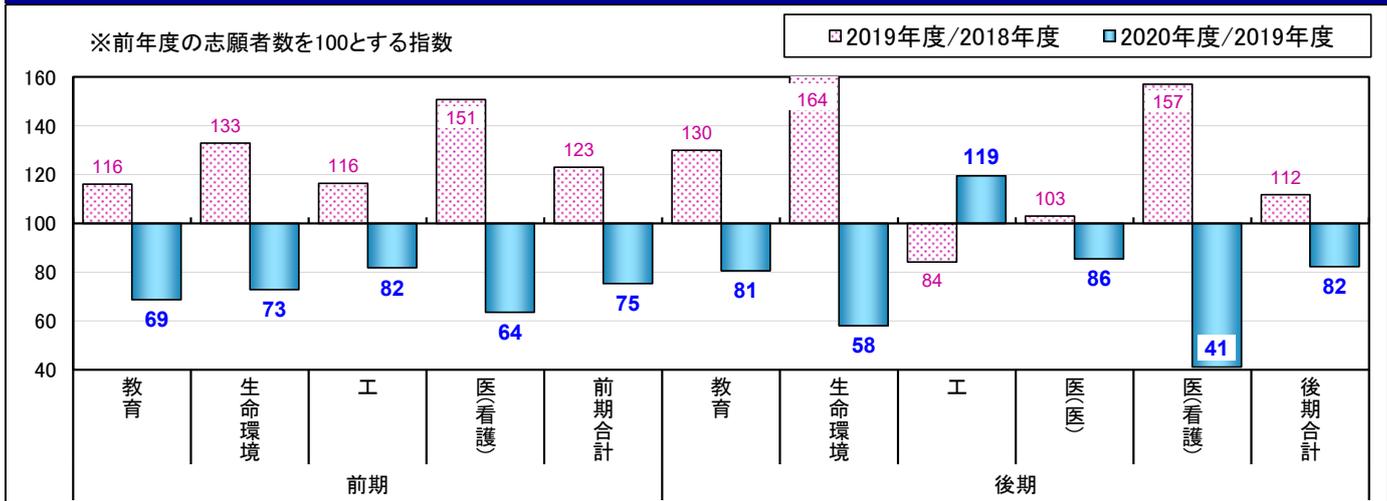
<前期日程>

- 人間社会(77)は、大幅減少。学類別で増加したのは2学類で、(人文)(109)は増加し、2011年度以降、前年度の反動による増減が継続。(国際)(106)も大幅増加の反動はなく、2年連続増加で志願者数も2年連続100人を上回った。一方で減少した4学類は全て大幅減少で、(地域創造)(57)は2年連続増加の反動で半減近い大幅減少、志願者数が100人を下回ったのは2015年度以来。(経済)(60)は系統への不人気により大幅減少。(法)(69)は2方式ともに大幅減少し、2015年度以降、前年度の反動による増減が継続。(学校教育)(80)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 理工(88)は、2年連続減少。志願者数は900人を下回り、志願倍率も1.9倍→1.7倍にダウン。学類別では、(地球社会基盤)(124)は前年度大幅減少で志願倍率が1.3倍だった反動で大幅増加。一方で、(生命理工)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(数物科学)(90)は3年連続減少で、志願倍率は1.7倍→1.5倍にダウン。
- 医薬保健(医)(129)は、大幅増加。2015年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。志願倍率は3.7倍で、第1段階選抜が実施され合格率は80.8%だった。
- 医薬保健(保健)(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。専攻別では、増加した3専攻は全て大幅増加で、(保健/理学療法)(143)は2年連続大幅増加、(保健/看護)(123)と(保健/放射線技術)(119)は前年度大幅減少の反動。一方で(保健/作業療法)(68)は2年連続大幅減少。
- 医薬保健(薬・創薬科学)(106)は、2年連続減少の反動でやや増加だが、志願者数は200人に届かなかった。

<後期日程>

- 人間社会(122)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学類別では、募集を行う4学類全てが増加。その中で、前年度半減以下だった(地域創造)(136)をはじめ、(人文)(123)、(国際)(121)は大幅増加。
- 理工(106)は、2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学類別では、(地球社会基盤)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(物質化学)(108)は増加だが、前年度半減以下だった反動は小さかった。(数物科学)(87)は前年度微減に続き減少。
- 医薬保健(保健)(83)は、2年連続大幅減少。専攻別では、(保健/検査技術)(110)は2年連続大幅減少の反動で増加したが、(保健/放射線技術)(75)と(保健/看護)(83)は2年連続大幅減少。
- 後期一括入試<文系>(83)は、2年連続大幅減少。実施3年目だが、志願倍率は8.1倍→6.5倍→5.5倍とダウン。
- 後期一括入試<理系>(80)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願倍率は8.0倍→6.4倍にダウン。

山梨大：前期は大幅減少で3年ぶりの減少、後期も大幅減少 前期：-376人 後期：-425人



入試変更点 学科名称変更：工(情報メカトロニクス工)→(メカトロニクス工)

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動で376人(75)の大幅減少で3年ぶりの減少、志願者数は1,200人を下回った。後期は425人(82)の大幅減少で、2年ぶりの減少。

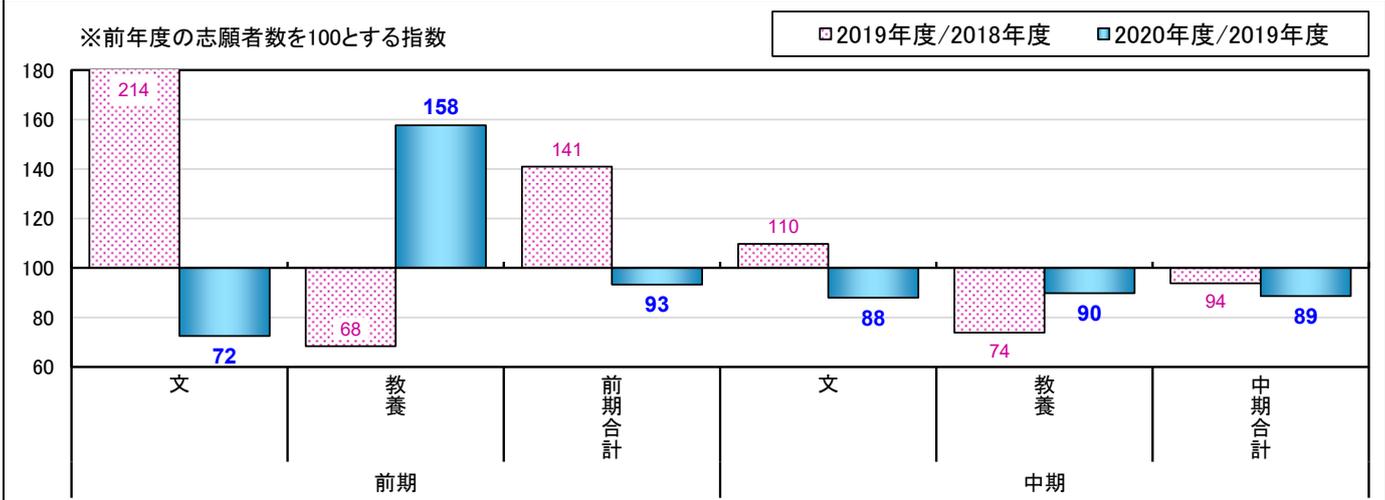
＜前期日程＞

- 教育(69)は、前年度大幅増加の反動と系統への低い人気から大幅減少し、志願者数は200人を下回った。課程・コース別では、(学校/言語教育)(107)を除いた5コースは大幅増減。特に、(学校/障害児)(178)、(学校/科学教育)(35)はそれぞれ約70%の大幅増減。
- 生命環境(73)、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、(生命工)(112)を除いた5学科・コースが減少。特に、(地域社会システム)(46)、(地域社会システム/観光政策科学)(71)、(地域食物科学)(76)は大幅減少。
- 工(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科が大幅増加、5学科大幅減少と増減が分かれた。特に、(先端材料理工)(45)は前年度倍増以上だった反動で、半減を超える大幅減少。また、学科名称を変更した(メカトロニクス工)(133)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 医(看護)(64)は、2年連続50%を超える大幅増加の反動で大幅減少。

＜後期日程＞

- 教育(81)は、前年度大幅増加の反動から大幅減少。課程・コース別では、(学校/生活社会)(106)を除いた5コースは大幅増減。特に、(学校/障害児)(300)は3倍増、一方で、(学校/言語教育)(28)は70%を超える大幅減少。
- 生命環境(58)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、(生命工)(225)は倍増以上、一方で、(環境科学)(21)は80%近い減少、(地域社会システム)(44)は半減以上の大幅減少。
- 工(119)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(メカトロニクス工)(93)を除いた6学科が大幅増減。特に、(土木環境工)(224)は倍増以上、(コンピュータ理工)(163)、(先端材料理工)(150)も50%以上の大幅増加。一方で、(機械工)(72)、(応用化学)(85)は大幅減少。
- 医(医)(86)は、センター試験の平均点ダウンによる出願を諦めた受験生の増加により大幅減少。志願者数は1,200人を下回り、後期のみの募集となった2011年度以降で最も少ない志願者数。
- 医(看護)(41)は、2年連続50%を超える大幅増加の反動で半減を超える大幅減少。

都留文科大：前期はやや減少、中期は改組後3年連続減少 前期：-49人 中期：-327人



入試変更点 募集人員：文(英文)…<前>20人、<中>40人→<前>15人、<中>30人
 センター：文(英文)<前>…3教科型：外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)} → 2
 → 3教科型：外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)} → 2
 5教科型：国+歴公+数+外+(理 or 理基2) ※5教科型追加
 文(英文)<中>…3教科型：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)
 → 3教科型：外+{国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2)} → 2 ※国が必須から選択へ
 5教科型：国+歴公+数+外+(理 or 理基2) ※5教科型追加
 個別：文(英文)…英(300点)→英(200点)

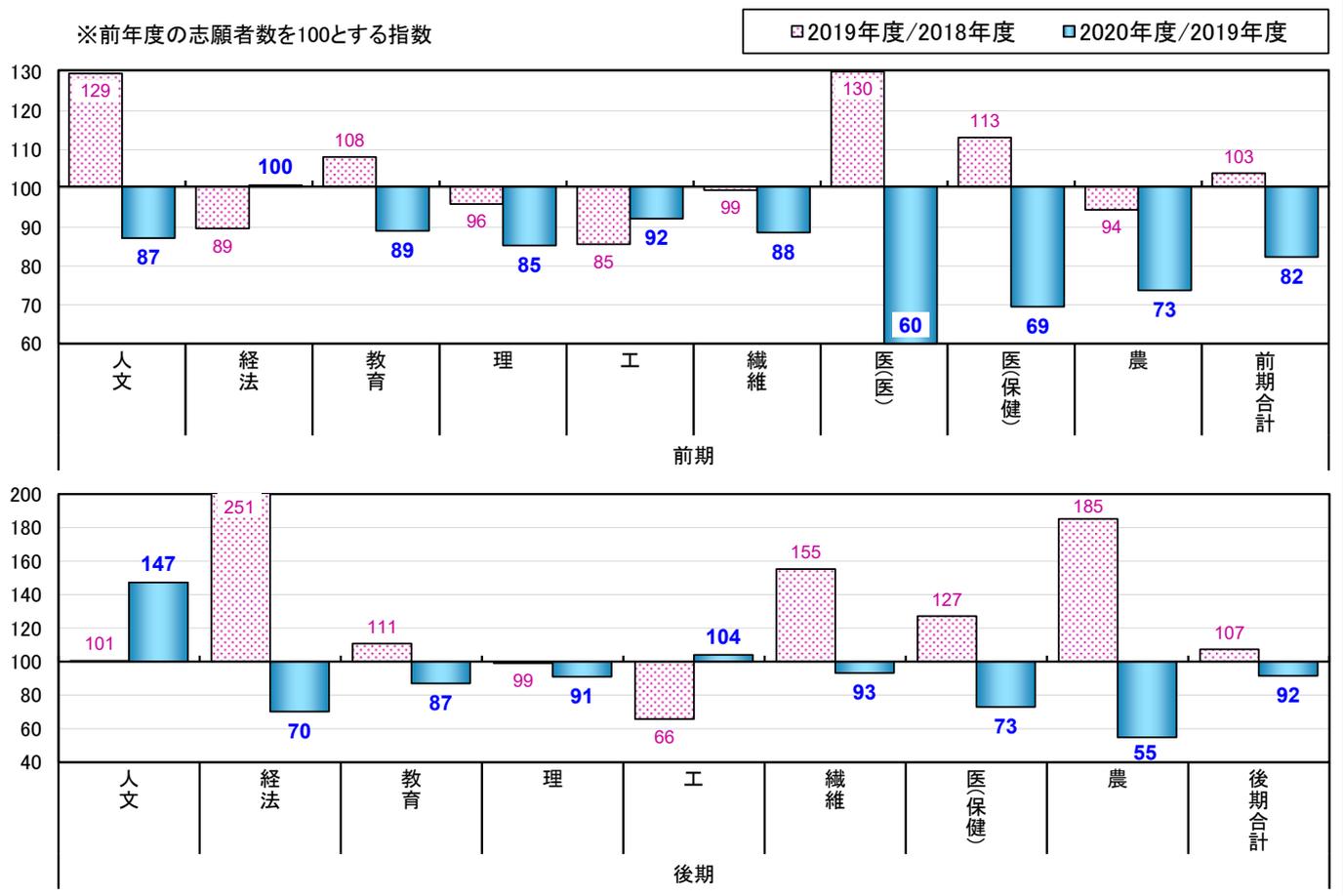
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動で49人(93)のやや減少。中期は327人(89)の減少で、2018年度の改組後、3年連続減少。

<前期日程>
 ○文(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(英文)(17)は個別試験を課さないことでセンター試験の平均点の変動の影響を強く受けるが、必須である英語の平均点ダウンに加えて、前年度の2.8倍の激増の反動で激減した。センター試験で平均点がダウンした数学が必須の<5教科型>の新設も影響した。一方で、比較文化(230)は個別試験を課さないが、センター試験で平均点がダウンした数学が必須でないことに加えて、2年連続減少の反動で2.3倍の激増。(国文)(128)も4年連続減少の反動で大幅増加。(国際教育)(106)は前年度倍増近い大幅増加だった反動はなく、やや増加。
 ○教養(158)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(学校教育)(309)は3倍を超える激増、一方で、(地域社会)(89)は、前年度大幅減少に引続き減少と対照的。

<中期日程>
 ○文(88)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、比較文化(184)はセンター試験で平均点がダウンした数学が必須でないことに加えて、前年度半減以上だった反動で大幅増加。2015年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。(国際教育)(122)は前年度の増加に引続き大幅増加、2017年度の開設以来志願者数が最多となった。一方で、(英文)(51)は前年度の倍増の反動で半減。センター試験で平均点がダウンした数学が必須の<5教科型>の新設も影響した。(国文)(87)も前年度増加の反動で減少。2016年度以降の5年間で4回減少。
 ○教養(90)は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少。学科別では、(学校教育)(115)は前年度の大減少の反動から大幅増加。一方で、(地域社会)(65)は、前年度大幅減少に引続き減少と対照的。

信州大：前期は大幅減少、後期は減少、いずれも改組後最少 前期：-763 人 後期：-272 人



入試変更点 募集人員：医(医)〈前〉…100人→95人
 (保健/検査技術科学)…〈前〉23人、〈後〉9人→〈前〉27人、〈後〉5人
 (保健/理学療法)〈前〉…16人→14人
 (保健/作業療法)〈前〉…14人→13人
 個別：教育(学校/心理支援)〈前〉…(国 or 数 or 外)→面+(国 or 数 or 外) ※面接追加

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は763人(82)の大幅減少で2年ぶりの減少、志願者数は3,500人を下回り、改組を行った2016年度以降では最少。後期は272人(92)の減少で2年ぶりの減少、志願者数は3,000人を下回り、前期同様に改組を行った2016年度以降では最少。

<前期日程>

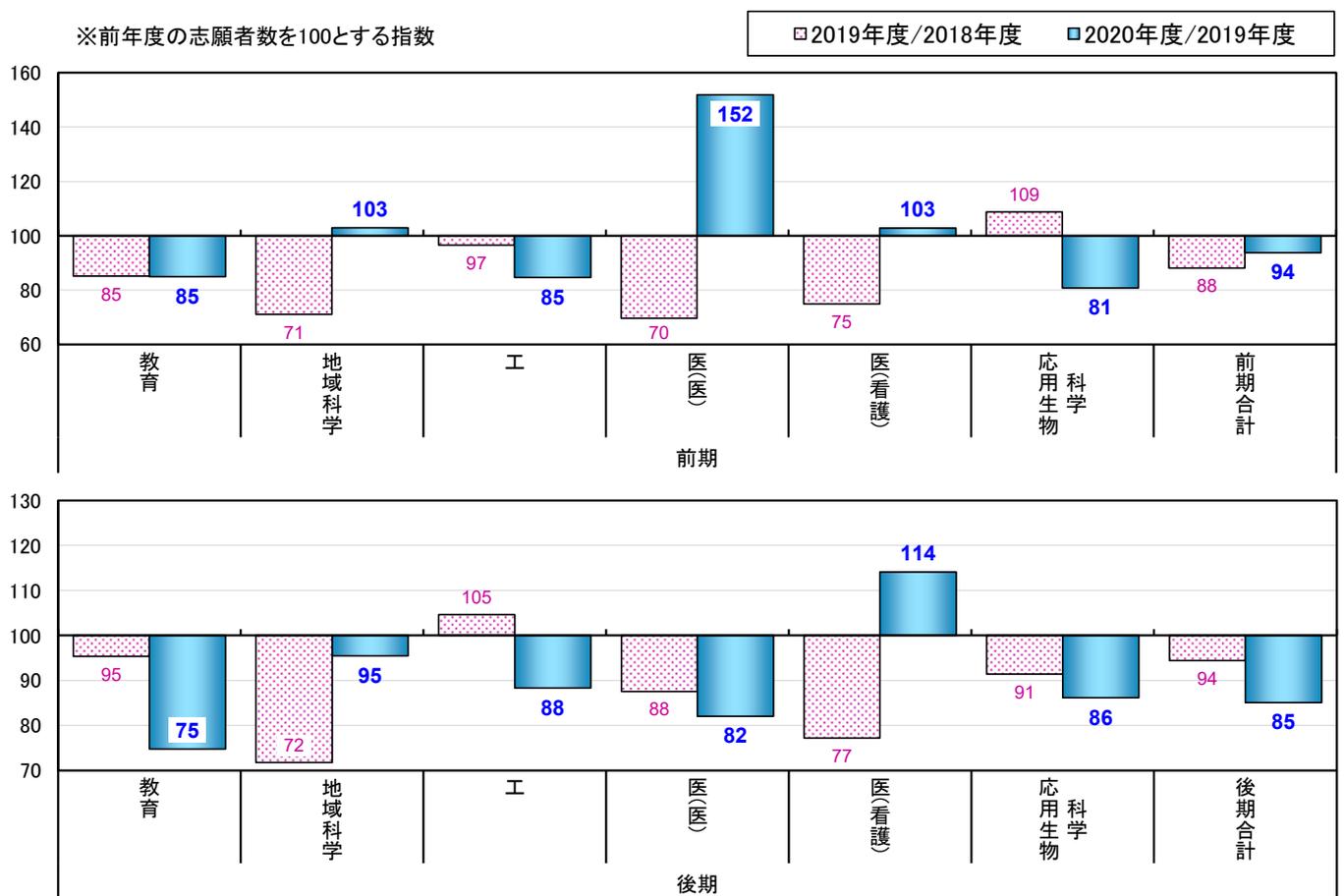
- 人文(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経法(100)は、前年度並。系統への低い人気も影響し、2年連続大幅減少の反動はなかった。学科別では、(応用経済)(94)は3年連続減少、(総合法律)(106)は2年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 教育(89)は、前年度増加から再び減少し、志願者数は320人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。課程・コース別では、14コース中4コースのみが増加。(学校教育/ものづくり・技術)(223)は倍増以上、(学校教育/理科)(156)、(学校教育/心理支援)(117)は大幅増加。一方で(学校教育/社会科)(49)、(学校教育/英語教育)(55)、(学校教育/保健体育)(55)はいずれも半減程度の大幅減少。
- 理(85)は、大幅減少で2年連続減少、志願者数は240人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。学科・コース別では、6学科・コース中2コースのみ増加。(理/生物)(156)は大幅増加、一方で(数)(61)、(理/物質循環)(78)は大幅減少。
- 工(92)は、前年度大幅減少に引き続き減少し、志願者数は850人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。学科別では、(機械システム工)(118)は大幅増加、一方で(建築)(64)は大幅減少。いずれも前年度の増減の反動。
- 繊維(88)は、3年連続減少で、志願者数は300人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。学科別では、(応用生物科学)(184)は大幅増加、一方で(機械・ロボット)(54)、(化学・材料)(69)は大幅減少。いずれも前年度の増減の反動。
- 医(医)(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期廃止翌年の2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 医(保健)(69)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、4専攻すべてが大幅減少。
- 農(73)は、系統への低い人気もあり、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(森林・環境共生)(113)を除いた3学科はいずれも大幅減少。

＜後期日程＞

- 人文(147)は、大幅増加で3年連続増加。
- 経法(70)は、(応用経済)のみの募集だが、前年度2.5倍を超える大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(87)は、前年度増加の反動で減少、改組翌年の2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。課程・コース別では、(学校教育/図画美術)(113)、(学校教育/心理支援)(89)を除いて、大幅な増減。特に、(学校教育/ものづくり・技術)(196)、(学校教育/音楽)(195)、(学校教育/家庭科)(193)は倍増近い大幅増加。一方で(学校教育/社会科)(26)、(学校教育/保健体育)(29)は70%以上の大幅減少。
- 理(91)は、4年連続減少で、志願者数は600人を下回り、2016年度の改組後では最少となった。学科・コース別では6学科・コース中2コースのみ増加。(理/物質循環)(157)は50%を超える大幅増加、一方で(理/化学)(58)は半減近い大幅減少。
- 工(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。改組翌年の2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(建築)(57)は半減近い大幅減少、一方で他の4学科は増加で、特に(物質化学)(131)は30%を超える大幅増加。
- 繊維(93)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(化学・材料)(115)は2年連続大幅増加、一方で(先進繊維・感性工)(52)、(応用生物科学)(82)はいずれも前年度の反動で大幅減少。
- 医(保健)(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、3専攻すべて減少で(保健/看護)(60)、(保健/検査技術)(81)は大幅減少。
- 農(55)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。

岐阜大：前期はやや減少、後期は大幅減少

前期：-150人 後期：-584人



入試変更点

課程改組：教育…(特別支援)→(学校教育/特別支援) ※課程から講座へ
 募集人員：工(社会基盤工)…<前>26人、<後>28人→<前>24人、<後>24人
 (機械工/機械)…<前>37人、<後>37人→<前>35人、<後>35人
 (機械工/知能機械)…<前>23人、<後>23人→<前>22人、<後>21人
 (化学・生命工/物質化学)…<前>39人、<後>39人→<前>36人、<後>35人
 (化学・生命工/生命化学)<後>…30人→27人
 (電気電子・情報工/電気電子)…<前>34人、<後>35人→<前>33人、<後>34人
 (電気電子・情報工/情報)<後>…32人→28人
 (電気電子・情報工/応用物理)…<前>11人、<後>11人→<前>10人、<後>10人
 医(医)…<前>32人、<後>35人→<前>37人、<後>25人
 (看護)<前>…47人→42人
 応用生物科学(応用生命科学)<前>…54人→57人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 150 人(94)のやや減少で 2 年連続減少。後期は 584 人(85)の大幅減少で 2 年連続減少。

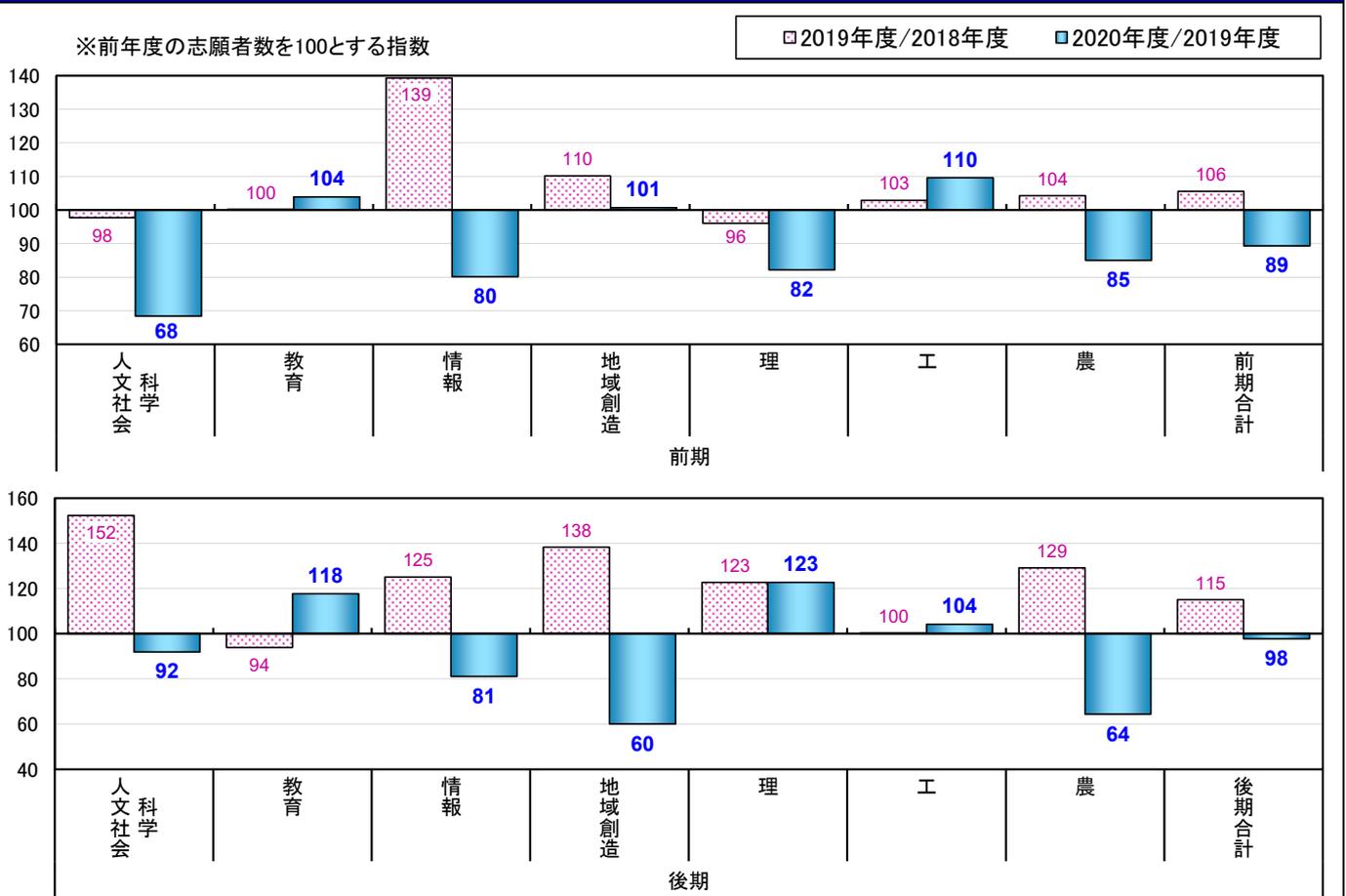
<前期日程>

- 教育(85)**は、2 年連続大幅減少。課程・講座・専攻別(以下「募集単位」)では大きな増減が目立った。改組がなかった 12 募集単位中、増加した 3 募集単位はいずれも大幅増加で、特に(学校教育／技術教育)(169)は 70%近い大幅増加。一方で、減少した 9 募集単位中、6 募集単位が大幅減少で、特に(学校教育／家政教育)(61)、(学校教育／保健体育)(64)は 35%以上の大幅減少。また、改組のあった(学校教育／特別支援)は旧(特別支援)との比較では(37)と前年度大幅増加の反動で 3 分の 1 近い大幅減少。
- 地域科学(103)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 工(85)**は、大幅減少で 2 年連続減少。学科別では、(社会基盤工)(109)のみが増加、他の 7 学科・コースは減少で、(電気電子・情報工／情報)(91)を除く 6 学科・コースは大幅減少。
- 医(医)(152)**は、前年度大幅減少の反動に加えて、募集人員の増加(前年度対比指数 116)により 50%を超える大幅増加。志願倍率も 8.4 倍→11.1 倍にアップ。
- 医(看護)(103)**は、3 年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。募集人員の減少(前年度対比指数 89)もあり、志願倍率は 2.3 倍→2.6 倍にアップしたが、3 倍を上回らなかった。
- 応用生物科学(81)**は、大幅減少で 2 年ぶりに減少。学科・課程別では 3 学科・課程のすべてが大幅減少で、(応用生命科学)(76)の減少率が最も大きかった。また、(共同獣医)(85)は 3 年連続減少で、志願者数は 90 人を下回った。

<後期日程>

- 教育(75)**は、大幅減少で 2 年連続減少。課程・講座・専攻別(以下「募集単位」)では大きな増減が目立った。改組がなかった後期募集を行う 10 募集単位中、増加した 2 募集単位はいずれも大幅増加で、特に(学校教育／技術教育)(159)は 60%近い大幅増加。一方で、減少した 7 募集単位中、6 募集単位が大幅減少で、特に(学校教育／音楽教育)(63)、(学校教育／理科教育)(65)、(学校教育／保健体育)(65)は 35%以上の大幅減少。また、改組のあった(学校教育／特別支援)は旧(特別支援)との比較では(45)と前年度 2.5 倍増の反動で半減を超える大幅減少。
- 地域科学(95)**は、前年度大幅減少に引続きやや減少。
- 工(88)**は、2 年連続増加の反動で減少。学科別では、(機械工／知能機械)(124)は大幅増加だが、他の 7 学科・コースは減少で、(社会基盤工)(59)、(化学・生命工／物質化学)(81)、(電気電子・情報工／電気電子)(82)は大幅減少。
- 医(医)(82)**は、募集人員の減少(前年度対比指数 71)の影響で大幅減少だが、志願倍率は 22.5 倍→25.8 倍にアップし、競争は激化。
- 医(看護)(114)**は、2 年連続大幅減少の反動で増加。
- 応用生物科学(86)**は、2 年連続減少。課程別では、(生産環境科学)(101)は前年度並だが、(応用生命科学)(76)は大幅減少。

静岡大：前期は反動で減少、後期は反動は小さく微減に留まる 前期：-339人 後期：-84人



入試変更点

センター試験：工<前><後>…国<100>+歴公<50>+数2<100>+理2<100>+外<150>=総点<500>
 →国<150>+歴公<100>+数2<150>+理2<150>+外<150>=総点<700>

個別試験：情報(情報社会)<前>…国+外→外+論
 工(機械工、電気電子工、電子物質科学、化学バイオ工)<前><後>…数+理→数+理+外
 (数理システム工)<前>…数+理(物 or 化 or 生から1)→数+理(物 or 化から1)+外
 <後>…数+理→数+理+外

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度増加の反動で339人(89)減少し、減少した4学部はいずれも大幅減少。後期は84人(98)の微減に留まり、前年度大幅増加の反動は小さかった。学部・学環別では、地域創造学環、農、情報の3学部が前年度の反動で大幅減少。

<前期日程>

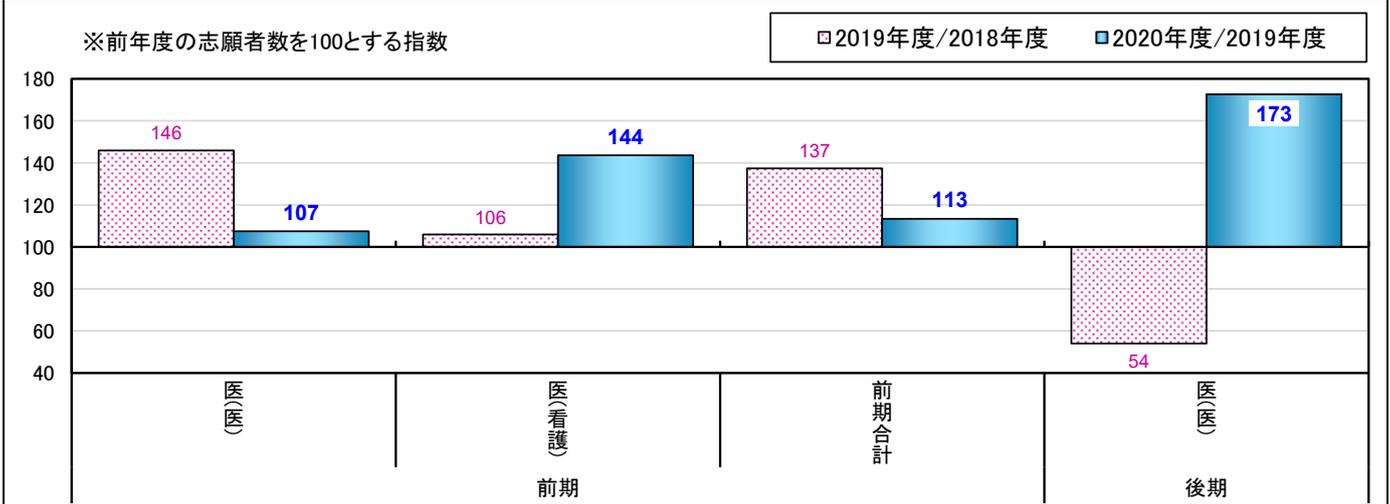
- 人文社会科学(68)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、減少した(経済)(54)、(社会)(59)、(言語文化)(62)はいずれも大幅減少。一方で、(法)(105)は前年度減少の反動でやや増加。
- 教育(104)は、やや増加。専攻・専修別では増加した7つの専攻・専修は全て25%以上の大幅増加で、特に(学校教育/発達教育-教育実践)(410)は4倍以上の激増。一方で、減少した8つの専攻・専修は(学校教育/発達教育-幼児教育)(91)を除いた5つの専攻・専修が大幅減少で、特に(学校教育/教科教育-技術)(39)は60%以上の激減。
- 情報(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3学科全てが減少で、特に(情報科学)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(行動情報)(91)は減少だが、理系型の(行動情報/選抜区分A)(67)が大幅減少、文系型の(行動情報/選抜区分B)(138)が大幅増加と対照的。
- 地域創造学環(101)は、微増だが2年連続増加。コース別では、(アート系)(126)が大幅増加。
- 理(82)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(物理)(114)のみ増加で、他の4学科はいずれも大幅減少。
- 工(110)は、個別試験での科目負担増加の影響はなく、2年連続増加。学科別では、(電子物質科学)(198)はほぼ倍増、(化学バイオ工)(156)は大幅増加。一方で、(数理システム工)(70)、(機械工)(84)が大幅減少。
- 農(85)は、系統への低い人気と前年度やや増加の反動で大幅減少。学科別では、(生物資源科学)(104)がやや増加で2年連続増加だが、一方で、(応用生命科学)(63)は大幅減少で2年連続減少。

<後期日程>

- 人文社会科学(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では(言語文化)(53)はほぼ半減、(社会)(76)は大幅減少。一方で、(法)(138)は大幅増加。
- 教育(118)は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻・専修別では増加した6つの専攻・専修は全て20%以上の大幅増加で、特に(学校教育/教科教育-数学)(339)は約3.4倍増、(学校教育/教科教育-家庭)(222)は倍増以上。一方で、(学校教育/

教科教育－国語(48)、(学校教育／教科教育－理科)(54)はいずれもほぼ半減。
 ○情報(81)は、大幅減少で、2013 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、3 学科全てが減少で、特に(情報社会)(63)が前年度激増の反動で大幅減少。
 ○地域創造学環(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 ○理(123)は、2 年連続大幅増加。学科・コース別では、(創造理学)(445)が2 年連続大幅減少の反動で、約 4.5 倍増。一方で、減少した(数学)(67)、(地球科学)(68)、(生物科学)(84)はいずれも大幅減少。
 ○工(104)は、個別試験での科目負担増加の影響はなく、やや増加だが3 年連続増加。学科別では、(電子物質科学)(160)、(電気電子工)(152)が大幅増加、一方で、(数理システム工)(64)、(化学バイオ工)(75)は大幅減少。
 ○農(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では2 学科がいずれも大幅減少。

浜松医科大：医(医)は前期はやや増加、後期は大幅増加 前期：+58 人 後期：+97 人



入試変更点 選抜方法：医(医)〈前〉〈後〉…地域医療枠(〈前〉9 人、〈後〉1 人)を新設
 募集人員：医(医)…〈前〉75 人、〈後〉15 人→〈前〉66 人、〈後〉14 人

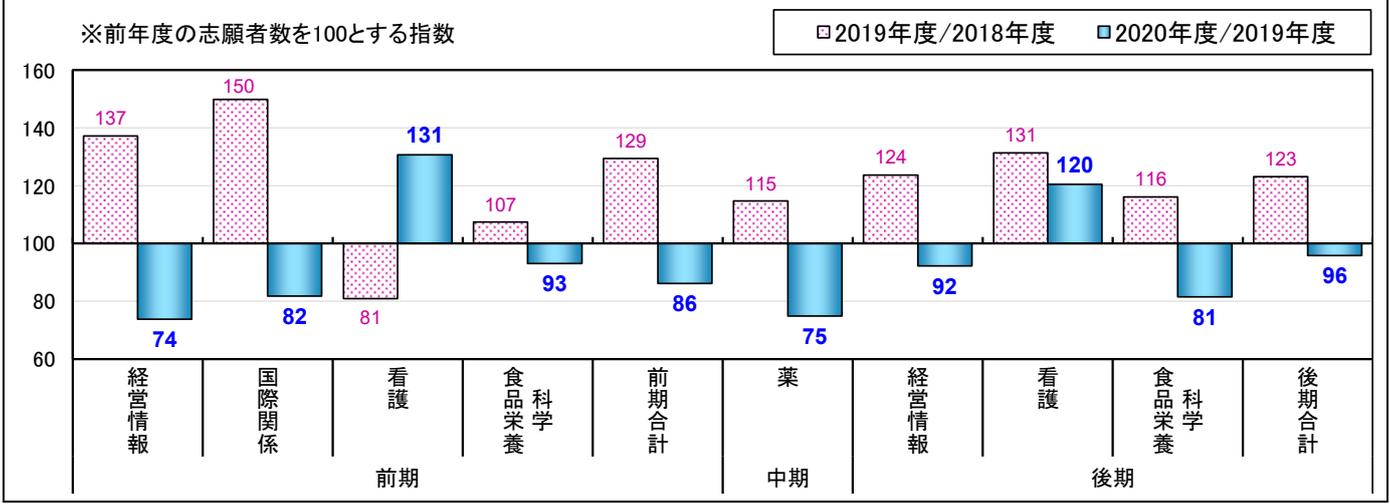
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、前期は27 人(107)のやや増加、後期は97 人(173)の大幅増加。医(看護)は、前期のみの募集だが、31 人(144)の大幅増加で3 年連続増加、

<前期日程>
 ○医(医)(107)は、〈一般枠〉のみでは(86)で前年度大幅増加の反動で減少、ただし募集人員の対前年度指数が88 と減少したため、志願倍率は4.8 倍→4.7 倍とわずかなダウンに留まった。新設の〈地域医療枠〉の志願者数は77 人で志願倍率は8.6 倍の高倍率だった。

<後期日程>
 ○医(医)(173)は、〈一般枠〉のみでは(154)で前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016 年度以降、前年度の増減の反動による大幅な増減が継続した。新設の〈地域医療枠〉は募集人員1 人に対して志願者数は24 人という非常に厳しい競争となった。

静岡県立大：全日程で減少、学部別では看護のみ増加 前期：-169 人 中期：-249 人 後期：-15 人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

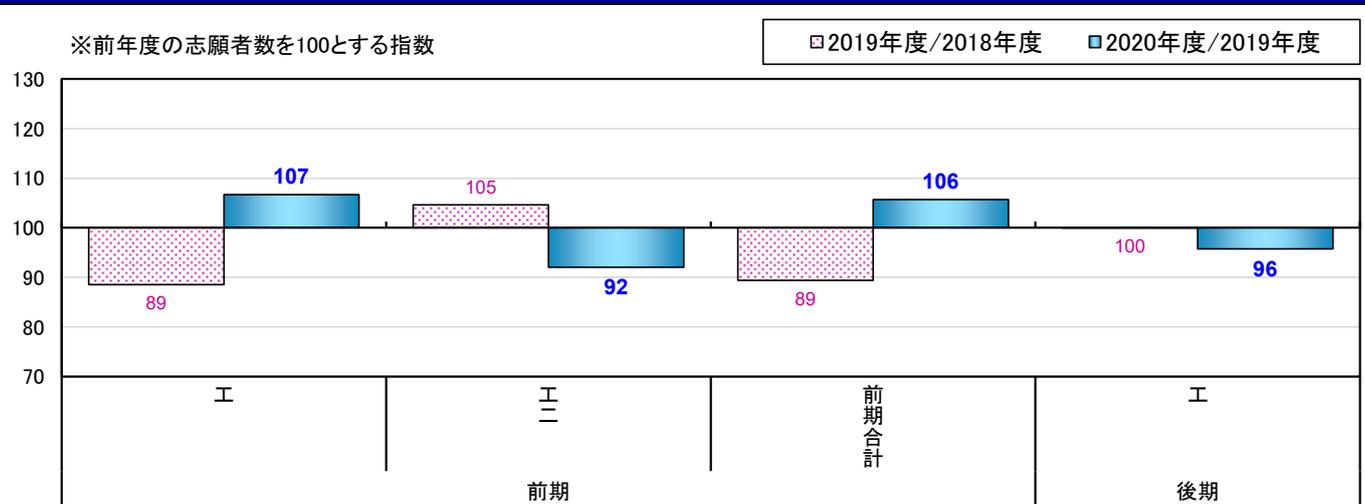
大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動で 169 人(86)の減少。薬のみ募集の中期は、249 人(75)の大幅減少、2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。特に(薬)(64)は系統への低い人気から大幅減少。後期は前年度大幅増加の反動は小さく、15 人(96)のやや減少に留まった。

<前期日程>

- 経営情報(74)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は4.1倍→3.0倍にダウン。
- 国際関係(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。特に(国際関係)(69)の大幅減少が目立った。
- 看護(131)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 食品栄養科学(93)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(栄養生命科学)(80)が大幅減少で2年連続減少。

<後期日程>

- 経営情報(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 看護(120)は、2年連続大幅増加。志願倍率は17.6倍→21.2倍にアップ。
- 食品栄養科学(81)は、大幅減少し、2017年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。学科別では、(環境生命科学)(121)は2年連続大幅増加。一方で、(食品生命科学)(48)は前年度大幅増加の反動で志願者数は半減以下、(栄養生命科学)(80)は大幅減少で2年連続減少。

名古屋工業大：前期はやや増加、後期はやや減少と対照的 前期：+99人 後期：-95人**COMMENT** ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は99人(106)のやや増加。工のみでは107人(108)の増加。大学全体および工は、2014年度以降、前年度の反動による増減が続いている。後期は工のみの募集で、95人(96)のやや減少。

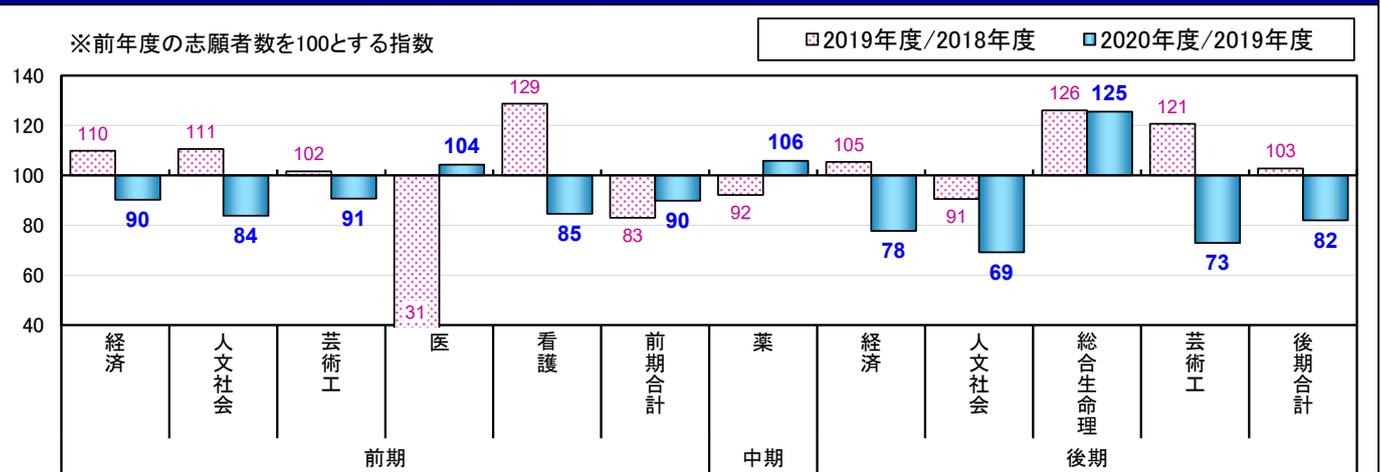
<前期日程>

- 工(108)は、前年度減少の反動で増加。学科・コース・分野別(以下、「募集単位別」)では、9募集単位中5募集単位が増加と増減はほぼ半々に分かれた。増加した募集単位では4募集単位が20%以上増加の大幅増加、特に(生命・応用化学)(130)が最も増加率が大きかった。一方で、減少した募集単位にはいずれも大幅減少で、(社会工/環境都市)(40)、(創造工学/材料・エネルギー)(49)の2募集単位は半減以上の減少。

<後期日程>

- 工(96)は、やや減少。学科・コース・分野別(以下、「募集単位別」)では、9募集単位中2募集単位のみが増加と減少が目立った。増加した募集単位では、(生命・応用化学)(123)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で減少した募集単位は7募集単位中5募集単位が10%未満の減少率だったが、(社会工/環境都市)(56)、(物理工)(72)の2募集単位は大幅減少。

名古屋市立大：中期のみ増加、後期は大幅減少 前期：-146人 中期：+63人 後期：-265人



入試変更点 募集人員：人文社会(現代社会)〈前〉…50人→49人、〈後〉…12人→8人

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は146人(90)の減少で2年連続減少。薬のみ募集の中期は、2年連続減少の反動から63人(106)のやや増加。学科別では、いずれも2年連続減少だったが、(薬)(102)の反動は小さく微増、(生命薬科学)(113)は反動で増加。後期は4年連続増加の反動から、265人(82)の大幅減少。

＜前期日程＞

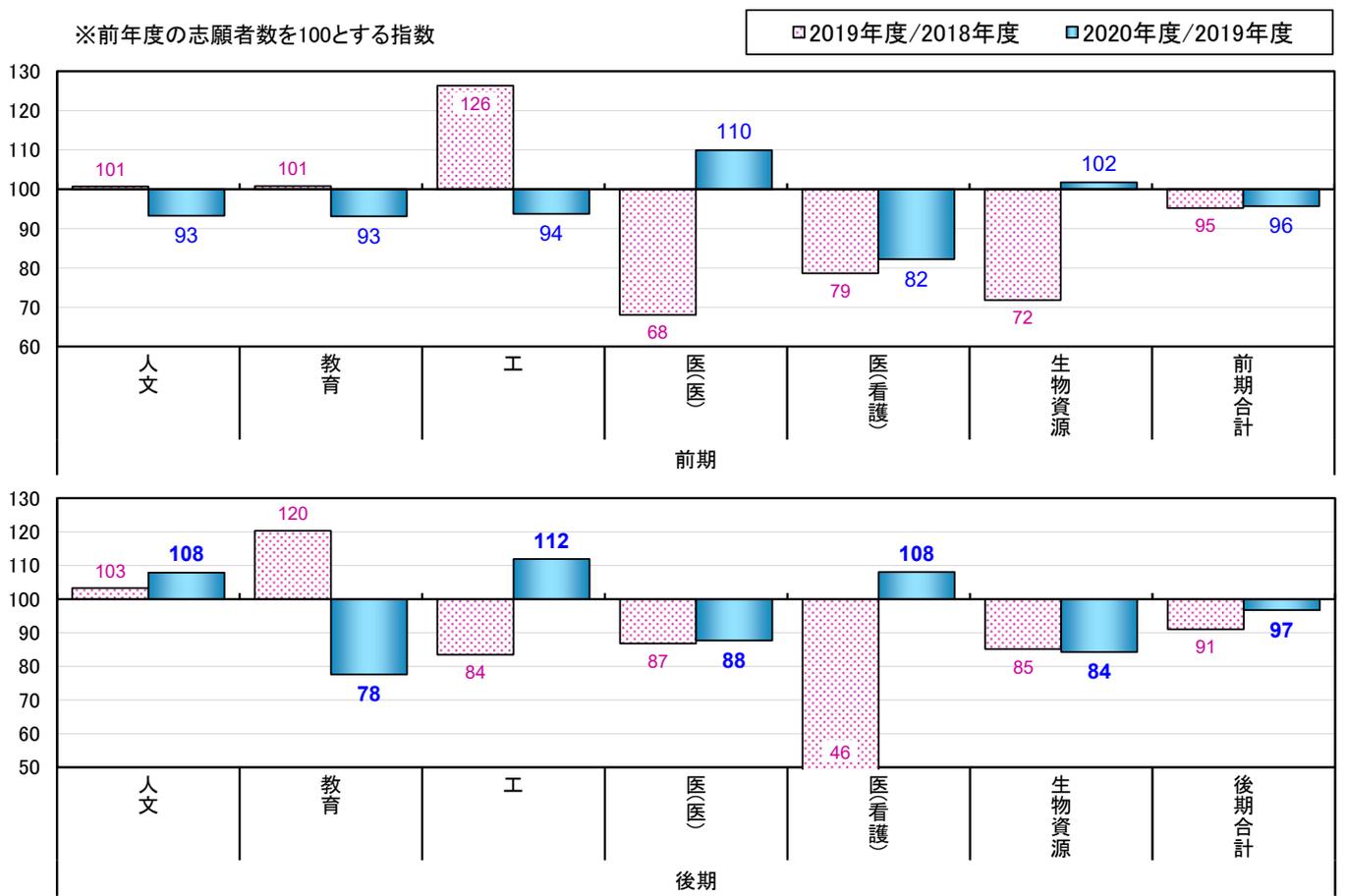
- 経済(90)は、3年連続増加の反動で減少。
- 人文社会(84)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(心理教育)(95)を除く2学科は(国際文化)(77)、現代社会(79)ともに20%以上の大幅減少。
- 芸術工(91)は、減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(情報環境デザイン)(115)が大幅増加、一方で(産業イノベーションデザイン)(64)は大幅減少。
- 医(104)は、前年度約7割減の激減だった反動は見られず、やや増加に留まった。志願倍率は2.7倍→2.8倍とわずかにアップしたが、3倍を下回った。
- 看護(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

＜後期日程＞

- 経済(78)は、系統への人気低下もあって大幅減少。方式別では、〈Mコース〉(66)が前年度大幅増加の反動で大幅減少、〈Eコース〉(94)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- 人文社会(69)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科ともに大幅減少。
- 総合生命理(125)は、開設後2年連続大幅増加し、志願倍率も4.1倍→5.2倍→6.5倍と連続で1ポイント以上アップ。
- 芸術工(73)は、大幅減少。4つの募集単位が全て10%以上の減少。特に(産業イノベーションデザイン)(53)は半減近い減少。

三重大：前期・後期ともにやや減少で3年連続減少

前期：-113人 後期：-75人



入試変更点 募集人員：教育(学校教育/数学・情報-情報・中等)…<前>7人、<後>3人→<前>8人、<後>2人
工(総合工/機械工)<後>…13人→15人

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は113人(96)のやや減少で3年連続減少。後期は75人(97)のやや減少で3年連続減少。

<前期日程>

- 人文(93)は、やや減少で5年ぶりの減少。学科別では、(文化)(114)は増加で2年連続増加、一方で(法律経済)(82)は系統への低い人気から大幅減少で2年連続減少。
- 教育(93)は、やや減少。2014年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位」)では25募集単位中、12募集単位が増加と募集単位別の増減数は拮抗したが、大きな増減率が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/英語-初等)(105)を除いて大幅増加、特に(学校教育/技術・ものづくり-初等)(300)は3倍増。一方で減少した募集単位では、(学校教育/音楽-中等)(91)、(学校教育/音楽-初等)(89)を除いて大幅減少。特に、(学校教育/学校-教育学)(28)は激減。
- 工(94)は、改組2年目だが、センター試験と個別試験の配点がほぼ同じで、個別逆転を狙う受験生が集まり、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。コース別では、増加したコースはいずれも10%以上の増加で、特に(総合工/機械工)(139)、(総合工/電気電子工)(139)は大幅増加、一方で、(総合工/総合工)(42)は半減以上の大幅減少。
- 医(医)(110)は、前年度大幅減少の反動に加えて、センター試験の平均点ダウンが目立った国語、数学、英語の配点が1/2に圧縮されることから増加。志願倍率も3.6倍→4.0倍にアップ。
- 医(看護)(82)は、2年連続大幅減少。センター試験重視の配点のため、センター試験の平均ダウンが影響した。
- 生物資源(102)は、系統への人気が高いことから前年度大幅減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(生物圏生命化学)(122)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で(共生環境)(85)は大幅減少で3年連続減少。

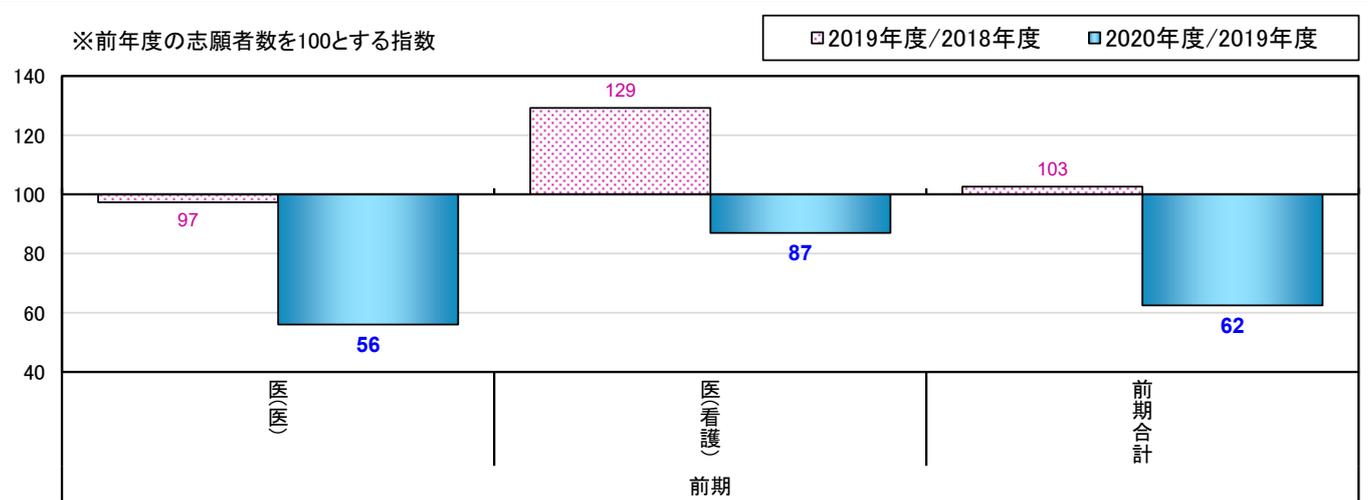
<後期日程>

- 人文(108)は、増加で2年連続増加。学科別では、(文化)(171)は2年連続減少の反動で大幅増加、一方で(法律経済)(70)は系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は180人を下回った。
- 教育(78)は、大幅減少。2014年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位」)では後期募集を行う11募集単位中、増加した募集単位は4募集単位と減少が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/国語-中等)(142)、(学校教育/社会-中等)(128)は大幅増加、一方で減少した募集単位では、(学校教育/数学-初等)(92)を除いて大幅減少。特に、(学校教育/数学-中等)(50)、(学校教育/社会-初等)(50)は半減。
- 工(112)は、改組2年目だが、前年度大幅減少の反動で増加。コース別では、(総合工/応用化学)(149)は比較的個別試験の配点比が高く、個別逆転を狙う受験生が集まり大幅増加、(総合工/建築)(118)は旧(建築)から2年連続大幅減少だった反動で大幅増加だった。

- 医(医)(88)は、2年連続大幅減少で、志願者数は130人を下回った。センター試験の平均点ダウンにより、センター試験重視の配点で、個別試験が小論文、面接で逆転が難しいとして敬遠された。
- 医(看護)(108)は、前年度半減以上の大幅減少だったが、センター試験の平均点ダウンにより、センター試験重視の配点を敬遠されて、増加率は小さかった。
- 生物資源(84)は、系統への人気が低いことから大幅減少で3年連続減少。学科別では、(共生環境)(133)が2年連続大幅減少の反動で大幅増加、一方で(資源循環)(54)は半減近い大幅減少で2年連続減少。

滋賀医科大：医(医)は大幅減少、(看護)はやや減少

前期：-206人



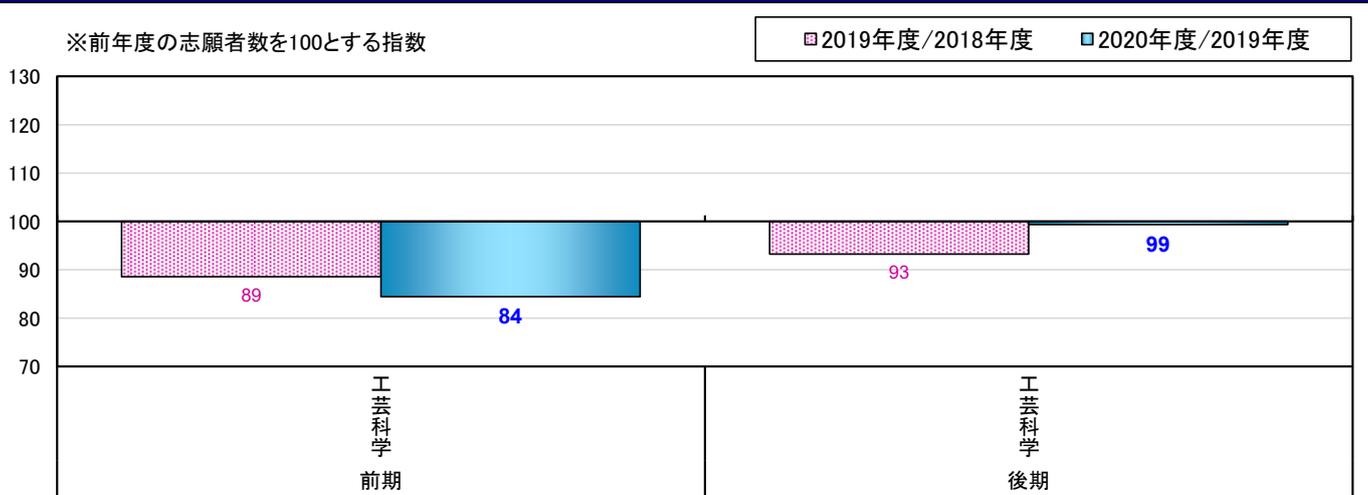
入試変更点 選抜方法：医(医)〈前〉…地域医療枠(5人)を新規実施
 募集人員：医(医)〈前〉…75人→55人
 第1段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…約7倍(通過予定人数:525人)→約4倍(通過予定人数:240人)
 (看護)〈前〉…約7倍(通過予定人数:350人)→約4倍(通過予定人数:200人)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 医(医)は、前期のみの募集だが、191人(56)の半減近い大幅減少で5年連続減少。医(看護)も、前期のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で、15人(87)の減少。

〈前期日程〉
 ○医(医)(56)は、〈一般枠〉のみでは(40)で半減を超える大幅減少で、5年連続減少。募集人員の減少(前年度対比指数73)と第1段階選抜基準が厳しくなったことがその要因だが、第1段階選抜は実施されなかった。新設の〈地域医療枠〉は、志願倍率が13.6倍と厳しい競争となった。

京都工芸繊維大：前期は大幅減少、後期は微減

前期：-203人 後期：-9人



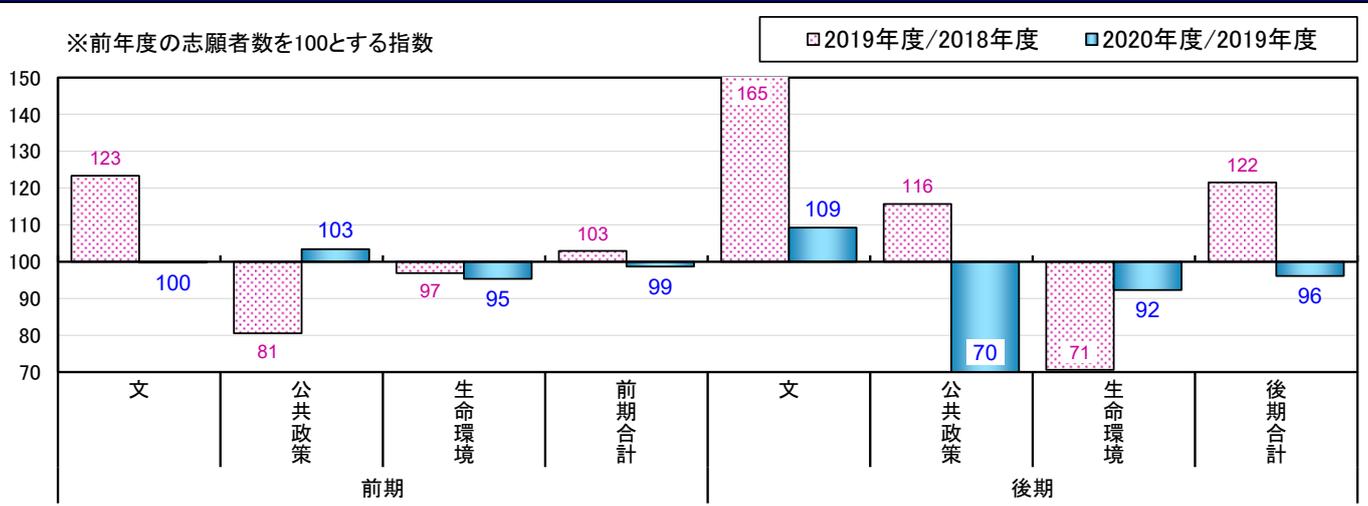
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は203人(84)の大幅減少で3年連続減少、後期は、9人(99)の微減。前期、後期ともに3年連続減少。

〈前期日程〉
 ○工芸科学(84)は、大幅減少。学域・課程別では、(設計工/機械工)(132)は大幅増加だが、他の5課程はいずれも減少。特に、(デザイン科学/デザイン・建築)(71)、(物質・材料科学/応用化学)(77)、(設計工/電子システム工)(82)は大幅減少。

＜後期日程＞

○**工芸科学(99)**は、微減。学域・課程別では、(応用生物/応用生物学)(100)は前年度と同じ志願者数だが、他の5課程はいずれも増減が大きかった。特に、(設計工/電子システム工)(201)は倍増。一方で、(物質・材料科学/応用化学)(74)、(デザイン科学/デザイン・建築)(77)は大幅減少。

京都府立大：前期は微減、開設2年目(和食文化)は大幅増加 前期：-14人 後期：-27人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は14人(99)の微減だが、3年ぶりに減少。後期は27人(96)のやや減少で、2015年度以降、前年度の反動による増減が続いたが、前年度大幅増加の反動は小さかった。

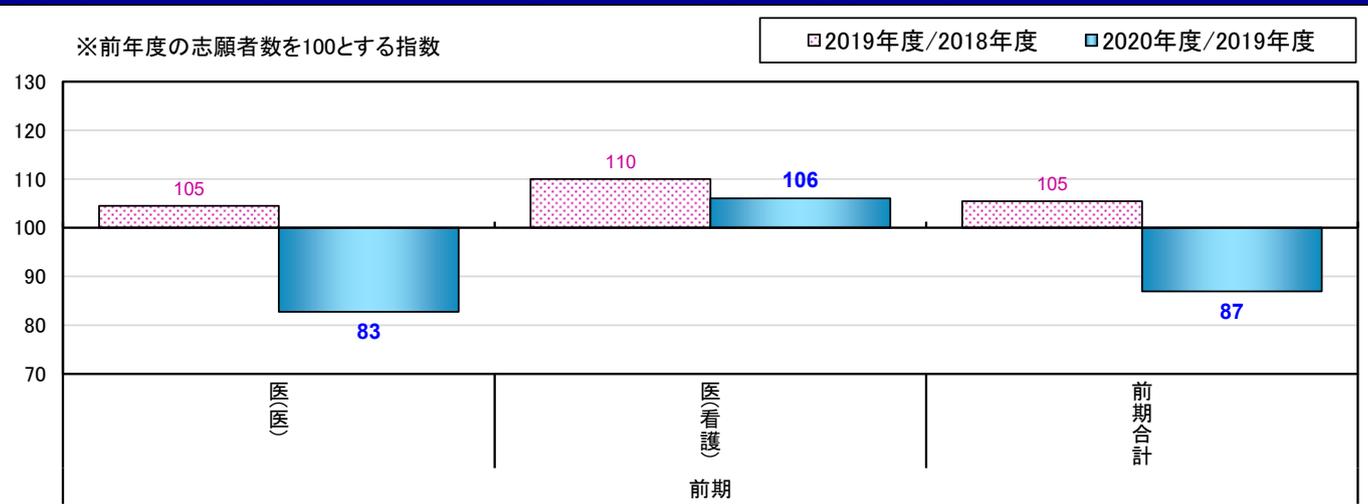
＜前期日程＞

○**文(100)**は、2年連続大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、(欧米言語文化)(66)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。一方で、開設2年目の(和食文化)(154)は周知も進み大幅増加。他の2学科(日本・中国文学)(歴史)はいずれも(105)のやや増加。
 ○**公共政策(103)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、(公共政策)(107)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。(福祉社会)(100)は2年連続前年度並。
 ○**生命環境(95)**は、系統への低い人気もあって、やや減少で3年連続減少。学科別では、増加した3学科の(環境・情報科学)(124)、(森林科学)(120)、(生命分子化学)(115)はいずれも大幅増加、一方で減少した2学科の(食保健)(67)、(農学生命科学)(78)は大幅減少、(環境デザイン)(86)も減少と増減がはっきりと分かれた。

＜後期日程＞

○**文(109)**は、前年度大幅増加に引き続き増加。(和食文化)を除きセンター試験3教科(国、歴公、外)なので、数学失敗組の併願先として狙われた。学科別では、(日本・中国文学)(139)、(歴史)(122)は大幅増加。一方で、(欧米言語文化)(80)は大幅減少と対照的。開設2年目の(和食文化)(106)の志願者数は1人のみの増加。
 ○**公共政策(70)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2010年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(福祉社会)(54)、(公共政策)(84)のいずれも大幅減少。
 ○**生命環境(92)**は、系統への低い人気もあって減少で3年連続減少。学科別では、(環境デザイン)(128)、(森林科学)(117)が大幅増加、(農学生命科学)(65)、(生命分子化学)(68)が大幅減少と増減がはっきりと分かれた。

京都府立医科大：前期の医(医)は大幅減少、(看護)は志願倍率2倍未満 前期：-48人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

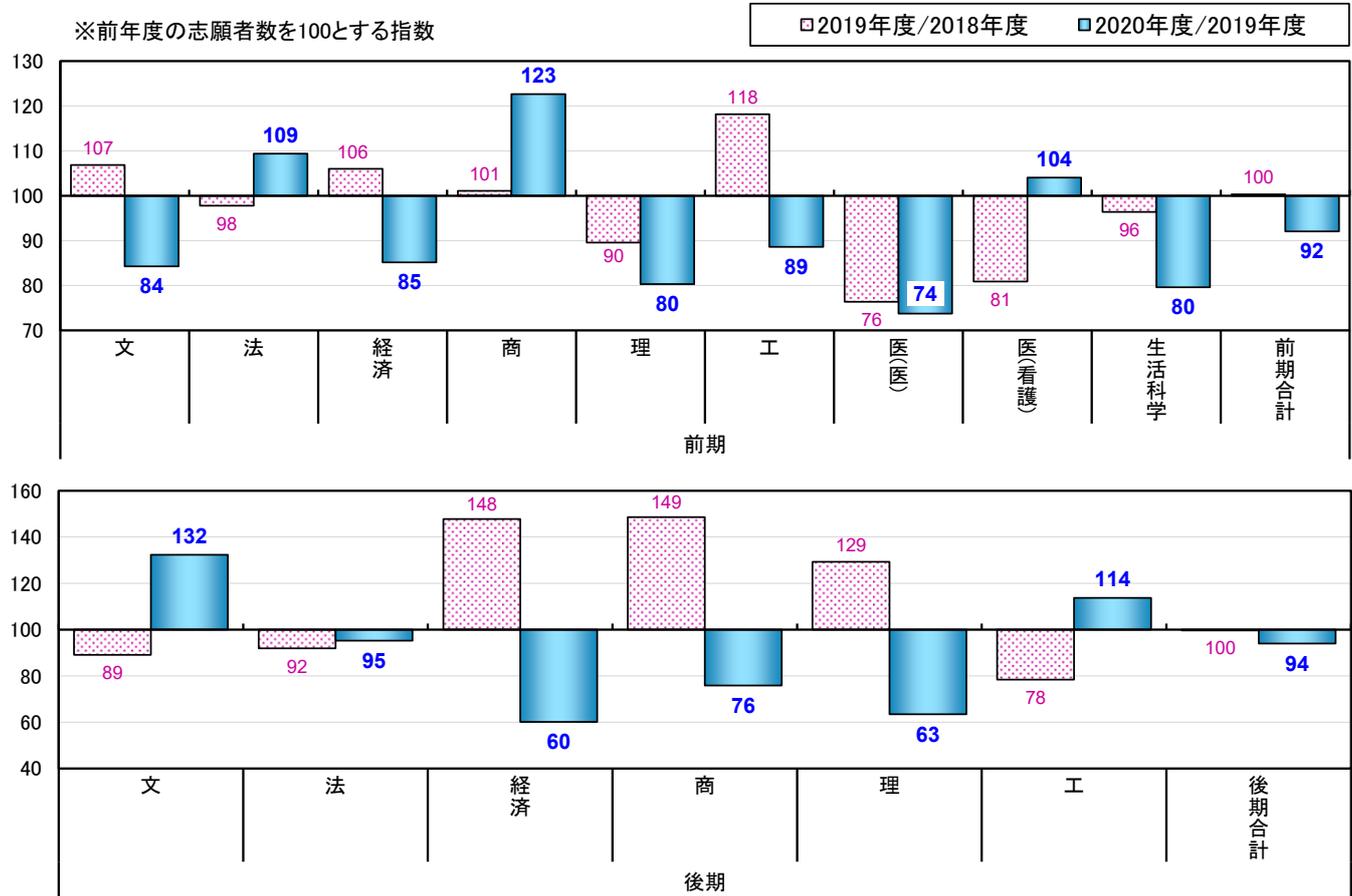
医(医)は、前期のみの募集だが、52人(83)の大幅減少。医(看護)も、前期のみの募集だが、4人(106)のやや増加で2年連続増加したが、それでも志願倍率は3年連続で2倍を下回った。

<前期日程>

○医(医) (83)は、大幅減少で2年ぶりの減少。系統への低い人気と難関医学部敬遠する動向から、志願者数は250人を下回り、志願倍率も2.5倍までダウンした。

大阪市立大：前期は減少、後期はやや減少

前期：-292人 後期：-147人



入試変更点

募集人員：理(化学)〈前〉…27人→31人
 (数学)〈前〉…18人→19人、〈後〉…6人→8人
 (生物)〈前〉…16人→18人、〈後〉…6人→7人
 (地球)〈後〉…3人→5人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は297人(92)の減少、学部別では法、商の2学部のみが増加。後期も147人(94)のやや減少、学部別では文、工の2学部のみ増加。

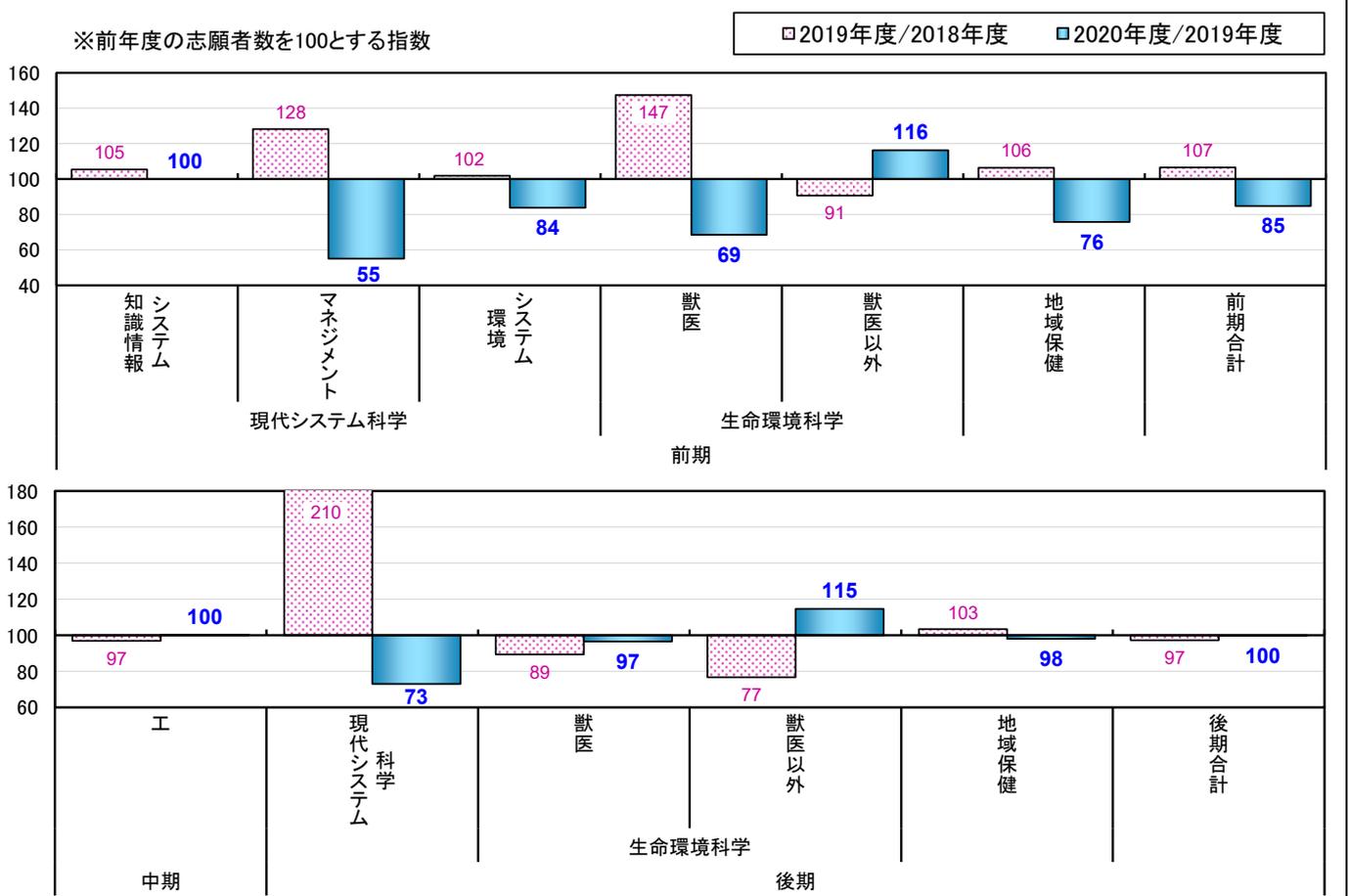
<前期日程>

- 文(84)は、3年連続増加の反動で大幅減少。
- 法(109)は、2年連続減少の反動で増加。志願者数は400人台を回復。
- 経済(85)は、系統への人気低下もあり、大幅減少。
- 商(123)は、大幅増加で2年連続増加。
- 理(80)は、大幅減少で3年連続減少。志願倍率は2.9倍→2.2倍にダウン。募集単位別でも、全てが減少で(物理)(98)、数学(86)を除いて大幅減少。特に、〈理科選択〉(50)は半減。
- 工(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。機械工(101)を除く5学科が減少。特に、(電子・物理工)(79)、(電子情報工)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(医)(74)は、2年連続大幅減少。志願倍率は3.5倍→2.6倍にダウンし3倍を大きく下回った。
- 医(看護)(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
- 生活科学(80)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科が全て減少し、特に(人間福祉)(72)、(居住環境)(80)は大幅減少。

<後期日程>

- 文(132)は、2年連続減少の反動で、大幅増加。
- 法(95)は、やや減少で2年連続減少。
- 経済(60)は、前年度5割近い大幅増加の反動で大幅減少。2015年度以降、大幅な増減が継続。
- 商(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2016年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 理(63)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2017年度以降大幅な増減が続いている。学科別では、(地球)(119)の大幅増加を除いた4学科は大幅減少。特に(数学)(55)、(生物)(56)、(化学)(59)は40%を超える大幅減少。
- 工(114)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(化学バイオ工)(85)の大幅減少を除いた5学科は増加。特に、(都市)(144)、建築(123)は20%を超える大幅増加。

大阪府立大：前期が大幅減少、中期・後期は前年度並 前期：-333人 中期：+17人 後期：-3人



COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は2年連続増加の反動で333人(85)の大幅減少。工のみ募集の中期は17人(100)の微増だが、2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。学類別では、(物質化学)(103)のやや増加で2年連続増加。(機械)(101)は2年連続減少の反動はなく前年度並。(電気電子)(97)はやや減少で2年連続減少。後期は3人(100)の微減で2年連続減少の反動はなかった。

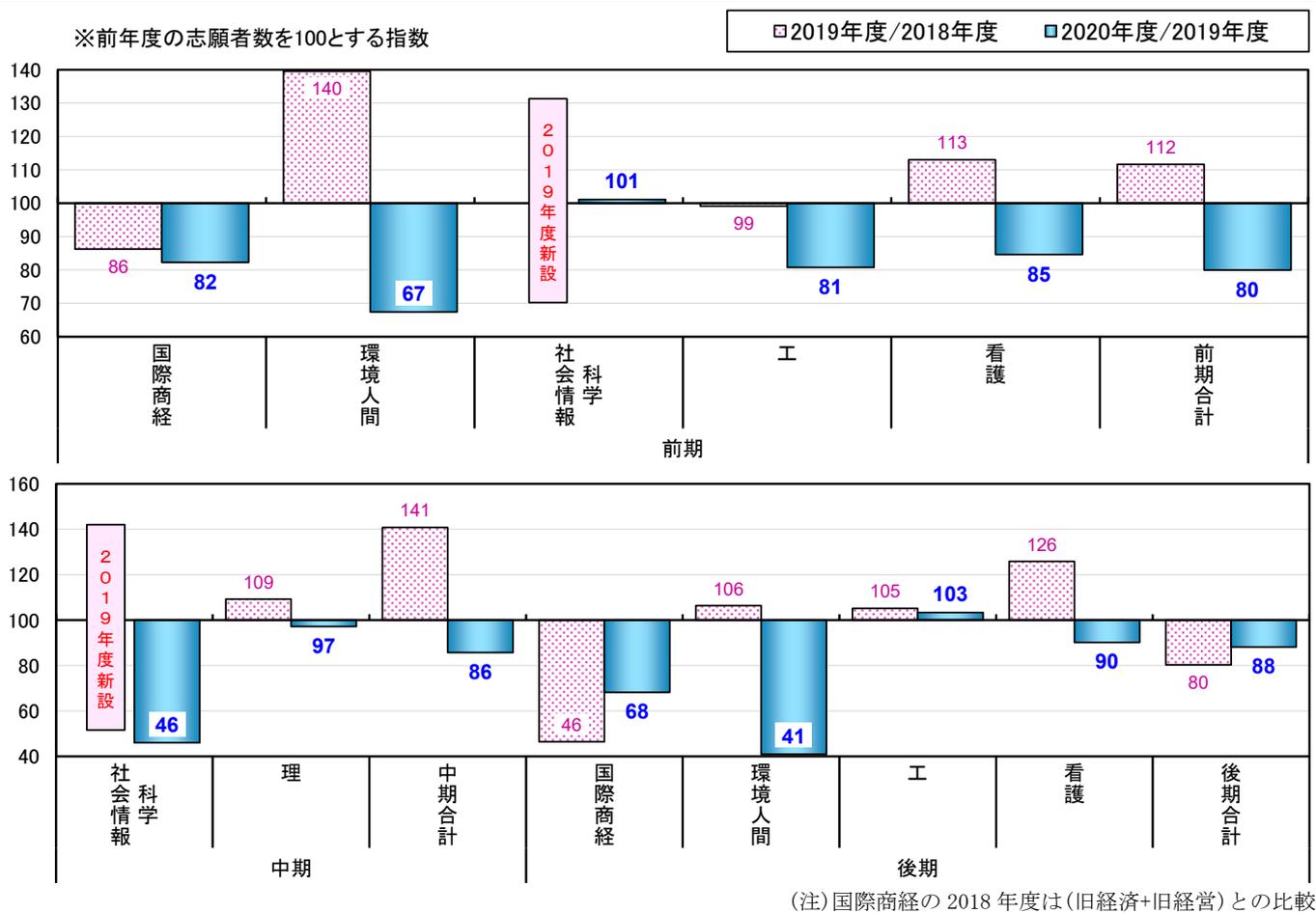
<前期日程>

- 現代システム科学(71)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学類・方式別では、(知能情報システム)は、前年度と同一志願者数だったが、他の募集単位は減少。特に、センター試験で理科不要の(マネジメント)(55)はセンター試験の英語、数学I・Aの難化から敬遠されて半減近い大幅減少。(環境システム-英語論文型)(79)も大幅減少。
- 生命環境科学(107)は、やや増加。学類別では、(獣医)(69)が大幅減少、2011年度以降、前年度の反動による増減が継続。(緑地環境科学)(135)は大幅増加で3年連続増加。(応用生命科学)(107)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。(理)(115)は大幅増加、(理)の募集単位別では、<物理重点>(187)、<化学重点>(175)が激増、<生物重点>(64)が大幅減少。
- 地域保健(76)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学類・専攻別では、(総合リハビリテーション/作業療法)(128)のみ大幅増加、他の4つの学類・専攻はいずれも大幅減少。

<後期日程>

- 現代システム科学(73)は、前年度倍増以上だった反動で大幅減少。
- 生命環境科学(111)は、2年連続減少の反動で増加。学類別では、(緑地環境科学)(138)、(理)(119)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(応用生命科学)(89)は前年度大幅減少に引続き、2年連続減少。(獣医)(97)はやや減少で3年連続減少。
- 地域保健(98)は前年度並。学類・専攻別では、(総合リハビリテーション/作業療法)(76)が2年連続減少と目立った。

兵庫県立大：全ての日程で減少、特に前期が大幅減少 前期：-424人 中期：-431人 後期：-205人



COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は424人(80)の大幅減少で、2年ぶりに減少。中期は431人(86)の減少、特に開設2年目の社会情報科学(46)は半減を超える減少。後期は205人(88)の減少で、2年連続減少。

<前期日程>

- 国際商経(82)は、改組2年目だが系統への人気も低くもあって大幅減少。学科・コース別では、(国際商経/経済学・経営学)(79)は大幅減少、一方で(国際商経/グローバルビジネス)(130)は大幅増加と対照的。
- 環境人間(67)は、センター試験：個別試験が700点：300点で個別試験が総合問題ということで、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて大幅減少。学部全体では2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 開設2年目の社会情報科学(101)は、前年度並。
- 工(81)は、大幅減少で、2年連続減少。学科別では3学科ともに大幅減少で、特に(電気電子情報工)(79)は2割を超える減少。
- 看護(85)は、大幅減少で、2年ぶりに減少。

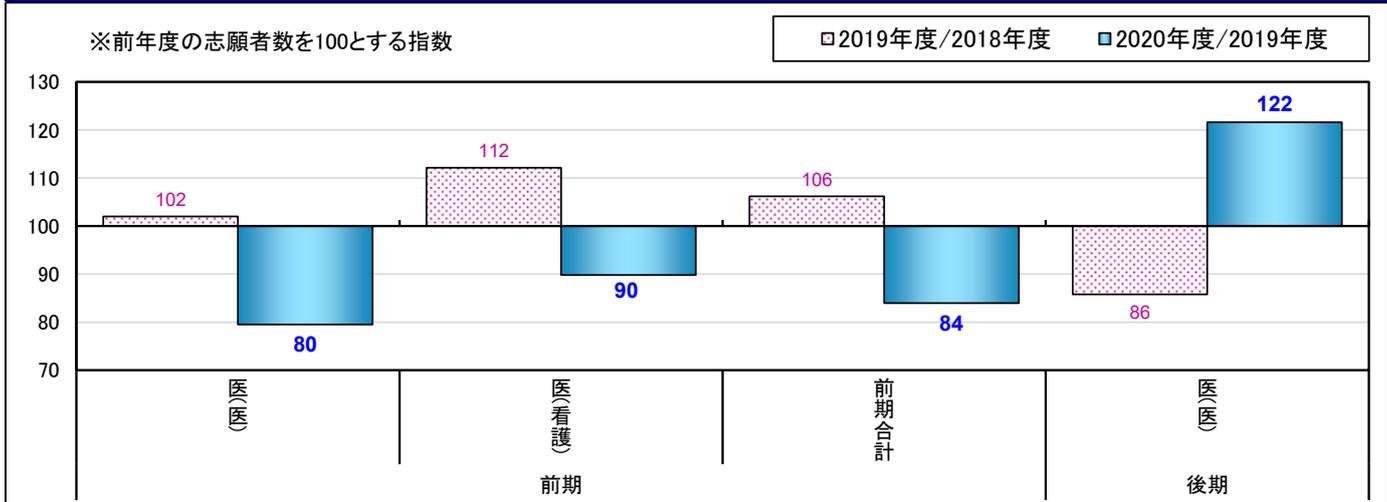
<中期日程>

- 開設2年目の社会情報科学(46)は、半減を超える減少。前年度志願倍率が33.7倍という高倍率だったことから敬遠。
- 理(97)は、2年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(物質科学)(112)は増加、一方で系統への人気も低い(生命科学)(83)は大幅減少と2学科間で対照的。

<後期日程>

- 国際商経(68)は、改組2年目で後期は(国際商経/経済学・経営学)のみの募集だが、系統への人気も低くもあって大幅減少。
- 環境人間(41)は、センター試験のみで個別試験が課されないことから、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて、半減以上の減少。学部全体では2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 工(103)は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(電気電子情報工)(109)は増加、(応用化学工)(106)はやや増加、一方で、(機械・材料工)(94)はやや減少。
- 看護(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。

奈良県立医科大：医(医)は前期大幅減少、後期は大幅増加 前期：-58人 後期：+172人



入試変更点 募集人員：医(看護)〈一般枠〉前…35人→40人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、前期は42人(80)の大幅減少、後期は172人(122)の大幅増加と対照的。医(看護)は、16人(90)の減少。〈一般枠〉(86)は2年連続増加の反動で減少、〈地域枠〉前年度大幅増加の反動はなく志願者数は前年度と同数。

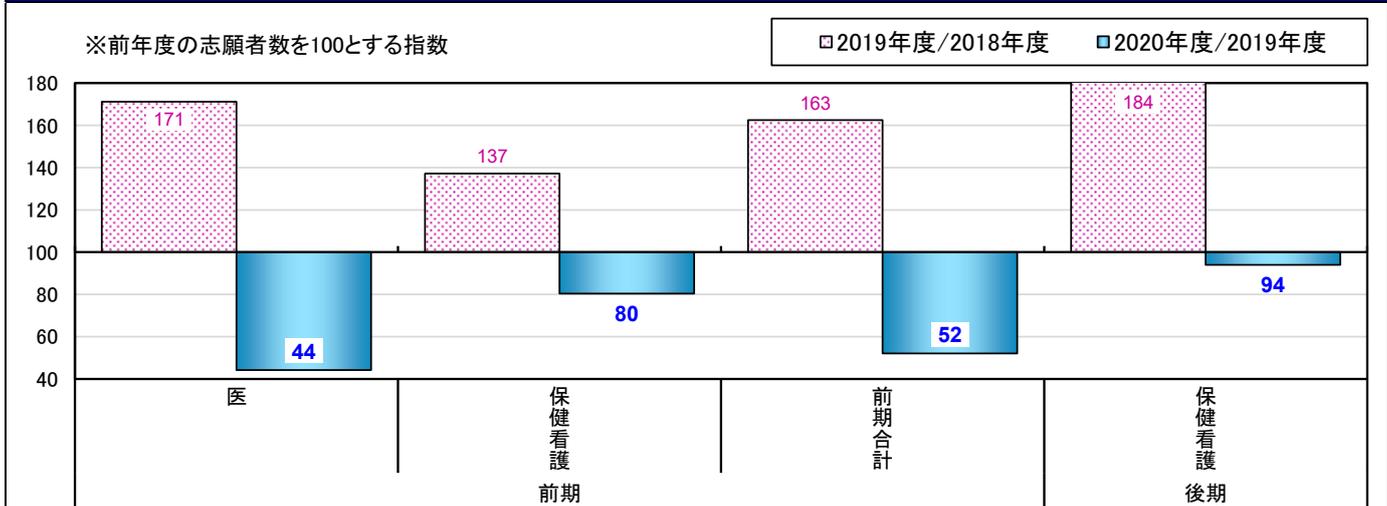
〈前期日程〉

○医(医)(80)は、大幅減少。2015年度以降、前年度の増減の反動が継続した。志願倍率は7.4倍にダウンし、募集人員が22人となった2013年度以降では最も低くなった。

〈後期日程〉

○医(医)(122)は、2年連続減少の反動で大幅増加。募集人員が後期の方が前期より多く、個別試験が教科試験であることから前期上位大学志願者の併願先として狙われた。

和歌山県立医科大：前期の医は半減以上、保健看護は大幅減少 前期：-237人 後期：-7人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

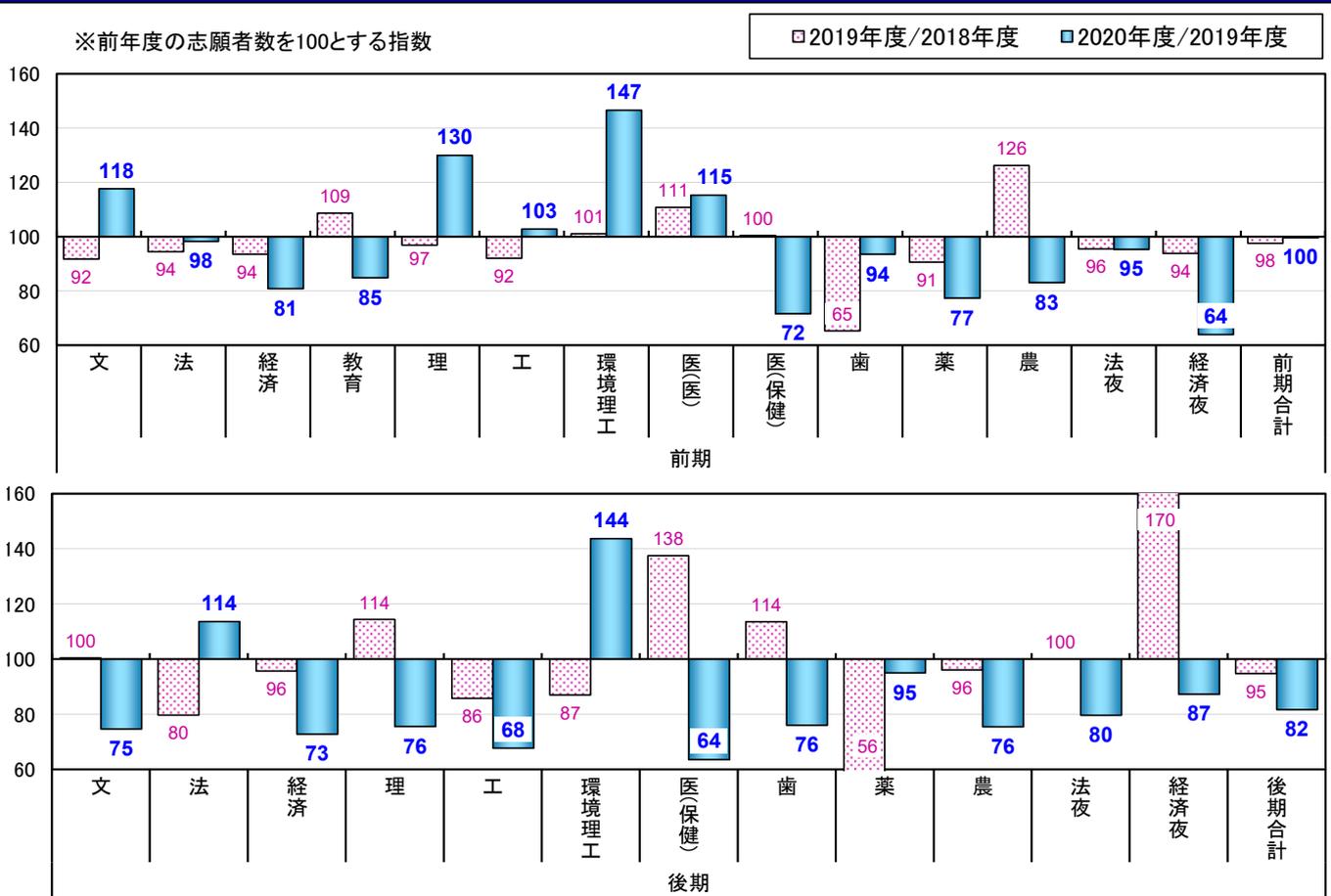
医は、前期のみの募集で216人(44)の半減を超える大幅減少。保健看護は、前期は前年度大幅増加の反動で、21人(80)の大幅減少。後期は、前年度大幅増加したが反動は小さく、7人(94)のやや減少に留まった。

〈前期日程〉

○医(44)は、前年度大幅増加の反動で、半減を超える大幅減少。2015年度以降、前年度の増減の反動が継続した。方式別では、〈一般枠〉(43)は半減を超える大幅減少で、志願倍率も2.0倍までダウンした。〈県民医療枠〉(47)は前年度倍増近い大幅増加だった反動で、半減を超える大幅減少。

岡山大：前期は微減、後期は大幅減少

前期：-10人 後期：-302人



入試変更点 個別試験：教育(養護教諭養成)〈前〉…小論文 300点→400点
 工(電気通信系)〈後〉…面接(口述試験含む) 600点→400点
 募集人員：環境理工(環境物質工)〈前〉…31人→30人、環境理工(環境管理工)〈後〉…8人→9人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

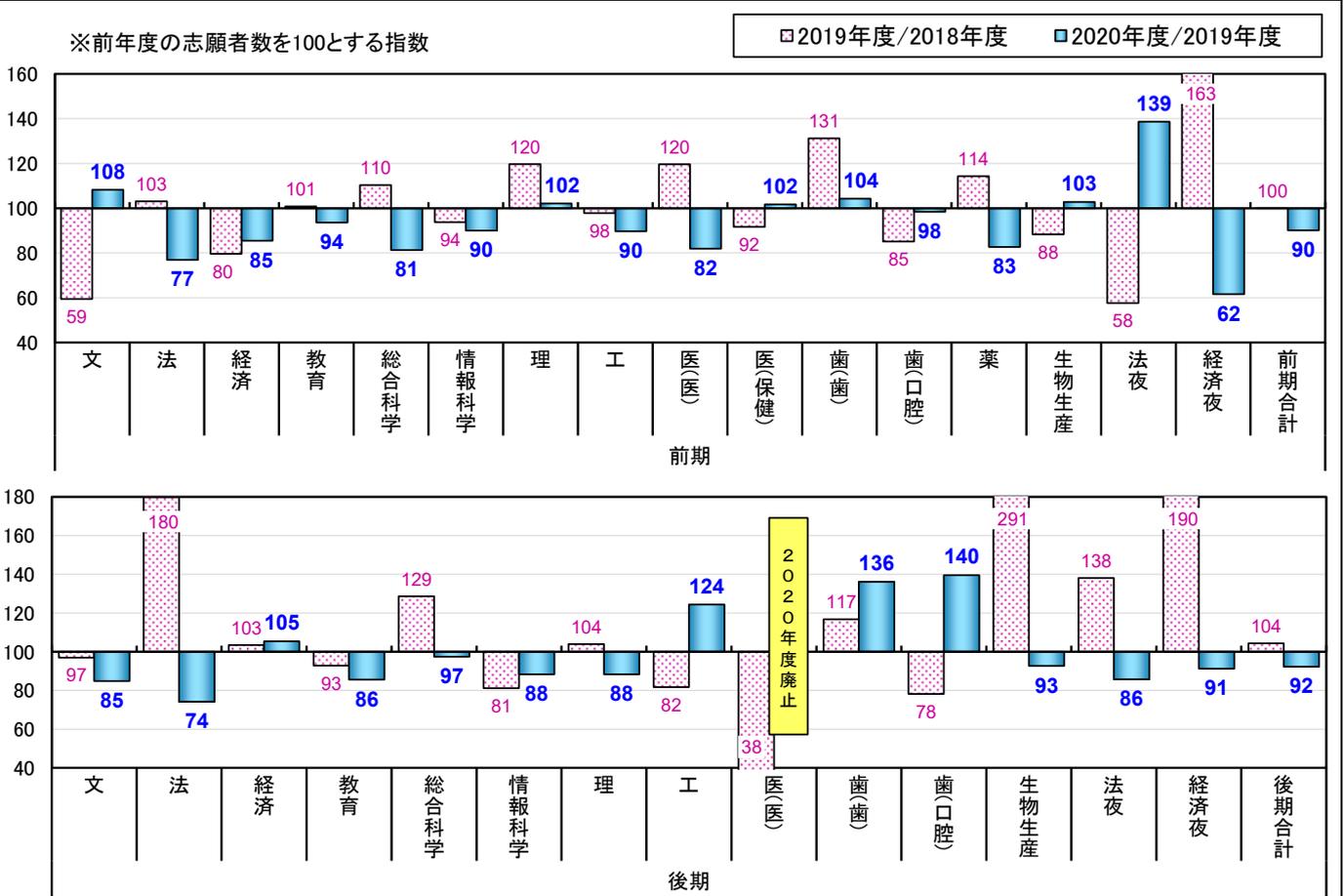
大学全体では、前期は10人(100)の微減で前年度並、学部別で増加したのは文、理、環境理工の3学部のみ。後期は302人(82)の大幅減少、学部別で増加したのは、法、環境理工の2学部のみ。

<前期日程>
 ○文(118)は、前年度減少の反動で大幅増加。
 ○法(98)は、微減だが2年連続減少。
 ○経済(81)は、系統への人気低下により、大幅減少で3年連続減少。
 ○教育(85)は、前年度3年ぶりに増加したが、今年度は大幅減少で、志願倍率は2.4倍→2.0倍にダウン。課程・コース・教科別では、(学校教育/中学(文系))(200)は倍増、(養護教諭養成)(133)は大幅増加したが、一方で減少した3つの課程・コース・教科の(学校教育/特別支援教育)(43)、(学校教育/中学(実技))(56)、学校教育(小学校)(77)はいずれも大幅減少。
 ○理(130)は、大幅増加。学科別では、増加した3学科の(数学)(187)、(生物)(157)、(化学)(144)はいずれも大幅増加。
 ○工(103)は、やや増加。学科別では、(電気通信系)(119)、(情報系)(115)は大幅増加、一方で(機械システム系)(81)は大幅減少。
 ○環境理工(147)は、大幅増加。学科別では、(環境物質工)(224)は倍増以上、(環境管理工)(147)も大幅増加。
 ○医(医)(115)は、大幅増加で2年連続増加。志願倍率は3.3倍→3.8倍とアップしたが、第1段階選抜実施予告倍率約4倍には達しなかった。
 ○医(保健)(72)は、大幅減少。専攻別でも3専攻が全て大幅減少で、特に(保健/看護)(67)の志願倍率は1.4倍の低倍率。
 ○歯(94)は、前年度大幅減少の反動はなく、引続きさらに減少。
 ○薬(77)は、大幅減少で系統への不人気から3年連続減少。学科別では、(創薬科学)(100)は前年度並だが、(薬)(69)は大幅減少。
 ○農(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

<後期日程>
 ○文(75)は、3年連続でほぼ同数の志願者数だったが、大幅減少で4年ぶりに減少。志願倍率は8.2倍→6.1倍にダウン。7倍を下回ったのは2012年度以来。
 ○法(114)は、2年連続大幅減少の反動で増加。
 ○経済(73)は、系統への人気低下により大幅減少で、2年連続減少。
 ○理(76)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(数学)(218)は激増だが、他の4学科は減少、特に(地球科学)(43)、(生物)(48)、(化学)(75)の3学科は大幅減少。

- 工(68)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、4学科が全て減少で、(情報系)(89)を除く3学科は大幅減少、特に(電気通信系(52))はほぼ半減。
- 環境理工(144)は、前年度減少の反動で大幅増加。学科別でも、2学科ともに大幅増加。
- 医(保健)(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別でも、3専攻全てが大幅減少。
- 歯(76)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 薬(95)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。学科別では、(創薬科学)(74)は2年連続大幅減少、薬(110)は前年度大幅減少の反動で増加と対照的な志願状況。

広島大：前期は4年ぶりに減少、後期も減少 前期：-479人 後期：-189人



入試変更点 選抜方法：医<後>…後期日程廃止
個別試験：生物生産<後>…面<300>→<段階評価>

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は479人(90)、後期は189人(92)でいずれも減少。学部別では、歯は前期(103)、後期(137)とも増加。なお、法夜、経済夜を除くと、前期は436人(91)の減少、後期は168人(93)のやや減少。

<前期日程>

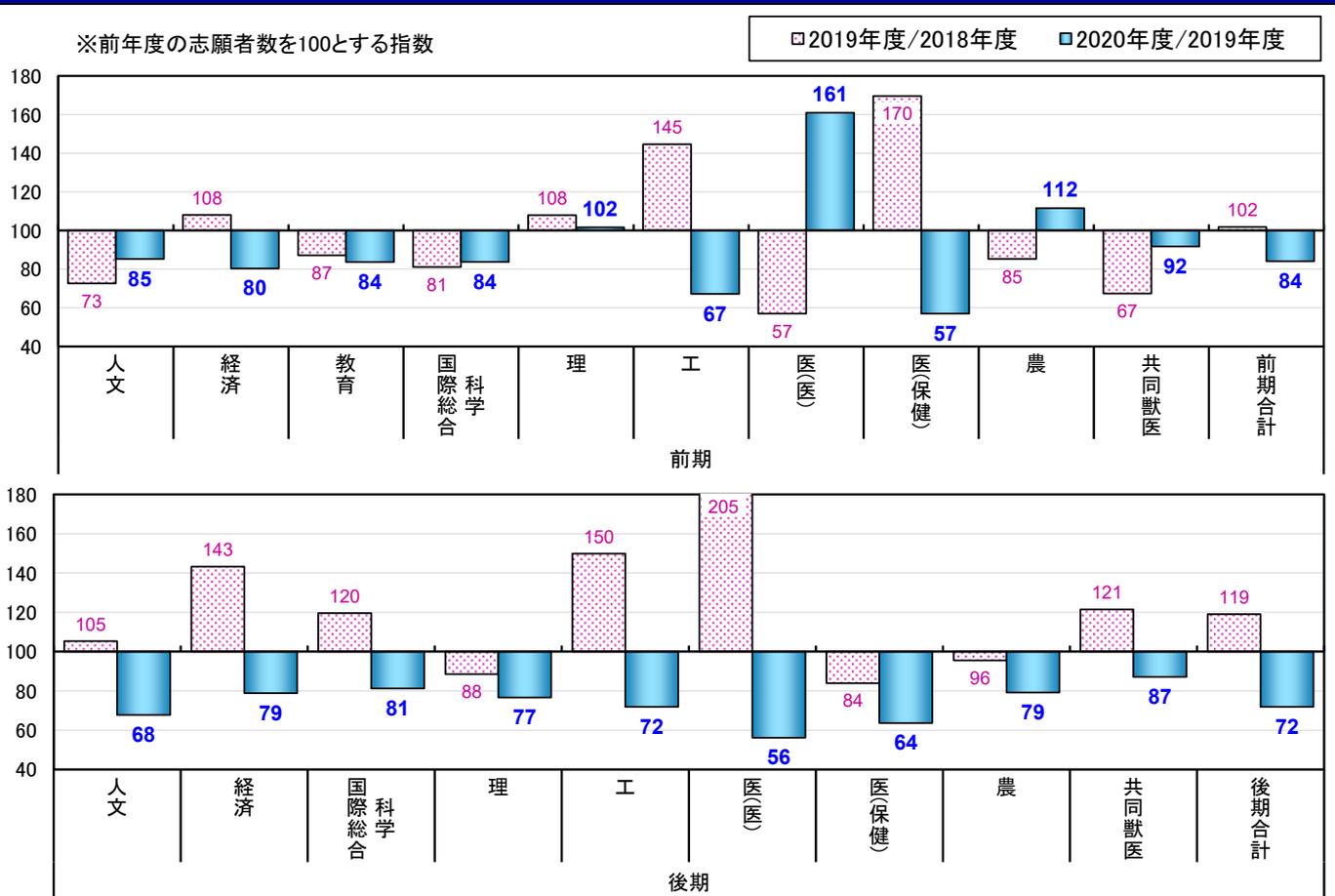
- 文(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 法(77)は、大幅減少。志願倍率も2.4倍→1.9倍へダウン。
- 経済(85)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。
- 教育(94)は、やや減少。(生涯)(82)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続、(科学)(84)は2年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(人間)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 総合科学(81)は、2年連続増加の反動で大幅減少。(総合科学)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(国際共創)(82)は2年連続の大幅減少。
- 情報科学(90)は、2年連続減少。志願倍率も3.1倍→2.9倍→2.6倍と連続ダウン。
- 理(102)は、前年度大幅増加の反動はなく微増で2年連続増加。学科別では、(生物科学)(159)は大幅増加、(地球惑星システム)(110)、物理(110)は増加。一方で、(化学)(73)は大幅減少、(数学)(86)は減少でいずれも前年度大幅増加の反動で減少。
- 工(90)は、3年連続減少。類・コース別では、(第四類)(129)は大幅増加、(第一類)(107)はやや増加。一方で、(工学特別)(44)、(第二類)(81)、(第三類)(85)は大幅減少で、全て前年度の反動で増減。
- 医(医)(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.6倍→5.4倍とダウン。
- 医(保健)(102)は、前年度並。専攻別では、(看護)(112)が前年度大幅減少の反動で増加。
- 歯(歯)(104)は、やや増加で2年連続増加。
- 歯(口腔)(98)は、微減で5年連続減少。特に、(口腔工)(81)は大幅減少で5年連続減少。

- 薬(83)は、前年度増加の反動で大幅減少。(薬科学)(133)は大幅増加で2年連続増加だが、(薬)(70)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 生物生産(103)は、3年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。

〈後期日程〉

- 文(85)は、大幅減少で3年連続減少。
- 法(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(105)は、やや増加で2年連続増加。
- 教育(86)は、系統の人気低下を反映して4年連続減少。
- 総合科学(97)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。
- 情報科学(88)は、減少で2年連続減少。
- 理(88)は、減少。学科別では、(地球惑星システム)(121)の大幅増加、化学(63)の大幅減少が目立った。
- 工(124)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。類・コース別では、(第一類)(174)、(第四類)(133)は大幅増加したが、(第三類)(84)は大幅減少。
- 歯(歯)(136)は、大幅増加で3年連続増加。
- 歯(口腔)(140)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 生物生産(93)は、前年度3倍近い激増だった反動は小さく、やや減少に留まった。

山口大：前期・後期ともに大幅減少、いずれも改組後最少 前期：-586人 後期：-978人



入試変更点 選抜方法：医(医)〈地域枠〉〈後〉…0人→3人 ※地域枠新規実施
 募集人員：医(医)…〈前〉60人、〈後〉10人→〈前〉55人、〈後〉7人
 センター：農(生物機能科学)〈前〉…国+歴公+数2+理2((物 or 化 or 生 or 地学)→2)+外
 →国+歴公+数2+理2(化+(物 or 生 or 地学))+外 ※理科の化学が必須へ
 個別：農(生物資源環境科学)〈前〉…数+理→数 or 理
 (生物機能科学)〈前〉…数+理→数 or 理

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は586人(84)の大幅減少で2年ぶりの減少。志願者数は3,000人をわずかに上回ったが、2015年度の改組後では最少。後期は978人(72)の大幅減少で、全ての学部で減少し、2年ぶりの減少。志願者数は2,500人をわずかに上回ったが、前期同様に2015年度の改組後では最少。

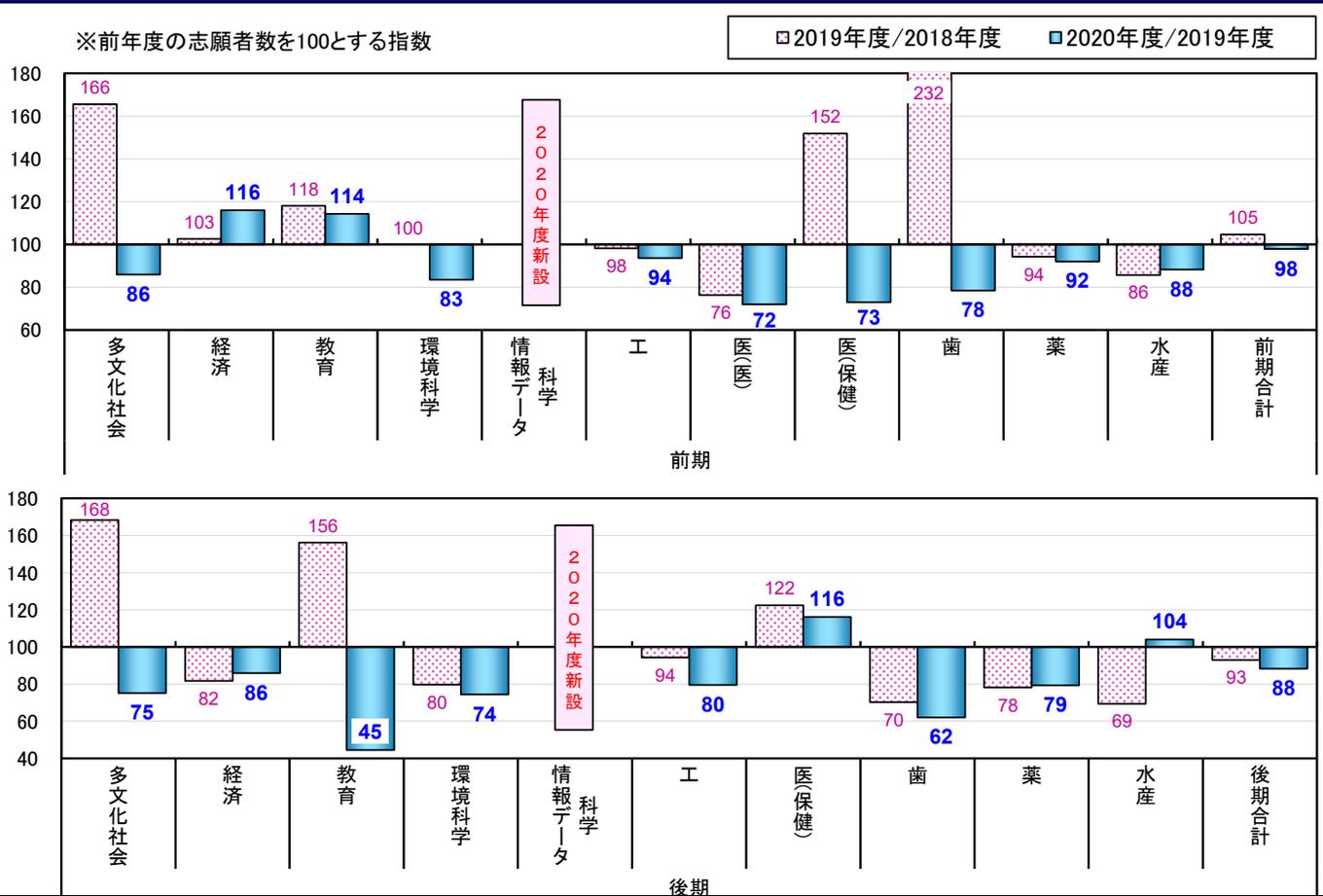
＜前期日程＞

- 人文(85)は、2年連続大幅減少。志願者数は280人を下回り、志願倍率も2.4倍までダウン。
- 経済(80)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 教育(84)は、系統への低い人気から2年連続減少、志願者数は330人を下回り、2015年度の改組後では最少。コース・選修別では、17コース・選修中3コース・選修のみが増加。特に、(学校教育/教科教育-家政教育)(345)は3倍以上の激増、(学校教育/情報教育)(135)は大幅増加。一方で、10コース・選修が大幅減少。特に、(学校教育/小学校教育-国際理解教育)(33)は3分の1の激減、(学校教育/教科教育-理科教育)(46)は半減以上。
- 国際総合科学(84)は、2年連続大幅減少。志願者数は開設初年度の2015年度に次ぐ少数だった。
- 理(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、4学科中3学科が増加。(物理・情報科学)(179)は大幅増加、一方で(数理科学)(67)は大幅減少。
- 工(67)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率は3.4倍→2.3倍にダウン。学科別では、7学科中2学科が増加で、(循環環境工)(159)、(感性デザイン工)(118)はいずれも大幅増加。一方で、(応用化学)(40)、(機械工)(51)、(電気電子工)(58)は40%を超える大幅減少。大きな増減はいずれも前年度の反動。
- 医(医)(161)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。募集人員減少も重なり、志願倍率は3.2倍→5.6倍にアップ。
- 医(保健)(57)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、2専攻のいずれも大幅減少。
- 農(112)は、2016年度以降前年度の反動による増減が継続して増加。学科別では、(生物機能科学)(149)が大幅増加、(生物資源環境)(80)が大幅減少と対照的。
- 共同獣医(92)は、前年度大幅減少に引続き減少。

＜後期日程＞

- 人文(68)は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は3年ぶりに10倍を下回った。
- 経済(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 国際総合科学(81)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(77)は、2年連続大幅減少。学科別では、4学科中すべてが減少、特に(数理科学)(67)、(生物・化学)(68)は大幅減少。
- 工(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、7学科中1学科のみ増加、その(感性デザイン工)(123)は大幅増加。一方で、(応用化学)(31)は3分の1の激減、(循環環境工)(66)、(電気電子工)(71)はともに大幅減少。
- 医(医)(56)は、40%以上の大幅減少。2016年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 医(保健)(64)は、2年連続大幅減少で、志願者数は4年ぶりに200人を下回った。専攻別では、2専攻のいずれも35%以上の大幅減少。
- 農(79)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、前期と同様に(生物機能科学)(172)が大幅増加、(生物資源環境)(60)が大幅減少と対照的。
- 共同獣医(87)は、2015年度以降前年度の反動による増減が継続して減少。

長崎大：前期は微減、後期は減少だが、新設除くと前期減少、後期は大幅減少 前期：-61人 後期：-219人



入試変更点

学部新設：情報データ科学(情報データ科学)…〈前〉70人、〈後〉15人
 コース改組：教育(学校教育) ※一般入試実施募集単位のみ記載
 …学校教育／小学校教育
 学校教育／中学校教育－国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
 学校教育／幼稚園教育－こども保育
 学校教育／特別支援教育
 →学校教育／小学校教育
 学校教育／中学校教育－文系、理系、実技系
 学校教育／幼児教育
 学校教育／特別支援教育

英語外部試験対象試験：多文化社会〈前〉〈後〉…英検、GTEC(4技能)、GTEC(3技能)、GTEC CBT、
 旧 GTEC for STUDENTS、旧 GTEC for STUDENTS+(S)、IELTS、
 TEAP、TOEFL iBT、TOEIC LR、TOEIC LR&SW
 →英検、GTEC(4技能)、GTEC(3技能)、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、
 TOEIC LR、TOEIC LR&SW

2段階選抜新規実施：歯〈後〉…約20倍(通過予定人数：140人)
 募集人員：工〈前〉…263人→221人
 個別：歯〈後〉…面接+総合問題→小論文+面接

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は61人(98)の微減で3年ぶりの減少だが、新設の情報データ科学を除くと(91)の減少。増加した既存学部は経済(116)、教育(114)の2学部のみ。後期は219人(88)の減少で、2年連続減少だが、新設の情報データ科学を除くと(81)の大幅減少。増加した既存学部は、医(保健)(116)、水産(104)の2学部のみ。

〈前期日程〉

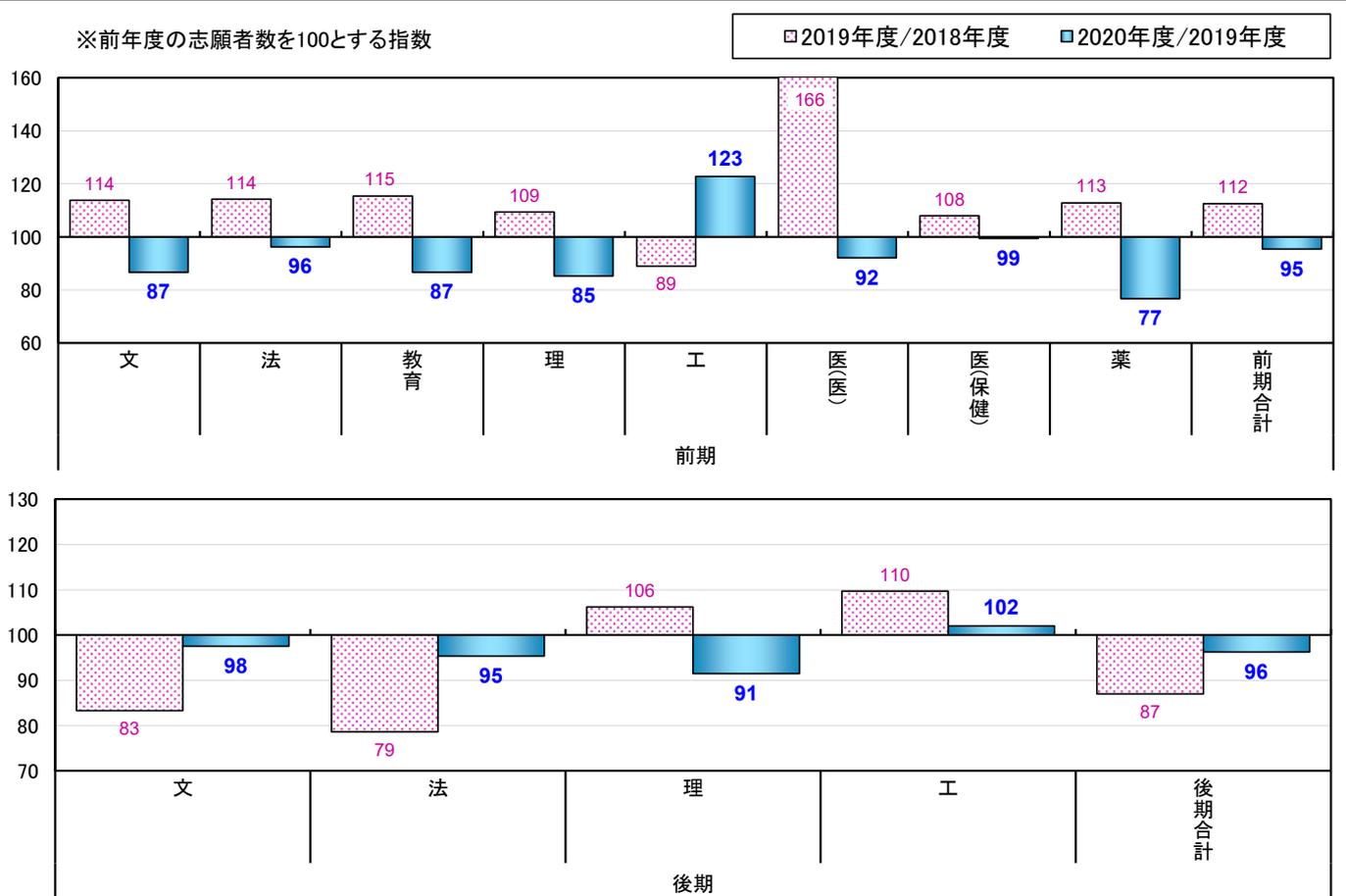
- 多文化社会(86)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別では、(多文化社会／オランダ特別)(73)は大幅増加、(多文化社会／オランダ特別以外)(87)は減少。
- 経済(116)は、大幅増加で3年連続増加。
- 教育(114)は、前年度の大幅増加に引続き、2年連続増加。改組を考慮して現行のコース別でみると、(学校教育／特別支援教育)(550)は5.5倍の激増。(学校教育／幼児教育)(136)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(学校教育／中学校教育)(90)は4年連続減少。
- 環境科学(83)は、大幅減少。募集単位別では、文系の(選抜方法A)(50)が半減、一方で理系の(選抜方法B)(137)が大幅増加と対照的。

- 新設の情報データ科学は、志願者数 190 人。志願倍率 2.7 倍で、工の 2.1 倍を上回った。
- 工(94)は、3年連続減少だが、募集人員が減少(前年度対比指数 84)したので、志願倍率は 1.8 倍→2.1 倍へアップし、3年ぶりに2倍を上回った。
- 医(医)(72)は、2年連続大幅減少。志願倍率は 5.2 倍→3.7 倍にダウンし、7年ぶりに4倍を下回った。
- 医(保健)(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、3専攻のいずれも減少で、(保健/作業療法)(65)、(保健/看護)(70)は大幅減少。
- 歯(78)は、前年度 2.3 倍増以上だった反動で大幅減少
- 薬(92)は、系統への低い人気から4年連続減少。学科別の減少率は、4年制の薬科学(87)が6年制の薬(96)より大きかった。
- 水産(88)は、2年連続 10%を上回る減少。

〈後期日程〉

- 多文化社会(75)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(86)は、前年度大幅減少に引続き、10%以上の減少。
- 教育(45)は、2コースのみの募集。(学校教育/小学校教育)(24)は前年度大幅増加の反動で激減。(学校教育/特別支援教育)(143)は前年度 2.5 倍増に引続き大幅増加。
- 環境科学(74)は、2年連続大幅減少。募集単位別では、理系の(選抜方法B)(64)、文系の(選抜方法A)(83)といずれも大幅減少。
- 新設の情報データ科学は、志願者数 143 人。志願倍率 9.5 倍で、工の 5.6 倍を大きく上回った。
- 工(80)は、2年連続減少で、志願倍率は 7.0 倍→5.6 倍へダウンし、4年ぶりに6倍を下回った。
- 医(保健)(116)は、2年連続大幅増加。専攻別では、(保健/看護)(146)が大幅増加。一方で、(保健/理学療法)(77)は大幅減少。
- 歯(62)は、3年連続減少で、2年連続大幅減少
- 薬(79)は、3年連続減少で、2年連続大幅減少。学科別では、6年制の薬(64)が大幅減少。4年制の薬科学(101)は前年度並。
- 水産(104)は、やや増加で、4年ぶりに増加。

熊本大：前期は2年ぶりに減少、後期は7年連続減少 前期：-152人 後期：-41人



入試変更点 募集人員：医(医)〈前〉…95人→90人

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 152 人(95)のやや減少で2年ぶりに減少。学部別では、増加したのは工(123)のみ。後期は 41 人(96)のやや減少で7年連続減少。学部別では、増加したのは前期同様に工(102)のみ。

＜前期日程＞

- 文(87)は、前年度3年ぶりに増加した反動で減少。学科別では、(歴史)(132)のみ大幅増加、他の3学科は全て大幅減少で、特に(コミュニケーション情報)(68)は2年連続増加の反動で30%以上減少。
- 法(96)は、前年度増加の反動は小さく、やや減少に留まった。
- 教育(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。課程・専攻別では、(中学/美術)(238)が倍以上、(中学/英語)(175)が大幅増加、一方で(中学/技術)(33)の激減、(中学/国語)(67)、(中学/数学)(70)、(小学)(76)、(中学/家庭)(77)、(中学/社会)(83)、(中学/保健体育)(83)が大幅減少と大きな増減が目立った。
- 理(85)は、大幅減少。2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 工(123)は、大幅増加。2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(土木建築)(91)は減少だが、他の3学科は増加で、特に(情報電気工)(153)、(材料応用化学)(149)は大幅増加。
- 医(医)(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。2013年度以降、前年度の反動による増減が継続。なお、募集人員の減少(前年度対比-5.3%)があったので、志願倍率は5.6倍→5.4倍とわずかなダウンに留まった。
- 医(保健)(99)は、前年度増加の反動は小さく前年度並。専攻別では、(保健/検査技術)(139)が大幅増加、一方で(保健/看護)(78)は大幅減少。
- 薬(77)は、前年度増加の反動と系統への低人気で大幅減少。2学科ともに大幅減少、特に(創薬・生命薬科学)(57)は半減近い減少。

＜後期日程＞

- 文(98)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(コミュニケーション情報)(152)が大幅増加、一方で(総合人間)(82)は大幅減少。
- 法(95)は、やや減少で3年連続減少。
- 理(91)は、3年連続増加の反動で減少。志願倍率も9.4倍→8.6倍にダウンし、2年ぶりに9倍を下回った。
- 工(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(情報電気工)(151)が大幅増加、一方で、(材料応用化学)(79)は大幅減少。

<北海道・東北>

大学	日程	志願者数増減				2020年度		2019年度		2018年度		コメント
		2020vs2019		2019vs2018		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
		増減数	指数	増減数	指数							
帯広畜産大	前	+81	121	-25	94	160	470	160	389	140	414	3年連続減少の反動で、大幅増加。課程別では、(共同獣医)(102)は前年度並だったが、(畜産科学)(129)は3年連続減少の反動で大幅増加。
	後	+270	278	-80	66	35	422	35	152	46	232	2年連続大幅減少の反動で、2.8倍近い激増。課程別では、(共同獣医)(285)、(畜産科学)(274)のいずれも2.7倍を超える激増。
北見工業大	前	-13	97	-42	91	164	420	164	433	164	475	やや減少だが、2年連続減少。学科別では、(地域未来デザイン工)(105)はやや増加。一方で、(地球環境工)(90)は2年連続減少と対照的。
	後	-50	97	+179	112	143	1,605	143	1,655	143	1,476	2年連続増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(地球環境工)(103)はやや増加だが、改組後翌年の2018年度から3年連続増加。一方で、(地域未来デザイン工)(92)は前年度増加の反動で減少。
室蘭工業大	前	+393	149	-186	81	249	1,195	249	802	324	988	改組前から3年連続減少の反動で大幅増加、募集人員が約1.3倍だった2016年度も上回った。昼間コースのみでも同様。昼間コースの学科別では、(システム理化)(209)は倍以上、(創造工)(126)も大幅増加。
	後	+2	100	-164	75	120	483	120	481	132	645	前年度大幅減少の反動はなく、前年度並。昼間コースのみでは(95)のやや減少で3年連続減少。昼間コースの学科別では、(創造工)(119)は大幅増加。一方で、(システム理化)(65)と大幅減少と対照的。
弘前大	前	-298	88	+271	112	801	2,221	806	2,519	809	2,248	前年度増加の反動で減少。学部別では、人文社会科学(106)は3年連続増加。前年度大幅増加の反動で、医(医)(55)、教育(79)は大幅減少、理工(91)は減少。新設の医(心理支援)は志願倍率4.2倍の高倍率。
	後	-49	97	+176	112	184	1,595	181	1,644	178	1,468	前年度増加の反動は小さく、やや減少。系統への高い人気から理工(110)は2年連続増加。一方で、教育(64)は前年度倍増以上の反動で、大幅減少。
岩手大	前	-52	96	+42	103	635	1,321	633	1,373	633	1,331	2年連続増加の反動で、やや減少。学部別では、教育(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、人文社会科学(73)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。農(82)も前年度やや増加の反動で大幅減少。
	後	+7	101	+22	102	161	1,077	163	1,070	161	1,048	2年連続前年度並。学部別では、系統への高い人気もあり、理工(103)は2年連続やや増加。一方で、教育(97)は2コースのみの募集だが、前年度の大幅減少に引き続き、やや減少。
宮城教育大	前	+45	110	-75	85	225	483	225	438	225	513	前年度大幅減少の反動で増加。17募集単位中11募集単位が増加。目立ったのは、教育(中等/美術)(200)が倍増、(中等/保健体育)(181)が激増。一方で、(中等/技術)(50)は半減。
	後	+11	103	-17	96	56	428	56	417	56	434	2年連続減少の反動は小さく、やや増加。10募集単位中6募集単位が増加。(中等/国語)(300)が3倍増、(中等/理科)(165)が激増。一方で、(初等/幼児教育)(67)、(初等/国語)(75)は大幅減少。
秋田大	前	+46	102	-603	76	511	1,937	513	1,891	546	2,494	前年度大幅減少の反動は小さく微増。学部別では、国際資源(126)が大幅増加で、3年連続増加。医(医)(182)は前年度半減の反動で激増。教育文化(81)は大幅減少、理工(89)は減少で、いずれも2年連続減少。
	後	-249	87	-556	78	143	1,672	153	1,921	172	2,477	2年連続減少。学部別では、前年度大幅減少の理工(103)がやや増加だが、他の学部はいずれも減少。国際資源(76)、医(保健)(76)はいずれも2年連続大幅減少。教育文化(85)も大幅減少で2年連続減少。
福島大	前	-252	87	+450	132	519	1,616	519	1,868	505	1,418	前年度大幅増加の反動で減少。学部別では、理工(71)は前年度大幅増加の反動で、大幅減少。人文社会(93)は前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。開設2年目の農(52)は半減近い減少。
	後	+368	121	-82	96	159	2,161	159	1,793	165	1,875	大幅増加で、2年ぶりに増加。学部別では、人文社会(150)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。特に、前年度激減の(行政政策)(384)が激増。理工(96)は2年連続やや減少。開設2年目の農(62)は大幅減少。
宮城大	前	-6	99	-36	95	210	642	210	648	210	684	微減だが、2年連続減少。学部別では、事業構想(118)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。看護(95)はやや減少で、2年ぶりの減少。食産業(77)は2年連続増加の反動で、大幅減少。
	後	-54	92	-60	92	42	653	42	707	42	767	2年連続減少。学部別では、3学部全てが減少で、特に看護(84)は前年度大幅増加の反動で、大幅減少。事業構想(92)は2年連続減少。食産業(98)は微減。
国際教養大	独	-203	86	+197	116	100	1,258	105	1,461	105	1,264	前年度大幅増加の反動で減少。日程別では、<B日程>(112)が2年連続増加。一方で、<A日程>(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。<C日程>(75)は3年連続減少。
会津大	前	+81	108	+47	105	174	1,092	174	1,011	174	964	系統への高い人気から、2年連続増加で、志願者数も1,000人以上。パターン別では、個別試験重視配点の<一般入試A>(114)は3年連続増加。一方で、センター試験重視配点の<一般入試B>(65)は大幅減少。

<関東>

大学	日程	志願者数増減				2020年度		2019年度		2018年度		コメント
		2020vs2019		2019vs2018		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
		増減数	指数	増減数	指数							
茨城大	前	-209	91	+80	103	895	2,217	893	2,426	893	2,346	2年連続増加の反動で減少。学部別では、工(125)が大幅増加。農(121)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、人文社会科学(73)、理(76)は、いずれも前年度増加の反動で大幅減少。
	後	-669	83	+691	121	418	3,344	418	4,013	418	3,322	2年連続増加の反動で、大幅減少。学部別では、農(283)が前年度大幅減少の反動で激増。一方で、工(65)、人文社会科学(79)は、いずれも前年度増加の反動で大幅減少。
高崎経済大	前	+219	112	-519	78	340	2,061	340	1,842	340	2,361	前年度大幅減少の反動で増加。学部別では、経済(164)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、地域政策(90)は2年連続減少。
	中	+44	101	-398	89	240	3,120	240	3,076	240	3,474	経済(101)のみの募集で、系統への人気低下が影響して、前年度10%以上減少の反動はわずかで、前年度並。
	後	-16	98	-250	81	100	1,047	100	1,063	100	1,313	地域政策(98)のみの募集で、微減だが、4年連続減少。
埼玉県立大	前	-5	99	-82	88	197	577	197	582	197	664	微減だが、2年連続減少。学科・専攻別では、(健康開発/口腔保健)(190)、(社会福祉子ども/社会福祉)(143)、(社会福祉子ども/福祉子ども)(118)が大幅増加。一方で、(健康開発/健康行動)(49)は半減。
	後	-108	82	-47	93	40	482	40	590	40	637	大幅減少で、2年連続減少。学科・専攻別では、(健康開発/検査技術)(166)は激増。一方で、(健康開発/健康行動)(33)は激減、(社会福祉子ども/社会福祉)(69)も30%以上的大幅減少。
千葉県立保健医療大	前	-13	96	-97	77	92	305	92	318	108	415	やや減少だが、3年連続減少。学科・専攻別では、(看護)(112)の増加を除いた学科・専攻は減少。特に、(リハビリテーション/作業療法)(72)、(歯科衛生)(80)はいずれも大幅減少で、3年連続減少。
神奈川県立保健福祉大	前	-54	88	+123	138	100	390	100	444	100	321	前年度大幅増加の反動で減少。学部別では、(栄養)(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。これを除くといずれも減少、特に(リハビリテーション/作業療法)(54)は前年度倍増の反動で半減近い減少。
	後	-5	98	-17	93	15	226	15	231	15	248	微減だが、2年連続減少。学部別では、(栄養)(203)は3年連続減少の反動で倍増以上。一方で、(社会福祉)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(看護)(80)は2年連続大幅減少。

<東海・北陸>

大学	日程	志願者数増減				2020年度		2019年度		2018年度		コメント
		2020vs2019		2019vs2018		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
		増減数	指数	増減数	指数							
富山大	前	-419	90	-221	95	1,113	3,833	1,110	4,252	1,112	4,473	2年連続減少。学部別では、人文(148)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。都市デザイン(138)も大幅増加。以上の2学部を除くと、理(92)を除き10%以上減少。特に、経済(68)は30%以上的大幅減少。
	後	-706	83	+180	104	316	3,479	318	4,185	316	4,005	2年連続増加の反動で大幅減少。学部別では、都市デザイン(113)が開設以降2年連続増加。医(看護)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。以上の2つを除くと減少で、特に工(57)は40%以上的大幅減少。
福井大	前	-41	97	-98	93	459	1,248	459	1,289	462	1,387	やや減少で、2年連続減少。学部別では、医(医)(119)は3年ぶりに大幅増加。一方で、前年度大幅増加の反動で国際地域(44)は半減以上、教育(75)は大幅減少。医(看護)(92)は2年連続減少。
	後	+61	103	-252	89	253	2,149	261	2,088	263	2,340	前年度減少の反動は小さく、やや増加。全学部が前年度的大幅増減の反動で大幅増減。特に、医(医)(156)は前年度半減近い減少の反動で大幅増加。一方で、国際地域(30)は前年度倍増以上の反動で激減。
愛知教育大	前	-167	89	+118	109	582	1,330	582	1,497	582	1,379	前年度増加の反動で減少。課程別では、(養護教諭)(87)は3年連続減少だが、他の課程は前年度と逆の増減。その中で、(特別支援)(126)が大幅増加。一方で、(教育支援)(75)は大幅減少。
	後	-118	90	+157	115	125	1,070	125	1,188	125	1,031	前年度大幅増加の反動で減少。(特別支援)(110)は2年連続増加。(教育支援)(89)は2年連続減少。他の課程は前年度と逆の増減。その中で、(中等)(83)は前年度的大幅増加の反動で大幅減少。
岐阜薬科大	中	-120	87	-25	97	78	811	78	931	78	956	6年制の(薬)のみの募集。系統への低い人気もあり、大幅減少で2年連続減少。(薬)のみの募集となった2017年度の志願者数をわずかに上回ったが、900人を3年ぶりに下回った。
愛知県立大	前	-161	91	+48	103	511	1,722	511	1,883	510	1,835	2年ぶりに減少。学部別では、微増の日本文化(102)以外の4学部は減少。特に、教育福祉(82)は大幅減少で志願倍率は3倍を下回った。情報科学(96)は4年連続、看護(86)は3年連続減少。
	後	-140	81	+277	160	54	597	54	737	55	460	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。大幅増加の日本文化(116)、微減の外国語(98)を除く3学部は大幅減少。看護(55)は前年度3.5倍近い激増の反動で45%の大幅減少。教育福祉(77)、情報科学(79)も20%以上的大幅減少。

<近畿>

大学	日程	志願者数増減				2020年度		2019年度		2018年度		コメント
		2020vs2019		2019vs2018		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
		増減数	指数	増減数	指数							
滋賀大	前	-490	73	+357	124	360	1,327	360	1,817	360	1,460	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。経済(夜間主)(70)を除いても(73)。全学部で大幅減少。経済(昼間主)(71)およびデータサイエンス(85)は前年度大幅増加の反動、教育(74)は系統への低い人気で、2年連続減少。
	後	-682	79	+788	132	244	2,538	244	3,220	244	2,432	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。全学部で大幅減少。いずれも、前年度大幅増加の反動。教育(64)は系統への低い人気も重なり、35%以上の減少。
京都教育大	前	-101	76	+5	101	172	312	169	413	167	408	4年連続増加の反動で、大幅減少。募集区分別では、(学校教育/家庭)(200)は倍増、(学校教育/技術)(178)は激増だが、他は全て減少。特に、(学校教育/理科)(52)、(学校教育/書道)(52)は半減近い減少。
	後	-54	71	+35	123	25	130	27	184	28	149	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。募集を行う5募集区分が全て減少で、(学校教育/国語)(89)を除いて、いずれも大幅減少。特に、(学校教育/理科)(51)は半減近い減少。
大阪教育大	前	-228	84	+119	109	534	1,236	536	1,464	554	1,345	前年度5年ぶりに増加したが、再び大幅減少。(初等/小学校-夜間)(89)を除いても(84)。課程・学科・専攻・コース別では、(学校/中等-美術・書道)(286)が3倍近い増加。一方で、(学校/小中-家政)(39)は激減。
	後	-153	89	+58	104	181	1,233	187	1,386	194	1,328	前年度7年ぶりに増加したが、再び減少。(初等/小学校-夜間)(97)を除くと(88)。課程・学科・専攻・コース別では、(学校/中等-美術・書道)(152)は50%以上の大幅増加。一方で、(教育/健康安全)(54)は3年連続減少。
奈良教育大	前	-148	72	+35	107	156	386	158	534	158	499	前年度増加の反動と系統への低い人気で、大幅減少。専修・履修分野別では、(保体-中等)(333)、(美術-中等)(300)、(技術-中等)(233)は激増。一方で、(英語-中等)(28)、(家庭-初等)(32)、(社会-中等)(37)は激減。
	後	-43	94	-29	96	59	705	60	748	60	777	系統への低い人気で、3年連続減少。専修・履修分野別では、(技術-中等)(314)、(数学-中等)(273)は倍増以上の激増。一方で、(家庭-初等)(31)、(特別支援)(47)、(国語-中等)(47)は半減以上の大幅減少。
奈良女子大	前	-120	87	+72	109	301	774	301	894	301	822	前年度増加の反動で減少。学部別では、文(100)は前年度増加の反動はなく、前年度並。理(86)は2年ぶりに減少、(数物科学)(174)が激増、他の3学科はいずれも大幅減少。生活環境(78)は大幅減少で、全学科が減少。
	後	-23	98	-93	91	114	944	114	967	114	1,060	微減だが、2年連続減少。学部別では、文(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、理(116)も3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、生活環境(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少で、全学科が大幅減少。
和歌山大	前	-18	99	-165	90	505	1,495	505	1,513	505	1,678	微減だが、2年連続減少。学部別では、システム工(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、経済(90)は2年連続減少。観光(82)は大幅減少で志願倍率は3倍を下回った。教育(92)は2016年度の改組後最少。
	後	-338	86	+448	123	243	2,089	243	2,427	243	1,979	前年度大幅増加の反動で減少。学部別では、教育(110)は2年連続減少の反動で増加。一方で、観光(68)、経済(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。システム工(92)は前年度大幅増加の反動は小さかった。
神戸市外国語大	前	-127	87	+27	103	275	864	286	991	286	964	10%以上の減少で、2014年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では6学科全てが減少。特に、(ロシア)(63)は2年連続増加の反動で大幅減少、中国(82)は2016年度、2018年度に引続き大幅減少。
	後	-314	69	+398	166	65	688	85	1,002	85	604	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。学科別では、(イスパニア)(112)は2年連続増加。これを除いた5学科はいずれも大幅減少。特に、(中国)(52)は前年度倍増近い増加だった反動で半減近い減少。

<中国・四国・九州・沖縄>

大学	日程	志願者数増減				2020年度		2019年度		2018年度		コメント
		2020vs2019		2019vs2018		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
		増減数	指数	増減数	指数							
徳島大	前	+309	114	-20	99	723	2,493	702	2,184	710	2,204	2年連続減少した反動で増加。理工<夜間主>(69)を除くと(119)の大幅増加。学部別では、歯(歯)(154)、総合科学(151)、医(保健)(139)、生物資源科学(124)、理工(120)が大幅増加、一方で、医(医)(69)は大幅減少。
	後	+314	117	-208	90	181	2,178	185	1,864	190	2,072	2年連続減少の反動で、大幅増加。学部別では、(総合科学)(88)を除いて増加。特に、医(保健)(126)は大幅増加で2年連続増加、理工(130)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
香川大	前	-46	97	-111	94	679	1,671	681	1,717	679	1,828	やや減少だが、4年連続減少。学部別では、農(129)は3年連続減少の反動で大幅増加。医(医)(106)はやや増加だが、2年連続増加。一方で、教育(78)、経済(80)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
	後	-101	93	-148	91	169	1,383	169	1,484	186	1,632	やや減少だが、3年連続減少。学部別では、法(120)は、前年度大幅減少の反動で、大幅増加。他の4学部はいずれも減少。特に、経済(81)は前年度大幅増加の反動で、大幅減少。創造工(90)は改組後2年連続減少。
高知大	前	-164	92	+210	112	627	1,847	632	2,011	625	1,801	前年度の反動による増減が継続し、減少。学部別では、医(医)(151)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。地域協働(130)は2年連続減少の反動で、大幅増加。一方で、医(看護)(28)は前年度倍増の反動で激減。
	後	-66	94	+266	132	80	1,035	80	1,101	84	835	前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学部別では、理工(139)は2年連続大幅増加。一方で、教育(66)は大幅減少で、2連続減少。他の3学部は反動で減少、特に医(看護)(53)はほぼ半減。
九州工業大	前	-266	80	+128	111	469	1,060	469	1,326	475	1,198	2年連続増加の反動で、大幅減少。類別では、大幅増加の(工学4類)(124)、前年度並の(工学1類)(101)を除き減少。その中では、(工学3類)(89)を除き大幅減少で、特に(情工2類)(56)は40%以上の大幅減少。
	後	-267	80	-138	91	242	1,071	242	1,338	279	1,476	前年度の減少に引続き、大幅減少。類別では、(工学5類)(108)は増加。一方で、(情工1類)(65)、(工学1類)(70)、(工学2類)(72)はいずれも25%以上の大幅減少。
福岡教育大	前	-10	99	-47	95	382	800	378	810	373	857	微減だが、3年連続減少。課程及び選修・専攻(部以下「募集単位」)別では、15募集単位中9募集単位が増加。特に、(中等／家庭)(169)、(中等／技術)(160)が激増。一方で、(中等／国語)(78)は20%以上の大幅減少。
	後	-51	93	-111	87	82	682	81	733	83	844	やや減少で、2年連続減少。募集単位別では、(中等／技術)(156)、(特別支援／初等)(156)は大幅増加。(初等教育)(80)、(特別支援／中等)(86)は大幅減少。(中等／数学)、(中等／理科)は前年度と同人数だった。
佐賀大	前	+81	104	-85	96	686	2,220	688	2,139	770	2,224	やや増加で、2年ぶりの増加。学部別では、教育(135)が前年度大幅減少の反動で、大幅増加。改組2年目の理工(111)も増加。一方で、経済(88)は3年連続増加の反動で減少。医(医)(96)、医(看護)(93)は2年連続減少。
	後	+246	109	-365	88	249	2,976	249	2,730	251	3,095	4年連続減少の反動で増加。学部別では、教育(208)は2年連続減少の反動で、倍増以上。農(123)も2年連続減少の反動で、大幅増加。一方で、医(看護)(69)は大幅減少。芸術地域デザイン(87)は減少。
大分大	前	-106	95	+509	130	629	2,080	629	2,186	629	1,677	前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。学部別では、経済(116)が3年連続減少の反動で、大幅増加。一方で、医(看護)(59)は前年度3倍増以上の反動で、大幅減少。教育(88)は2年連続大幅増加の反動で減少。
	後	-683	69	+568	135	195	1,498	195	2,181	195	1,613	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。福祉健康科学(92)を除く4学部が大幅減少。特に、医(看護)(52)は前年度約4.5倍増の反動で、半減近い減少、教育(57)も前年度大幅増加の反動で、40%以上の大幅減少。
宮崎大	前	-519	74	+88	105	610	1,496	610	2,015	594	1,927	大幅減少で、4年ぶりの減少。学部別では、医(看護)(153)は2年連続大幅増加。教育(128)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。一方で、地域資源創成(48)、農(48)は半減以上。医(医)(53)も半減近い大幅減少。
	後	-699	77	+610	125	225	2,397	225	3,096	212	2,486	前年度大幅増加の反動で、大幅減少。2014年度以降、反動による増減が継続。全学部減少したが、特に地域資源創成(44)は改組後3年連続増加の反動で、半減以上。医(看護)(97)はやや減少だが、3年連続減少。
鹿児島大	前	-380	89	-184	95	1,261	2,979	1,330	3,359	1,342	3,543	2年連続減少。学部別では、共同獣医(113)は2年連続増加。一方で、水産(77)、理(80)はいずれも大幅減少。工(78)は2年連続増加の反動で、大幅減少。教育(79)も大幅減少で、2年ぶりに減少。
	後	-460	82	-281	90	261	2,096	290	2,556	297	2,837	大幅減少で、2年連続減少。学部別では、水産(107)を除いた学部が減少で、特に歯(39)は前年度大幅増加の反動で激減、医(保健)(44)は2年連続大幅減少、共同獣医(68)は2年連続大幅減少。
琉球大	前	-136	96	-168	95	988	2,934	989	3,070	989	3,238	2年連続減少。学部別では、教育(122)は3年連続減少の反動で、大幅増加。理(110)は2年ぶりに増加。工(103)は2年連続増加。一方で、医(医)(69)は大幅減少で、2年連続減少。国際地域(90)は2年連続減少。
	後	-311	89	+84	103	239	2,552	240	2,863	240	2,779	2年連続増加の反動で減少。教育(117)は、3年連続減少の反動で、大幅増加。一方で、医(医)(70)は2年連続増加の反動で、大幅減少。医(保健)(77)は4年連続減少。理(83)は前年度大幅増加の反動で、大幅減少。
広島市立大	前	-77	90	+16	102	240	672	240	749	240	733	2年連続増加の反動で減少。学部別では、国際(124)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。一方で、情報科学(76)は2年連続大幅増加の反動で、大幅減少。芸術(96)は2015年度以降の反動による増減が継続。
	後	+3	100	-10	99	87	862	87	859	87	869	4年連続減少の反動はみられず、前年度並。学部別では、国際(190)は前年度半減以上の反動で激増。一方で、芸術(81)は前年度増加の反動で、大幅減少。情報科学(84)も前年度大幅増加の反動で、大幅減少。
北九州市立大	前	-439	85	+301	111	725	2,568	720	3,007	714	2,706	前年度増加の反動で、大幅減少。学部別では、国際環境工(110)は2年連続大幅減少の反動で増加。一方で、法(68)は前年度大幅増加の反動で、30%以上の大幅減少。文(80)、経済(80)も大幅減少。
	後	-535	78	+214	110	166	1,870	166	2,405	161	2,191	前年度増加の反動で、大幅減少。学部別では、文(107)はやや増加だが、他の4学部はいずれも大幅減少。特に、外国語(57)は前年度倍増以上の反動から、経済(58)は系統への低い人気から40%以上の大幅減少。
九州歯科大	前	-144	66	-45	90	100	282	100	426	100	471	3年連続減少。学科別では、(歯)(61)は大幅減少で、3年連続減少。志願倍率は3倍を下回った。(口腔保健)(100)は前年度大幅減少の反動はなく、前年度と志願者数は同人数。